

St. Luke's International University Repository

聖路加国際大学看護教育100周年記念事業 卒業生動向調査調査結果報告書

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2021-08-19 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10285/00016507

This work is licensed under a Creative Commons
Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0
International License.





聖路加国際大学看護教育 100 周年記念事業

卒業生動向調査結果報告書

聖路加国際大学卒業生動向調査ワーキンググループ

2020 年

卒業生動向調査結果報告書

目次

1. はじめに.....	1
2. 調査方法.....	4
3. 回答者基本情報.....	5
4. 在学中に受けた教育	11
4.1. 看護基礎教育について.....	11
4.2. 修士課程（博士前期課程）について	29
4.3. 博士後期課程について.....	42
5. 就業経験（キャリア）、社会的活動.....	47
6. 卒業生動向調査のまとめ	57
7. 資料.....	60
7.1. 資料1 調査表.....	60
7.2. 資料2 報告書（速報版）	70
7.3. 資料3 聖路加国際大学における校名・看護教育課程の変遷と卒業・修了生数	75
7.4. 資料4 関連論文書誌事項.....	76
8. おわりに.....	77

1. はじめに

聖路加国際大学看護教育 100 周年記念事業

卒業生動向調査報告書の完成に寄せて

学長 堀内成子

1920 年秋、聖路加国際病院附属高等看護婦学校が開設された。当時、すでに日本で看護教育は始まっていたが、R.B.トイスラー博士は「医学の水準は十分でありながら、患者が回復できないのは看護が不十分だからである」と新たな学校を創立した。学生の要件として、それまでの高等小学校卒業で十分とされていた資格を、高等女学校卒業とした。学校評議員の多くは、それは無理、失敗に終わるからと、その資格要件を下げるように進言した。しかし、トイスラー博士は頑として主張を曲げなかった。トイスラー博士はアリス・C.セントジョンと共に、日本の看護婦の教養と社会的地位の向上を願い、理想実現のために小学校卒業資格だけでは不十分であると主張した。1920 年 10 月に 80 名が応募し、25 名の入学を許可したのである。これは日本の看護教育史上、画期的な出来事である。

その後、1927 年に日本での最初の旧制看護専門学校「聖路加女子専門学校」として認可され、一学年 10～15 名定員で教育が行われた。1941 年に入り戦時色濃厚になってから校名に外国語名称を用いることが禁止され、「興健女子専門学校」と改称を余儀なくされた。1945 年 8 月終戦後、米国による接収のため一時期休校を経て、12 月には校名を「聖路加女子専門学校」に戻し、1946 年から GHQ 看護課のオルト課長の指導のもと日本赤十字社の看護養成所と合同して、日本赤十字中央病院内に、「東京看護教育模範学院」の名のもとに教育が続けられた。1953 年に学校法人の認可を受けた聖路加看護学園となり、1954 年には学校教育法に基づく「聖路加短期大学」の許可を受けた。1958 年に専攻科を加え、保健婦助産婦看護婦法に基づく保健婦学校の指定、1962 年に助産婦学校の指定を受けた。その後 1964 年 1 月に聖路加看護大学に昇格し、入学定員は 40 名となった。1976 年に他の看護短期大学卒業者が編入する制度を採用し、短大卒後の学士課程の道を拓いた。国公私立看護系大学でのこの制度の開始は本学が最初だった。その後 20 年を経て、看護短期大学編入制度を止め、一般大学（非看護学部）の学士編入制度（2 年次編入）を開始し、またその 20 年後に日本初の学士編入制度を 3 年次編入（2 年で卒業）に切り替えた。社会のニーズに対応して教育を展開してきた足跡である。

1974 年に就任した日野原重明学長は、将来大学院博士課程を開設したいと、大学院で教授できる人材の育成に力を注いだ。1980 年に大学院修士課程が、そして念願の博士課程は 1988 年に文部省から認可され、博士後期課程の発足は日本の国公私立看護系大学の中で本学が最初となった。

そして 2020 年、フローレンス・ナイチンゲール生誕 200 年にあたる記念すべき年に、聖路加国際大学は、看護教育 100 周年を迎えた。看護学部の一学年定員は 100 人、学士編入 30 人、そして大学院看護学研究科修士課程の一学年定員は 50 人、博士後期課程 20 人、そして大学院公衆衛生学研究科を持つ大学に発展した。

看護教育 100 周年記念事業の一環として、卒業生の動向調査のワーキンググループが構成され、亀井智子教授をリーダーに精力的にデーター収集・分析を行ってくださった。1,262 名の回答者は、聖路加女子専門学校、興健女子専門学校、聖路加短期大学、聖路加看護大学・大学院、聖路加

国際大学・大学院と幅広く国内外の卒業生がこの調査に協力してくださった。

振り返ると 1984 年に聖路加看護大学開学満 20 周年記念事業として、吉田時子教授をリーダーとして行われた同窓生の動向調査から 36 年、2000 年に大学院看護学研究科開設 20 周年記念事業として、小澤道子教授をリーダーとして行われた大学院修了生の動向以降、20 年を経ての調査である。

調査結果から、本学卒業生の特徴と思われた点を紹介する。

卒業・修了後から現在に至るまでに経験した勤務先として最も多いのは、病院の 81.3%であり、次いで教育・研究機関（小中高等学校、大学・研究機関等）での勤務経験が 56.1%であった。就業経験の特徴は、「医療・福祉臨床」が占める割合が全体として多数を占め、卒業後の期間が経過すると「看護教育・教育機関」に転職していた。指導的地位にある職の経験状況については、中等後教育機関における教授が多く、医療・福祉機関の管理職、学会や職能団体の理事長、地方公共団体の課長級以上の経験者が多かった。医療・看護の実践、看護教育や研究、看護管理の推進を通じて、看護学の発展に貢献していることがうかがえる。まさに本学卒業生の特徴は、リーダーの役割を担ってきていることがわかる。

就労継続の特徴として、卒業年次が新しいほど就労継続者の割合が高かった。2000 年以降の卒業生グループ（447 人）と、1979 年までの卒業生グループ（184 人）と比べると、卒後 3 年後の「医療・福祉臨床」の就業割合は、1979 年までの卒業グループ 73 人（39.7%）に対して、2000 年以降卒業グループ 286 人（80.3%）であった。2000 年以降の卒業生の方が、2 倍の比率で就業を継続していた。同様に卒後 5 年、卒後 10 年で比較すると、同様の結果であった。時代の流れの中での就労意識の変化や、就労継続しやすい環境整備の取り組みが反映されていると思われる。

そして、大学院教育の成果が見えたことは、大変嬉しいことである。回答者（1,262 名）のうち看護基礎教育を本学で受けた群（1,024 人）においては、修士号取得者は 301 人（29.4%）、博士号取得者は 117 人（11.4%）を占めていた。武村らの調査（2019）によれば、一般の看護師免許取得後の修士課程修了者は 1%、博士後期課程修了者は 0.6%であり、本調査の対象者はいずれも 10 倍以上であった。この学位取得者の割合が高いことは、「看護教育・研究機関」に従事する割合の高いことの背景になっている。

これは、4 年制大学昇格後に日野原重明学長が意図した大学院教育による若手研究者・教育者を続けてきたことの実りであり、大変嬉しい数字である。看護・医療福祉の臨床から専門職業人としての研鑽を積み、その後アカデミアに戻る機会を経て、教育・研究機関で就業している。1993 年には 11 大学であった看護系大学が、2019 年度には 272 大学へと急増した社会のニーズに卒業生は呼応し、新たな看護・保健医療系大学の新設に関わり、教育・研究をリードしてきたことが推察できる。常に、新しいことに挑戦し続け、道を切り拓いて行く精神が引き継がれてきた思いである。

2020 年は、誰もが予想しなかった新型コロナウイルス世界的流行の疫病災害に見舞われ、医療、政治・経済、国際交流、社会生活が一変した。歴史を見れば、それぞれの時代に大地震、戦争、様々な困難に会いながらも、先輩は不屈の精神で立ち上がってきたことがわかる。聖路加に集うひとりひとりが最善と考える方向にむかって、教育・研究・臨床を展開してきた成果の実りを、この調査報告書から読み取る思いである。全教職員が、創立者トイスラー博士の夢を追い続けて、努力を続けた賜物であると信じます。

次なる 30 年後、50 年後は、どのような卒業生の特徴になっているのでしょうか。時代の求めに応じて、保健・医療・看護における実践・教育・研究の指導者を育成し、「知と感性と愛のアート」が示すキリスト教の建学の精神を受け継ぐ人材を国内外に送り出す役割を担い続けることを願います。

この調査にご尽力いただきました卒業生の皆様をはじめ、同窓会役員の皆様、卒業生動向調査ワーキンググループの皆様に心より感謝申し上げます。

卒業生動向調査結果報告書に寄せて

同窓会会長 小松 美穂子

今回の調査は聖路加看護教育 100 周年記念事業の一環として本学卒業生の動向調査が行われ、この度その結果が報告されました。示唆に富んだ分析結果をおまとめくださいました調査ワーキンググループメンバーの皆様に深く感謝いたします。また多くの同窓生が調査に協力くださいましたこと、これもまた嬉しいかぎりです。

昭和 54 年の同窓会だよりによると、大学認可 15 年目にあたる創立 60 周年時に同窓生動向調査を行っています。この調査では多くの卒業生が聖路加で受けた教育で社会に出て 1 番役立った内容は「真の看護の理念、センス、技術、態度等を徹底的に教育された」ことと応えています。今回の調査からもこの内容と関連する結果をみることができます。

本報告書からあらためて同窓会の責任と役割を認識いたしました。

これからも大学と共に 100 年の歴史を引き継ぎ、大学のさらなる発展に尽くさねばならないと思っております。

貴重なご報告、有難うございました。

2. 調査方法

1) 調査対象

聖路加国際大学(前身校含む)において看護教育・大学院教育を受けて卒業・修了したのべ 5,697 名(2019 年 3 月現在)のうち、同窓会で居住住所を把握している者 3,771 名(2019 年 8 月現在)、および卒後も使用できる大学提供のメールアドレスへの呼びかけを行った約 500 名(3,771 名との重複あり)。

2) 調査方法

無記名自記式調査票、および返信用封筒を個別に郵送した。

回収率を上げるための広報として①調査協力の依頼、および調査回答用 URL を聖路加同窓会ウェブサイトに掲載、②聖路加国際病院ナースマネージャー会に案内チラシを配布し、周知協力の依頼、③卒業後も使用が可能である本学在学時のメールアドレスへのメール配信を行った。

3) 調査内容

調査内容は、回答者の属性、本学在学中の教育内容、卒業後のキャリアの概要とした。回答したくない項目には、回答しなくてよいことを説明文に記した。

4) 回答方法

2 種類の方法の中から、回答者に自ら選んで回答してもらった。

- ① 調査用紙に回答を記載し、同封の返信用封筒を用いて返送する方法
- ② 調査説明文内に記した QR コードから調査用ウェブサイトアクセスして、ウェブ上で回答する方法

5) 個人情報の保護

回答は統計的に処理し、個人を特定する情報は収集しないこととした。収集した情報は本調査に関する目的に限り使用した。

6) 調査時期

2019 年 9 月～2020 年 1 月 6 日

7) 結果の公表

本解析結果をまとめた本報告書は聖路加国際大学ホームページで公開する。また、要約版は看護教育 100 周年記念誌に寄稿する。さらに卒業後のキャリア形成については、別途解析を加え、聖路加国際大学紀要に投稿し、掲載が決定している。

3. 回答者基本情報

1) 回答件数

調査票返送数は749件、ウェブ回答513件、合計1,262件であった（回収率33.4%）。

2) 回答者の属性

回答者の年齢は22歳から100歳にわたり、平均年齢（標準偏差）47.3（15.8）歳で、30歳代が最も多く、次いで40歳代が多かった。

性別は女性1,230名（97.5%）、男性22名（1.7%）、婚姻状況は「結婚している」が803名（63.6%）、「結婚したことはない」が334名（26.5%）であった（表1）。

居住地域は関東地方が最も多く75.1%を占めたが、全国に分布している（表2）。

表 1 回答者の属性（n=1,262）

項目	回答	n	(%)
年齢	平均±標準偏差	47.3	15.8
年代	20歳代	178	(14.1)
	30歳代	266	(21.1)
	40歳代	256	(20.3)
	50歳代	247	(19.6)
	60歳代	155	(12.3)
	70歳代	79	(6.3)
	80歳代	32	(2.5)
	90歳代以上	6	(0.5)
	合計	1219	(96.6)
性別	男性	22	(1.7)
	女性	1230	(97.5)
	どちらでもない	2	(0.2)
	合計	1254	(99.4)
現在の婚姻状況	結婚したことはない	334	(26.5)
	結婚している（事実婚を含む）	803	(63.6)
	離別・死別した	108	(8.6)
	合計	1245	(98.7)
居住地域	北海道地方	21	(1.7)
	東北地方	37	(2.9)
	関東地方	948	(75.1)
	中部地方	82	(6.5)
	関西地方	80	(6.3)
	中国地方	17	(1.3)
	四国地方	11	(0.9)
	九州・沖縄地方	37	(2.9)
	国外	22	(1.7)
	合計	1255	(99.4)

表 2 居住地域（県別） (n=1,262)

地方	都道府県	n	%
北海道地方		21	(1.7)
	北海道	21	(1.7)
東北地方		37	(2.9)
	青森県	5	(0.4)
	岩手県	6	(0.5)
	宮城県	10	(0.8)
	秋田県	5	(0.4)
	山形県	3	(0.2)
	福島県	8	(0.6)
関東地方		948	(75.1)
	茨城県	18	(1.4)
	栃木県	9	(0.7)
	群馬県	8	(0.6)
	埼玉県	69	(5.5)
	千葉県	86	(6.8)
	東京都	591	(46.8)
	神奈川県	167	(13.2)
中部地方		82	(6.5)
	新潟県	15	(1.2)
	富山県	6	(0.5)
	石川県	3	(0.2)
	山梨県	5	(0.4)
	長野県	14	(1.1)
	静岡県	20	(1.6)
	愛知県	19	(1.5)
関西地方		80	(6.3)
	三重県	5	(0.4)
	滋賀県	6	(0.5)
	京都府	14	(1.1)
	大阪府	28	(2.2)
	兵庫県	22	(1.7)
	奈良県	4	(0.3)
	和歌山県	1	(0.1)
中国地方		17	(1.3)
	島根県	3	(0.2)
	岡山県	2	(0.2)
	広島県	10	(0.8)
	山口県	2	(0.2)
四国地方		11	(0.9)
	徳島県	1	(0.1)
	香川県	1	(0.1)
	愛媛県	5	(0.4)
	高知県	4	(0.3)
九州・沖縄地方		37	(2.9)
	福岡県	17	(1.3)
	佐賀県	2	(0.2)
	長崎県	4	(0.3)
	熊本県	7	(0.6)
	宮崎県	2	(0.2)
	鹿児島県	1	(0.1)
	沖縄県	4	(0.3)
国外		22	(1.7)
合計		1255	(99.4)

3) 卒業/修了した課程

表3の通り、看護基礎教育課程を卒業した1,026名が回答し、そのうち804名(78.4%)は聖路加看護大学・聖路加国際大学であったが、聖路加女子専門学校(1927～1941年、1945～1954年)17名、興健女子専門学校(1941～1945年)1名、聖路加短期大学(1954～1964年)57名の回答も得られ、幅広い世代からの回答があった。

修士課程(博士前期課程)を修了したと答えたのは326名であり、うち250名(76.7%)が看護学専攻、76名(23.3%)がウィメンズヘルス・助産学専攻であった。博士号取得者は、研究者(PhD)コースを修了した者が71名(79.8%)、論文博士が18名(20.2%)、合計89名の回答があった。全回答者の7.1%が博士後期課程修了者であった(表3)。

表3 卒業・修了課程 (n=1,262)

課程	n	(%)
看護基礎教育課程*1		
聖路加女子専門学校	17	(1.7)
興健女子専門学校	1	(0.1)
聖路加短期大学	57	(5.6)
聖路加看護大学・聖路加国際大学	804	(78.4)
聖路加看護大学短大卒3年次編入	49	(4.8)
聖路加看護大学・聖路加国際大学2年次学士編入	86	(8.4)
聖路加国際大学3年次学士編入	15	(1.5)
修士課程(博士前期課程)*2		
看護学	250	(76.7)
ウィメンズヘルス・助産学	76	(23.3)
合計	326	25.8
博士後期課程*3		
研究者(PhD)コース	71	(79.8)
論文博士	18	(20.2)
合計	89	7.1

*1: 複数回答, (%)は回答者数1026名に対する割合を示す

*2*3: 単一回答, (%)は有効回答中のパーセントを示し、カッコなし%は回答者数(1262名)に対する割合を示す

4) 学位の取得状況

回答者の学位の取得状況を表4に示した。全体で1,146人(90.8%)の回答者が学士の学位を取得しており、修士号取得者は512人(40.6%)、博士号取得者は184人(14.6%)であった。看護基礎教育を本学で受けた群においては301人(29.4%)が修士号、117人(11.4%)が博士号を取得していた。

本学以外で取得した学位は「学士」278名(22.0%)、「修士」169名(13.4%)、「博士」95名(7.5%)であった。また、本学以外で取得した看護分野に関する学位は、「学士」121名(9.6%)、「修士」62名(4.9%)、「博士」23名(1.8%)であった。看護学以外の学位や海外で学位を取得した者もあり、多彩で高度な研究や実践に関する知識を備える回答者が多い結果であった(表5)。

海外で取得した学位の学位名、取得国、回答者数は表 6 に示した。

表 4 回答者の学位の取得状況

	看護基礎教育を受けた機関					
	本学		本学以外		合計	
	(n=1024)		(n=238)			
	度数	(%)	度数	(%)	度数	(%)
学士	959	(93.7%)	187	(78.6%)	1146	(90.8%)
修士	301	(29.4%)	211	(88.7%)	512	(40.6%)
博士	117	(11.4%)	67	(28.2%)	184	(14.6%)

注: 基礎教育には専門学校、短期大学等も含むため、学士号取得者は 100%にはならない。

表 5 本学以外で取得した学位（国内）(n=1,262)

	n	(%)
学士	278	(22.0)
看護	121	(9.6)
看護以外	157	(12.4)
修士	169	(13.4)
看護	62	(4.9)
看護以外	107	(8.5)
博士	95	(7.5)
看護	23	(1.8)
看護以外	72	(5.7)

表 6 本学以外で取得した学位(海外)

学位名	取得国	回答者数
看護学学士号	米国	2
	オーストラリア	1
看護学修士号	米国	3
	英国	1
	オーストラリア	1
看護学博士号	米国	2
看護学以外の準学士号	米国	1
看護学以外の学士号	米国	5
	-	1
看護学以外の修士号	米国	5
	カナダ	1
	英国	4
	オーストラリア	1
看護学以外の博士号	米国	5
専門学校	英国	1

5)資格・免許の取得状況

取得した免許・資格は、本学の看護基礎教育課程で取得可能である看護師が 99.7%、2014 年度まで本学の看護基礎教育課程で国家試験受験資格が取得可能であった保健師が 84.5%であった。2005 年より修士課程での教育が始まった助産師は 22.0%となっていた。また、保健師免許を有する者が申請することによって取得可能な養護教諭 2 種免許は 22.9%であった。この他、認定看護師、専門看護師をはじめとする高度実践看護師の資格を有する回答者も少なくとも 80 名いた(表 7)。

さらに、海外で取得した資格・免許と取得国は、表 8 に示すように多様であった。

このように、様々な免許や資格を取得して、国内外で活躍していることが推察された。

表 7 国内で取得した資格・免許

	n	(%)
看護師	1249	(99.7)
保健師	1059	(84.5)
助産師	276	(22.0)
医師	1	(0.1)
理学療法士	1	(0.1)
栄養士	3	(0.2)
養護教諭(1種)	116	(9.3)
養護教諭(2種)	287	(22.9)
受胎調節実地指導員	98	(7.8)
公認心理士/臨床心理士	11	(0.9)
専門看護師*1	59	(4.7)
認定看護師*2	18	(1.4)
NP・診療看護師*3	2	(0.2)
特定行為研修の修了(特定看護師)	4	(0.3)
その他の資格・免許*4	298	(23.8)
取得した資格・免許はない	1	(0.1)

note: 表中(%)は、回答者数 1253 名に対する割合を示す

*1-4: 自由記載による詳細については以下の通り () 内は人数

専門看護師;がん看護(14)、小児看護(12)、精神看護(10)、急性・重症患者看護(6)など

認定看護師:認定看護管理者(3)、感染管理(2)、皮膚・排泄ケア(2)など

NP・診療看護師;周麻酔期看護(1)、成人・老人プライマリ・ケア(1)

その他:衛生管理者、弾性ストッキングコンダクター、糖尿病重症化予防(フットケア)

表 8 海外で取得した資格・免許

資格・免許	取得国	回答者数
看護師	米国	8
	英国	1
	旧西独	1
	オーストラリア	1
	韓国	1
看護学修士	米国	1
精神科クリニカルナーススペシャリスト	米国	1
Family Nurse Practitioner	米国	1
Kenya Registered Nurse	ケニア	2
助産師	旧西独	1
準看護師	オーストラリア	1
パラメディック	米国	1
ACNP	米国	1
Pathlogy Collector	オーストラリア	1
SoCRA CCRP	米国	1
CTH	-	1
熱帯医学ディプロマ	英国	1
Driving License	ケニア	1
運転免許	米国	1
観光医療ガイド資格	韓国	1
Certificate 3	オーストラリア	1

6) 過去 3 年以内に参加した同窓会のイベント

73.4%が「参加したものはなし」と回答した。参加したイベントでは、総会 14.9%で最も多く、次いで支部総会が 10.0%であった（表 9）。

表 9 過去 3 年以内の同窓会イベントの参加状況（複数回答）

	n	(%)
総会	179	(14.9)
支部総会	120	(10.0)
クラス委員連絡会	79	(6.6)
その他	51	(4.2)
参加したものはなし	883	(73.4)

note: 表中(%)は、回答者数 1203 名に対する割合を示す
 その他は、クラス会、クラス同窓会、講演会等

4. 在学中に受けた教育

4.1. 看護基礎教育について

1) 卒業した看護基礎教育課程

看護基礎教育の卒業課程は、全回答者 1,262 名のうち 1,026 名（81.3%）から回答があった。

78.4%は聖路加看護大学・聖路加国際大学であった。また、14.6%は編入課程を卒業していた。卒業時の年齢は、高校卒業後に看護基礎教育課程に進学したと思われる 21～25 歳が最も多かったが、それより上の年齢で卒業した者は、聖路加看護大学・聖路加国際大学のほか短大や大卒編入課程の卒業生に多かった。

一方、20 歳以下と答えた回答者は、聖路加女子専門学校、興健女子専門学校、聖路加短期大学、聖路加看護大学・聖路加国際大学の卒業生であった。専門学校時代は現行の 4 年制課程よりも修業年限が短かったこと、また、1940 年代には繰上げ卒業を行っていた期間があったことが理由と考えられた（表 10, 11）。

聖路加女子専門学校時代の 27 年間のうち、校名を「興健女子専門学校」とした時期が 4 年間半あった（1941 年 7 月～45 年 12 月）。本集計では、興健女子専門学校卒業生の回答(n=1)は、聖路加女子専門学校卒業生の回答に含めている。校名、教育課程の変遷については資料 3（p74）を参照されたい。

表 10 卒業した看護基礎教育課程（複数回答）

	n	(%)
聖路加女子専門学校	17	(1.7)
興健女子専門学校	1	(0.1)
聖路加短期大学	57	(5.6)
聖路加看護大学・聖路加国際大学	804	(78.4)
聖路加看護大学短大卒 3 年次編入	49	(4.8)
聖路加看護大学・聖路加国際大学 2 年次学士編入	86	(8.4)
聖路加国際大学 3 年次学士編入	15	(1.5)

note: 表中(%)は、回答者数 1026 名に対する割合を示す

表 11 看護基礎教育課程卒業年齢及び卒業年

	全体		聖路加女子 専門学校		聖路加短期 大学		聖路加看護 大学・聖路 加国際大学		聖路加看護 大学短大卒 3 年次編入		聖路加看護 大学・聖路 加国際大学 2 年次学士 編入		聖路加国際 大学 3 年次 学士編入	
	(n=1262)		(n=18)		(n=57)		(n=804)		(n=49)		(n=86)		(n=15)	
	n	(%)	n	(%)	n	(%)	n	(%)	n	(%)	n	(%)	n	(%)
卒業年														
1940 年代	5	(0.4)	4	(26.7)	0	(0.0)	0	(0.0)	0	(0.0)	0	(0.0)	0	(0.0)
1950 年代	23	(1.8)	11	(73.3)	10	(18.9)	0	(0.0)	0	(0.0)	0	(0.0)	0	(0.0)
1960 年代	61	(4.8)	0	(0.0)	43	(81.1)	17	(2.1)	2	(4.5)	0	(0.0)	0	(0.0)
1970 年代	112	(8.9)	0	(0.0)	0	(0.0)	108	(13.6)	2	(4.5)	0	(0.0)	0	(0.0)
1980 年代	180	(14.3)	0	(0.0)	0	(0.0)	156	(19.7)	16	(36.4)	0	(0.0)	0	(0.0)
1990 年代	181	(14.3)	0	(0.0)	0	(0.0)	148	(18.7)	24	(54.5)	0	(0.0)	1	(11.1)
2000 年代	210	(16.6)	0	(0.0)	0	(0.0)	160	(20.2)	0	(0.0)	48	(59.3)	0	(0.0)
2010 年代	250	(19.8)	0	(0.0)	0	(0.0)	204	(25.7)	0	(0.0)	33	(40.7)	8	(88.9)
合計	1022	81.0	15	83.3	53	93.0	793	98.6	44	89.8	81	94.2	9	60.0
卒業年齢														
平均±標準偏差	23.5	4.7	21.3	0.9	21.4	0.8	22.9	4.1	26.5	5.7	28.8	5.7	30.8	6.6
20 歳以下	13	(1.0)	3	(21.4)	4	(7.1)	5	(0.6)	0	(0.0)	0	(0.0)	0	(0.0)
21-25 歳	884	(70.0)	11	(78.6)	52	(92.9)	745	(94.4)	25	(53.2)	28	(34.1)	3	(23.1)
26-30 歳	78	(6.2)	0	(0.0)	0	(0.0)	19	(2.4)	18	(38.3)	34	(41.5)	4	(30.8)
31-35 歳	19	(1.5)	0	(0.0)	0	(0.0)	4	(0.5)	1	(2.1)	9	(11.0)	3	(23.1)
36-40 歳	14	(1.1)	0	(0.0)	0	(0.0)	1	(0.1)	2	(4.3)	8	(9.8)	2	(15.4)
41-45 歳	6	(0.5)	0	(0.0)	0	(0.0)	5	(0.6)	0	(0.0)	1	(1.2)	0	(0.0)
46-50 歳	5	(0.4)	0	(0.0)	0	(0.0)	3	(0.4)	0	(0.0)	1	(1.2)	1	(7.7)
51 歳以上	9	(0.7)	0	(0.0)	0	(0.0)	7	(0.9)	1	(2.1)	1	(1.2)	0	(0.0)
合計	1028	81.5	14	77.8	56	98.2	789	98.1	47	95.9	82	95.3	13	86.7

note:表中(%)は有効回答中のパーセントを示し、カッコなし%は該当者数の回答者割合を示す

聖路加女子専門学校の回答に興健女子専門学校の回答(n=1)を含めている

2) 在学中の学習姿勢

各問の学習姿勢について「そう思う」・「とてもそう思う」と回答した者が半数を超えた項目は「3) グループワーク・討議に積極的に取り組んだ」、「4) 実習または演習に積極的に取り組んだ」、「6) 図書やインターネットでの調査・学習に積極的に取り組んだ」等、7項目であった。特に実習・演習への取り組みは、いずれの課程においても積極的に取り組んだとしたものが最も多かった。

これらを卒業課程別にみると、短大卒3年次編入、学士2年次編入および3年次編入卒業生において「そう思う」・「とてもそう思う」と回答した割合が高かった。戦後混乱期など、社会情勢によって図書などの学習資源の入手が困難であった時期もある中¹、積極的な姿勢で学習に取り組む姿勢をもつ者が多かったと言えよう。

「8) 海外研修・短期留学などの活動に積極的に取り組んだ」では、いずれの卒業課程でも「まったくそう思わない」・「そう思わない」と回答した者が過半数であった。他大学の看護学生における国際的活動の意識調査²によると、関心を持つ国際活動としてボランティアや病院見学等が挙げられている。現在本学では、多数の海外協定校への留学プログラムをもち留学支援のための奨学金制度を設けている。学生にとって海外での活動に取り組む機会は用意されていると言え、積極的な活用をさらにはかるための支援も必要であろう（表12、図1-図9）。

表 12 各看護基礎教育課程在学中の学習姿勢

	全体	聖路加女子 専門学校	聖路加短期 大学	聖路加看護 大学・聖路 加国際大学	聖路加看護 大学短大卒 3年次編入 (n=)	聖路加看護 大学・聖路 加国際大学 2年次編入 (n=)	聖路加国際 大学3年次 編入 (n=)
	(n=1262)	(n=18)	(n=57)	(n=804)	(n=49)	(n=86)	(n=15)
	n (%)	n (%)	n (%)	n (%)	n (%)	n (%)	n (%)
1) 目標を立てて計画的に学習した							
まったくそう思わない	41 (3.9)	0 (0.0)	1 (2.0)	37 (4.6)	0 (0.0)	1 (1.2)	0 (0.0)
そう思わない	165 (15.8)	1 (6.3)	10 (19.6)	134 (16.8)	0 (0.0)	12 (14.0)	2 (13.3)
どちらともいえない	327 (31.3)	7 (43.8)	23 (45.1)	268 (33.5)	10 (20.4)	17 (19.8)	1 (6.7)
そう思う	453 (43.3)	6 (37.5)	16 (31.4)	325 (40.7)	36 (73.5)	43 (50.0)	10 (66.7)
とてもそう思う	60 (5.7)	2 (12.5)	1 (2.0)	35 (4.4)	3 (6.1)	13 (15.1)	2 (13.3)
合計	1046 82.9	16 88.9	51 89.5	799 99.4	49 100.0	86 100.0	15 100.0
2) 予習・復習に積極的に取り組んだ							
まったくそう思わない	55 (5.2)	0 (0.0)	1 (1.9)	52 (6.5)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
そう思わない	187 (17.8)	1 (6.7)	6 (11.3)	159 (19.9)	2 (4.1)	12 (14.0)	1 (6.7)
どちらともいえない	331 (31.6)	5 (33.3)	21 (39.6)	273 (34.1)	8 (16.3)	21 (24.4)	1 (6.7)
そう思う	412 (39.3)	7 (46.7)	23 (43.4)	287 (35.9)	31 (63.3)	36 (41.9)	11 (73.3)
とてもそう思う	63 (6.0)	2 (13.3)	2 (3.8)	29 (3.6)	8 (16.3)	17 (19.8)	2 (13.3)
合計	1048 83.0	15 83.3	53 93.0	800 99.5	49 100.0	86 100.0	15 100.0
3) グループワーク・討議に積極的に取り組んだ							
まったくそう思わない	12 (1.2)	1 (7.1)	0 (0.0)	10 (1.3)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
そう思わない	86 (8.2)	1 (7.1)	9 (17.6)	70 (8.8)	0 (0.0)	3 (3.5)	0 (0.0)
どちらともいえない	260 (24.9)	6 (42.9)	26 (51.0)	205 (25.7)	6 (12.2)	13 (15.1)	2 (13.3)
そう思う	544 (52.2)	6 (42.9)	14 (27.5)	422 (52.9)	27 (55.1)	48 (55.8)	9 (60.0)
とてもそう思う	141 (13.5)	0 (0.0)	2 (3.9)	91 (11.4)	16 (32.7)	22 (25.6)	4 (26.7)
合計	1043 82.6	14 77.8	51 89.5	798 99.3	49 100.0	86 100.0	15 100.0
4) 実習または演習に積極的に取り組んだ							
まったくそう思わない	8 (0.8)	0 (0.0)	1 (1.9)	7 (0.9)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (6.7)

¹ 聖路加の看護100のエピソード制作委員会. 聖路加の看護100のエピソード. 2020.

² 田村康子, 溝畑智子, 小林愛, 長谷川有里, 宇賀昭二, 菅野由美子. 看護学部学生の国際的活動に関する意識調査. 神戸女子大学看護学部紀要. 2018;3:65-76.

そう思わない	57	(5.4)	2	(14.3)	3	(5.6)	47	(5.9)	0	(0.0)	2	(2.3)	0	(0.0)
どちらともいえない	143	(13.6)	3	(21.4)	13	(24.1)	112	(14.0)	4	(8.2)	7	(8.1)	2	(13.3)
そう思う	567	(54.1)	4	(28.6)	32	(59.3)	436	(54.5)	28	(57.1)	41	(47.7)	9	(60.0)
とてもそう思う	273	(26.0)	5	(35.7)	5	(9.3)	198	(24.8)	17	(34.7)	36	(41.9)	3	(20.0)
合計	1048	83.0	14	77.8	54	94.7	800	99.5	49	100.0	86	100.0	15	100.0
5) 教員に積極的に質問した														
まったくそう思わない	45	(4.3)	1	(7.7)	2	(3.8)	40	(5.0)	0	(0.0)	1	(1.2)	0	(0.0)
そう思わない	223	(21.4)	4	(30.8)	5	(9.6)	196	(24.6)	3	(6.1)	10	(11.6)	0	(0.0)
どちらともいえない	431	(41.3)	4	(30.8)	38	(73.1)	328	(41.1)	16	(32.7)	30	(34.9)	7	(46.7)
そう思う	280	(26.8)	3	(23.1)	5	(9.6)	201	(25.2)	22	(44.9)	30	(34.9)	6	(40.0)
とてもそう思う	64	(6.1)	1	(7.7)	2	(3.8)	33	(4.1)	8	(16.3)	15	(17.4)	2	(13.3)
合計	1043	82.6	13	72.2	52	91.2	798	99.3	49	100.0	86	100.0	15	100.0
6) 図書やインターネットでの調査・学習に積極的に取り組んだ														
まったくそう思わない	29	(2.8)	2	(14.3)	2	(4.2)	24	(3.0)	0	(0.0)	0	(0.0)	0	(0.0)
そう思わない	145	(14.0)	2	(14.3)	7	(14.6)	124	(15.6)	0	(0.0)	5	(5.8)	0	(0.0)
どちらともいえない	299	(28.8)	6	(42.9)	27	(56.3)	238	(29.9)	7	(14.3)	13	(15.1)	4	(26.7)
そう思う	435	(41.9)	4	(28.6)	8	(16.7)	328	(41.2)	28	(57.1)	47	(54.7)	8	(53.3)
とてもそう思う	130	(12.5)	0	(0.0)	4	(8.3)	82	(10.3)	14	(28.6)	21	(24.4)	3	(20.0)
合計	1038	82.3	14	77.8	48	84.2	796	99.0	49	100.0	86	100.0	15	100.0
7) 他者に自分の意見や考えを伝える努力をした														
まったくそう思わない	15	(1.4)	1	(7.7)	1	(1.9)	11	(1.4)	0	(0.0)	0	(0.0)	0	(0.0)
そう思わない	118	(11.3)	4	(30.8)	11	(21.2)	94	(11.8)	1	(2.0)	5	(5.8)	0	(0.0)
どちらともいえない	283	(27.2)	3	(23.1)	22	(42.3)	226	(28.4)	9	(18.4)	15	(17.4)	2	(13.3)
そう思う	514	(49.4)	4	(30.8)	17	(32.7)	391	(49.1)	28	(57.1)	51	(59.3)	9	(60.0)
とてもそう思う	111	(10.7)	1	(7.7)	1	(1.9)	75	(9.4)	11	(22.4)	15	(17.4)	4	(26.7)
合計	1041	82.5	13	72.2	52	91.2	797	99.1	49	100.0	86	100.0	15	100.0
8) 海外研修・短期留学などの活動に積極的に取り組んだ														
まったくそう思わない	494	(48.2)	5	(38.5)	16	(36.4)	386	(48.9)	21	(43.8)	46	(53.5)	7	(46.7)
そう思わない	235	(22.9)	2	(15.4)	13	(29.5)	178	(22.6)	13	(27.1)	17	(19.8)	3	(20.0)
どちらともいえない	119	(11.6)	4	(30.8)	12	(27.3)	88	(11.2)	9	(18.8)	6	(7.0)	0	(0.0)
そう思う	104	(10.2)	1	(7.7)	3	(6.8)	84	(10.6)	2	(4.2)	9	(10.5)	3	(20.0)
とてもそう思う	72	(7.0)	1	(7.7)	0	(0.0)	53	(6.7)	3	(6.3)	8	(9.3)	2	(13.3)
合計	1024	81.1	13	72.2	44	77.2	789	98.1	48	98.0	86	100.0	15	100.0
9) 視野を広げる努力をした														
まったくそう思わない	26	(2.5)	2	(14.3)	4	(7.8)	19	(2.4)	0	(0.0)	0	(0.0)	0	(0.0)
そう思わない	102	(9.8)	3	(21.4)	6	(11.8)	80	(10.0)	2	(4.1)	5	(5.8)	1	(6.7)
どちらともいえない	226	(21.6)	2	(14.3)	19	(37.3)	185	(23.1)	4	(8.2)	11	(12.8)	2	(13.3)
そう思う	505	(48.3)	3	(21.4)	20	(39.2)	396	(49.4)	23	(46.9)	46	(53.5)	7	(46.7)
とてもそう思う	186	(17.8)	4	(28.6)	2	(3.9)	121	(15.1)	20	(40.8)	24	(27.9)	5	(33.3)
合計	1045	82.8	14	77.8	51	89.5	801	99.6	49	100.0	86	100.0	15	100.0

note:表中(%)は有効回答中のパーセントを示し、カッコなし%は該当者数の回答者割合を示す

聖路加女子専門学校の回答に興健女子専門学校の回答(n=1)を含めている

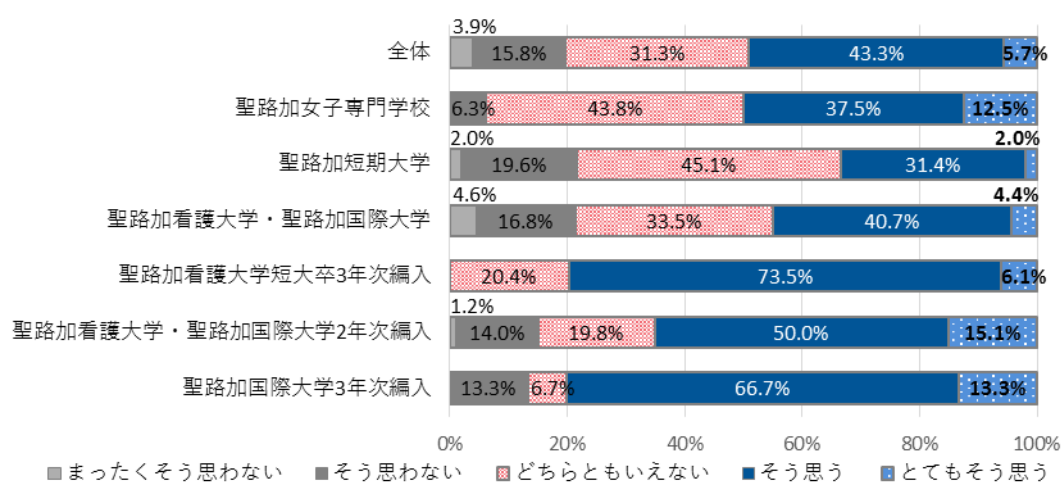


図 1 1) 目標を立てて計画的に学習した

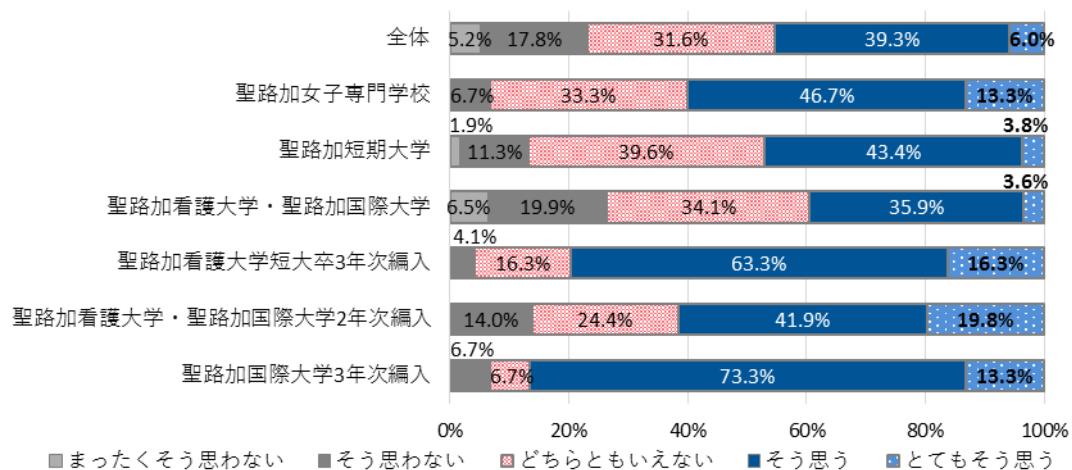


図 2 2) 予習・復習に積極的に取り組んだ

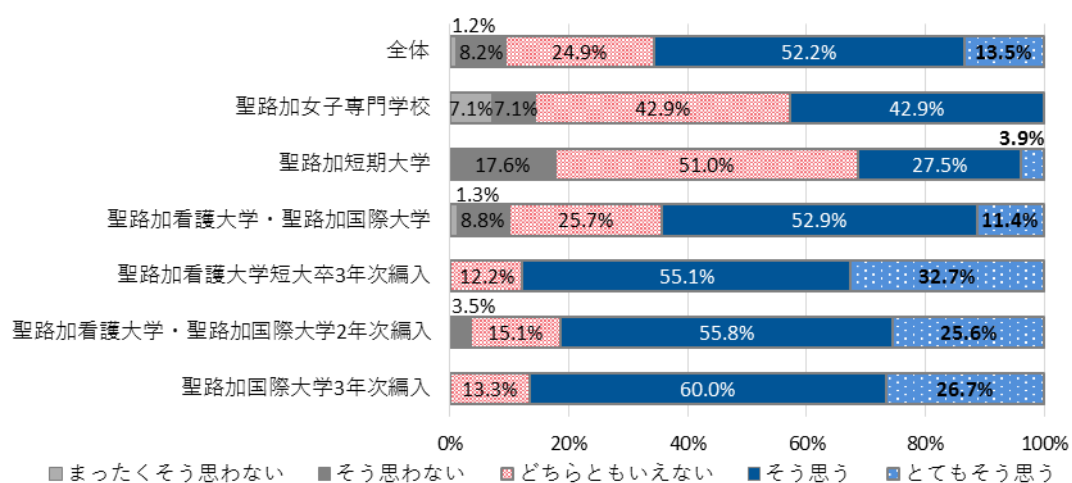


図 3 3) グループワーク・討議に積極的に取り組んだ

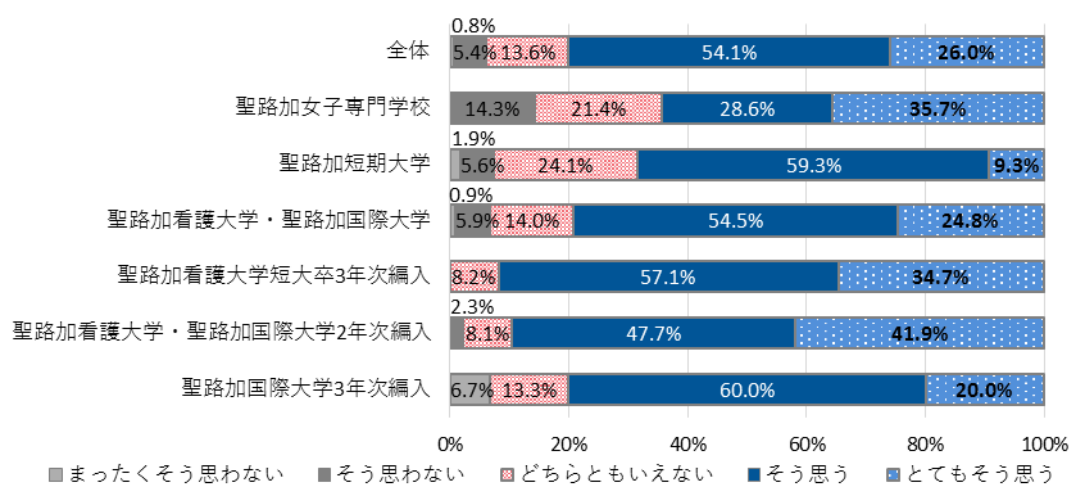


図 4 4) 実習または演習に積極的に取り組んだ

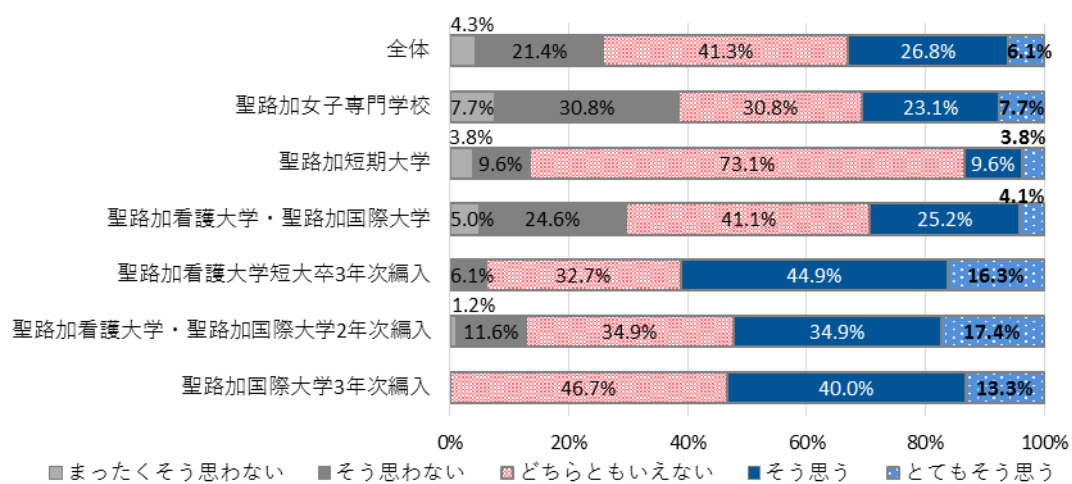


図 5 5) 教員に積極的に質問した

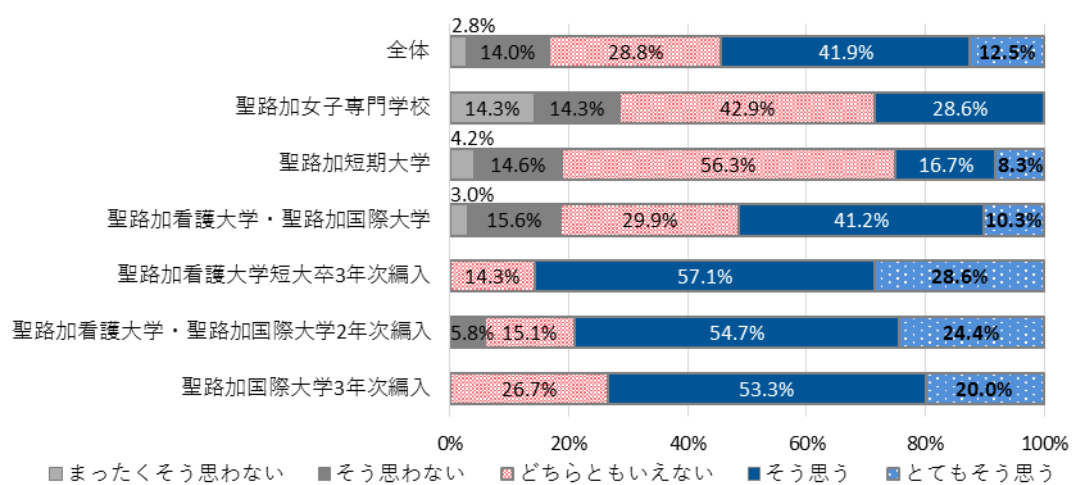


図 6 6) 図書やインターネットでの調査・学習に積極的に取り組んだ

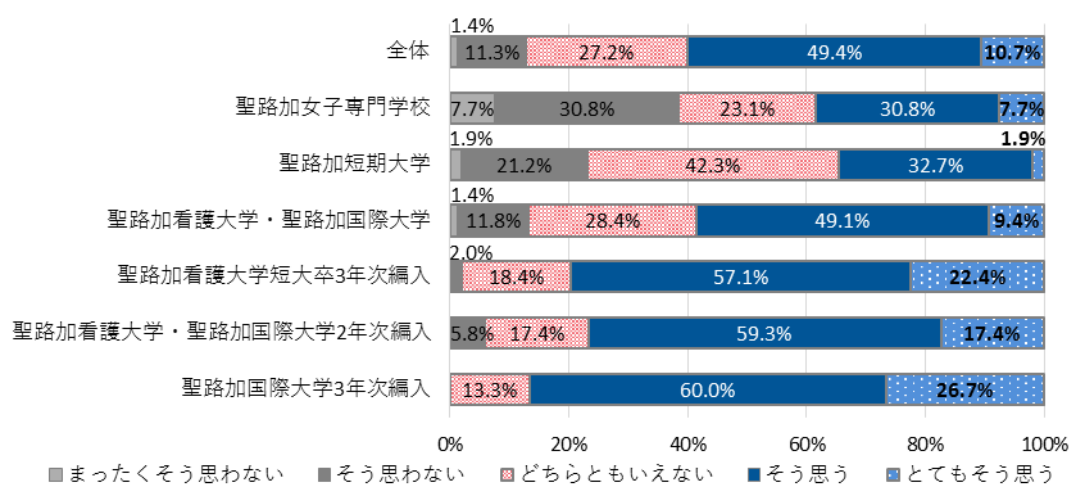


図 7 7) 他者に自分の意見や考えを伝える努力をした

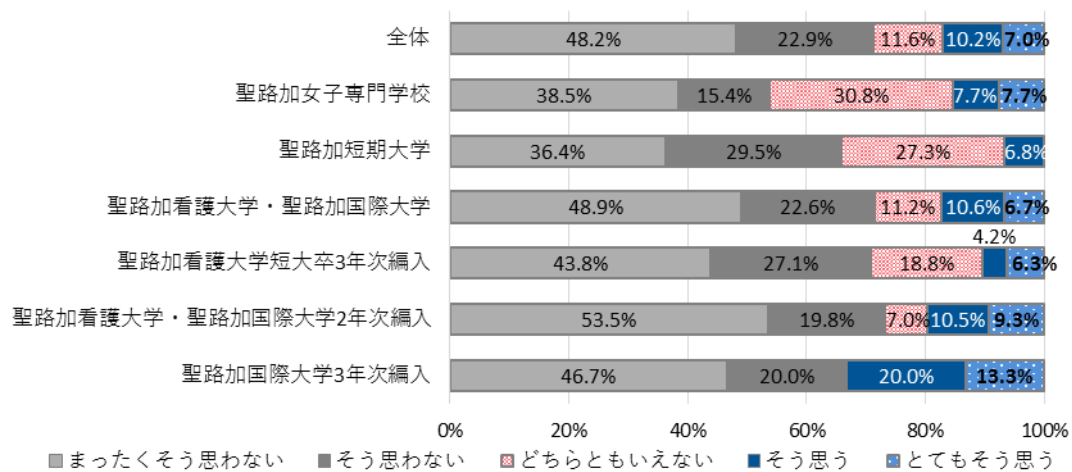


図 8 8) 海外研修・短期留学などの活動に積極的に取り組んだ

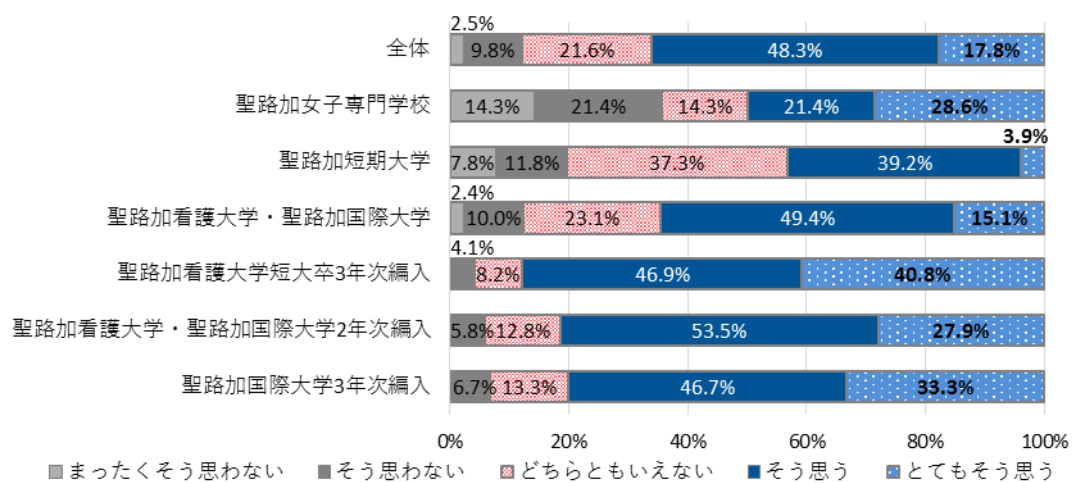


図 9 9) 視野を広げる努力をした

3) 卒業時に身につけた知識・能力

本学建学の精神である「キリスト教精神に基づく人類への奉仕」、「指導者としての能力の向上」、「看護と看護教育の進歩発展に努めること」等の修得について質問した。

「1) キリスト教精神にもとづいて、あらゆる文化背景の人々を理解し、共感の態度を身につけた」をはじめとする諸項目において「そう思う」・「とてもそう思う」が半数を超えていた。このことは、在学中に建学の精神が根付いていることの証左である。

「5) 生涯にわたり自己形成し、自立的、倫理的に行動する態度を身につけた」は「そう思う」・「とてもそう思う」とした回答が最も多く、70.6%（聖路加女子専門学校）～93.3%（聖路加国際大学3年次編入）に分布した。

「6) 国際的視点で人々が平等に健康を享受する社会の実現に貢献する姿勢を身につけた」では、聖路加女子専門学校の卒業生を除くすべての卒業課程で「どちらともいえない」の回答が最も多かった。実際に国際的活動をすることが国際的視点の広がりやケアの提供につながると考えられ、在学中の海外活動への支援や働きかけにより、卒業後も国際的視野を向上できるものと示唆される（表13、図10-図16）。

表 13 卒業時に身につけることができたと思う知識・能力〔看護基礎教育〕

	全体 (n=1262) n (%)		聖路加女子 専門学校 (n=18) n (%)		聖路加 短期大学 (n=57) n (%)		聖路加看護大 学・聖路加国 際大学 (n=804) n (%)		聖路加看護 大学短大卒 3年次編入 (n=49) n (%)		聖路加看護 大学・聖路 加国際大学 2年次編入 (n=86) n (%)		聖路加国際 大学3年次 編入 (n=15) n (%)	
1) キリスト教精神にもとづいて、あらゆる文化背景の人々を理解し、共感の態度を身につけた														
まったくそう思わない	28	(2.7)	0	(0.0)	1	(1.8)	23	(2.9)	1	(2.0)	2	(2.3)	0	(0.0)
そう思わない	101	(9.6)	0	(0.0)	8	(14.0)	77	(9.6)	4	(8.2)	7	(8.1)	2	(13.3)
どちらともいえない	352	(33.4)	5	(31.3)	14	(24.6)	275	(34.3)	15	(30.6)	24	(27.9)	7	(46.7)
そう思う	496	(47.1)	9	(56.3)	28	(49.1)	371	(46.3)	23	(46.9)	48	(55.8)	5	(33.3)
とてもそう思う	77	(7.3)	2	(12.5)	6	(10.5)	55	(6.9)	6	(12.2)	5	(5.8)	1	(6.7)
合計	1054	83.5	16	88.9	57	100.0	801	99.6	49	100.0	86	100.0	15	100.0
2) 看護専門職としてリーダーシップを発揮し、協働する能力を身につけた														
まったくそう思わない	24	(2.3)	0	(0.0)	1	(1.8)	22	(2.8)	0	(0.0)	1	(1.2)	0	(0.0)
そう思わない	150	(14.3)	1	(6.3)	8	(14.5)	122	(15.3)	2	(4.1)	11	(12.8)	0	(0.0)
どちらともいえない	381	(36.3)	5	(31.3)	25	(45.5)	287	(35.9)	13	(26.5)	32	(37.2)	4	(26.7)
そう思う	418	(39.8)	7	(43.8)	17	(30.9)	312	(39.0)	26	(53.1)	37	(43.0)	10	(66.7)
とてもそう思う	78	(7.4)	3	(18.8)	4	(7.3)	57	(7.1)	8	(16.3)	5	(5.8)	1	(6.7)
合計	1051	83.3	16	88.9	55	96.5	800	99.5	49	100.0	86	100.0	15	100.0
3) 幅広く学問を探究し、深く多角的に思考する力を身につけた														
まったくそう思わない	7	(0.7)	0	(0.0)	1	(1.9)	6	(0.7)	0	(0.0)	0	(0.0)	0	(0.0)
そう思わない	78	(7.4)	0	(0.0)	6	(11.3)	67	(8.4)	0	(0.0)	3	(3.5)	1	(6.7)
どちらともいえない	294	(28.0)	7	(43.8)	32	(60.4)	227	(28.3)	6	(12.2)	13	(15.1)	1	(6.7)
そう思う	532	(50.7)	5	(31.3)	10	(18.9)	406	(50.7)	32	(65.3)	53	(61.6)	8	(53.3)
とてもそう思う	139	(13.2)	4	(25.0)	4	(7.5)	95	(11.9)	11	(22.4)	17	(19.8)	5	(33.3)
合計	1050	83.2	16	88.9	53	93.0	801	99.6	49	100.0	86	100.0	15	100.0
4) 看護を必要としている相手に対して、看護実践できる知識・技術・態度を身につけた														
まったくそう思わない	3	(0.3)	0	(0.0)	0	(0.0)	3	(0.4)	0	(0.0)	0	(0.0)	0	(0.0)
そう思わない	49	(4.6)	0	(0.0)	1	(1.8)	42	(5.2)	1	(2.0)	4	(4.7)	1	(6.7)
どちらともいえない	189	(17.9)	5	(27.8)	5	(9.1)	146	(18.2)	7	(14.3)	19	(22.1)	3	(20.0)
そう思う	666	(63.1)	8	(44.4)	41	(74.5)	498	(62.1)	34	(69.4)	49	(57.0)	10	(66.7)
とてもそう思う	148	(14.0)	5	(27.8)	8	(14.5)	113	(14.1)	7	(14.3)	14	(16.3)	1	(6.7)
合計	1055	83.6	18	100.0	55	96.5	802	99.8	49	100.0	86	100.0	15	100.0
5) 生涯にわたり自己形成し、自立的、倫理的に行動する態度を身につけた														
まったくそう思わない	3	(0.3)	0	(0.0)	1	(1.8)	2	(0.3)	0	(0.0)	0	(0.0)	0	(0.0)
そう思わない	37	(3.5)	0	(0.0)	1	(1.8)	32	(4.0)	1	(2.0)	3	(3.5)	0	(0.0)

どちらともいえない	182	(17.3)	5	(29.4)	12	(21.8)	147	(18.4)	3	(6.1)	8	(9.3)	1	(6.7)
そう思う	606	(57.7)	5	(29.4)	36	(65.5)	458	(57.4)	27	(55.1)	55	(64.0)	8	(53.3)
とてもそう思う	222	(21.1)	7	(41.2)	5	(9.1)	159	(19.9)	18	(36.7)	20	(23.3)	6	(40.0)
合計	1050	83.2	17	94.4	55	96.5	798	99.3	49	100.0	86	100.0	15	100.0
6) 国際的視点で人々が平等に健康を享受する社会の実現に貢献する姿勢を身につけた														
まったくそう思わない	33	(3.1)	0	(0.0)	1	(1.9)	30	(3.8)	1	(2.0)	0	(0.0)	0	(0.0)
そう思わない	188	(17.9)	0	(0.0)	9	(17.0)	156	(19.5)	7	(14.3)	10	(11.6)	1	(6.7)
どちらともいえない	421	(40.1)	6	(37.5)	26	(49.1)	316	(39.5)	20	(40.8)	35	(40.7)	7	(46.7)
そう思う	339	(32.3)	6	(37.5)	15	(28.3)	256	(32.0)	12	(24.5)	33	(38.4)	6	(40.0)
とてもそう思う	68	(6.5)	4	(25.0)	2	(3.8)	42	(5.3)	9	(18.4)	8	(9.3)	1	(6.7)
合計	1049	83.1	16	88.9	53	93.0	800	99.5	49	100.0	86	100.0	15	100.0
7) 看護専門職・看護学の発展に寄与しようとする意欲を持つことができた														
まったくそう思わない	21	(2.0)	0	(0.0)	2	(3.7)	18	(2.3)	0	(0.0)	0	(0.0)	0	(0.0)
そう思わない	98	(9.3)	0	(0.0)	2	(3.7)	88	(11.0)	2	(4.1)	4	(4.7)	1	(6.7)
どちらともいえない	316	(30.1)	6	(35.3)	17	(31.5)	251	(31.4)	4	(8.2)	24	(27.9)	1	(6.7)
そう思う	472	(45.0)	5	(29.4)	30	(55.6)	349	(43.7)	27	(55.1)	40	(46.5)	9	(60.0)
とてもそう思う	143	(13.6)	6	(35.3)	3	(5.6)	93	(11.6)	16	(32.7)	18	(20.9)	4	(26.7)
合計	1050	83.2	17	94.4	54	94.7	799	99.4	49	100.0	86	100.0	15	100.0

note:表中(%)は有効回答中のパーセントを示し、カッコなし%は該当者数の回答者割合を示す

聖路加女子専門学校の回答に興健女子専門学校の回答(n=1)を含めている

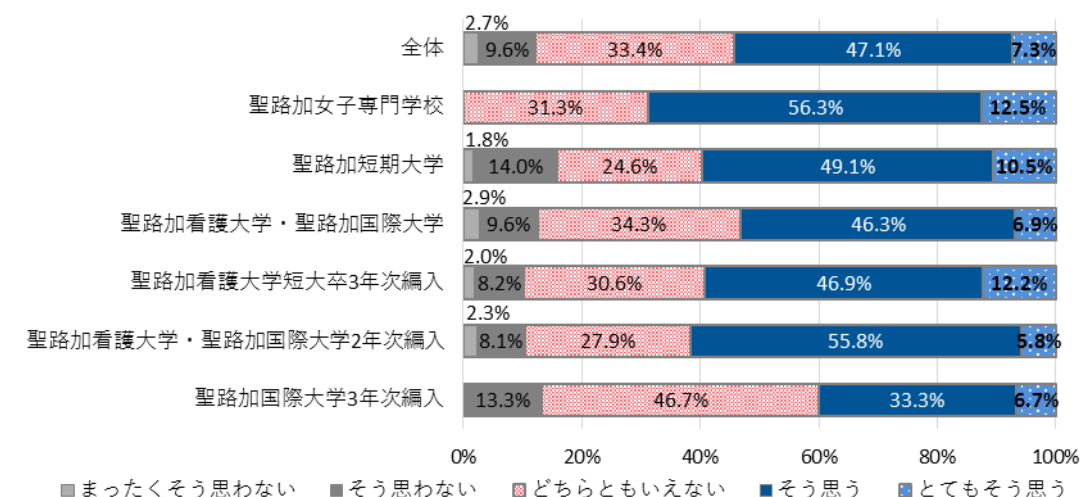


図 10 1) キリスト教精神にもとづいて、あらゆる文化背景の人々を理解し、共感の態度を身につけた

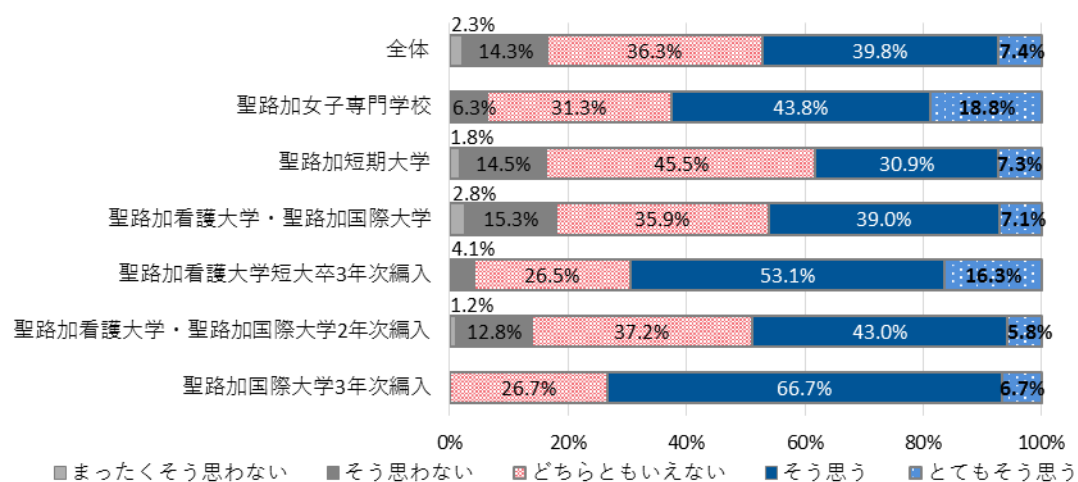


図 11 2) 看護専門職としてリーダーシップを発揮し、協働する能力を身につけた

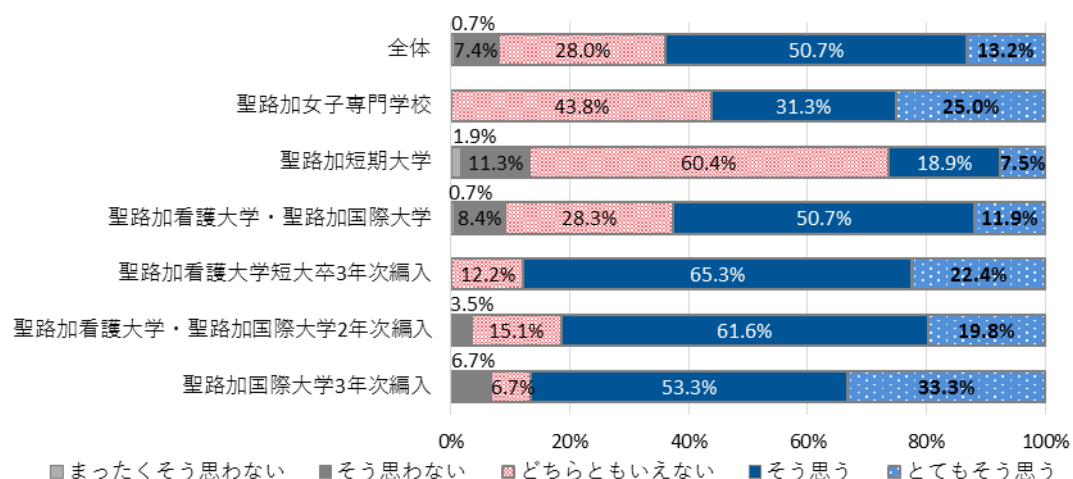


図 12 3) 幅広く学問を探究し、深く多角的に思考する力を身につけた

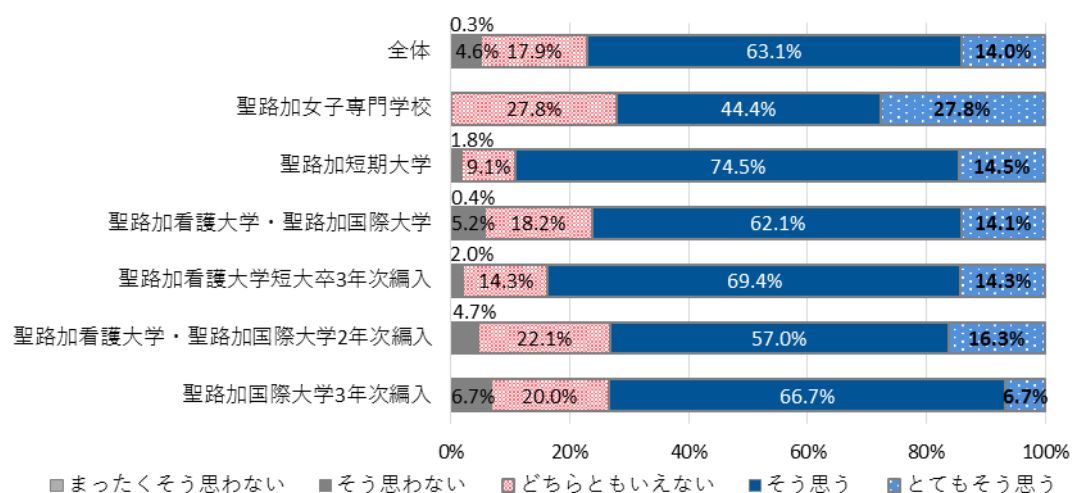


図 13 4) 看護を必要としている相手に対して、看護実践できる知識・技術・態度を身につけた

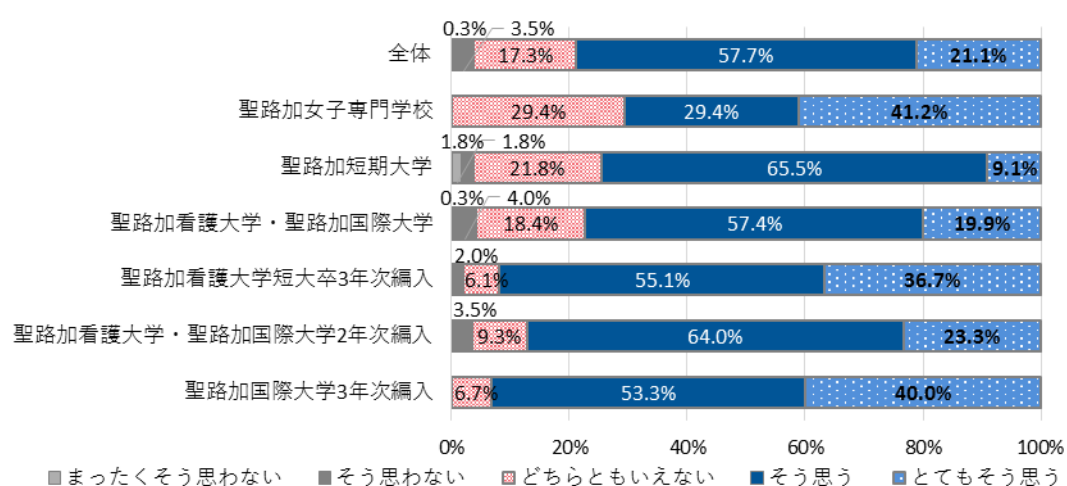
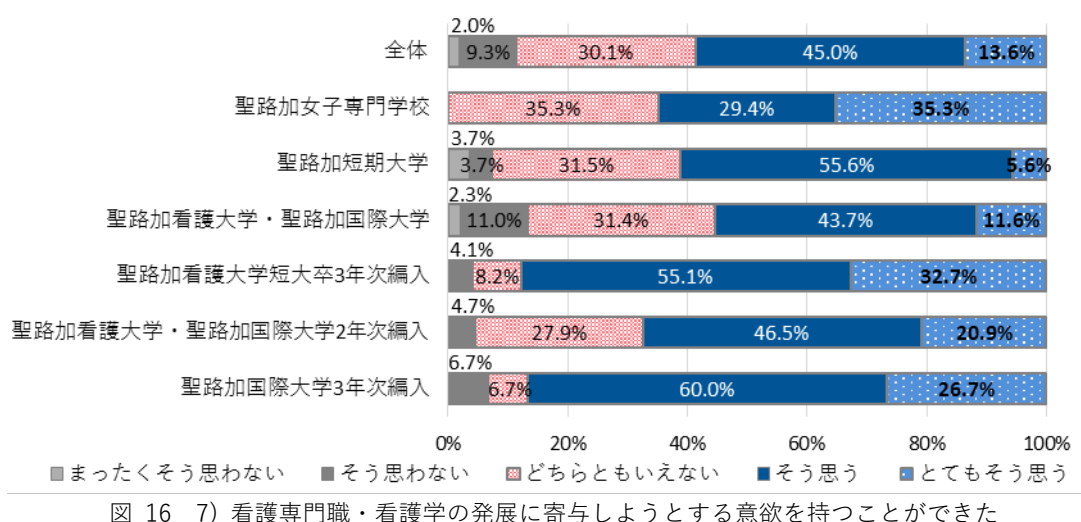
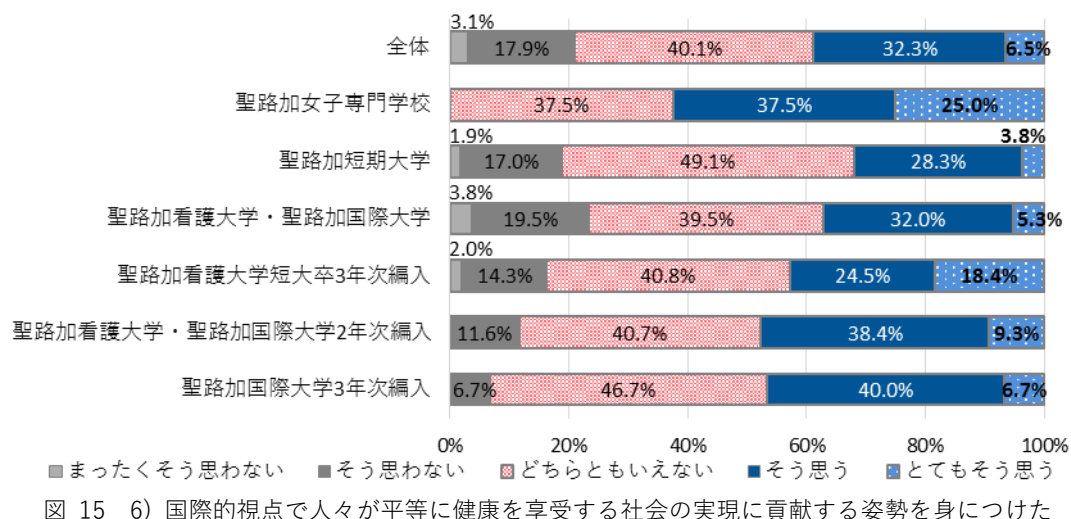


図 14 5) 生涯にわたり自己形成し、自律的、倫理的に行動する態度を身につけた



4) 卒後のキャリアを築く上で役立った在学中の学び

「3) 臨床系専門科目の講義」および「4) 臨床系専門科目の実習・演習」は回答者全体の過半数が「とても役立っている」と答えており、本学での学びの特徴が表れた。また、「やや役立っている」も加えると、臨床系以外の科目を含めすべてで半数を超えた。卒業時に看護職の国家試験受験資格を取得し、看護師、保健師、助産師、あるいは養護教諭資格を取得して卒業後に臨床や看護教育機関、そして学校でキャリアを重ねることが多いことが本学の特徴であり、看護職として求められる特定の知識、技術を研鑽し続けることが卒後キャリアにおいて必要とされる。在学中にこのような知識と技術の基盤となる学問を修得できた回答者が多いと示唆された。

卒業課程別にみると、「5) その他の専門科目」と「6) 卒業論文」は、「履修しなかった」または「全く役に立っていない」あるいは「あまり役に立っていない」という回答も少なくなかった。これらは、在学中のカリキュラムに当該科目が無かったか、時間数が少なかったことや、卒後キャリアにおいて直接的に生かされる科目が異なるためであると思われる。

看護教育では、現在を含め、初学年1年次より看護の専門科目を学ぶカリキュラム編成がされ、

早期に専門科目を学ぶカリキュラムである³⁾。一方、在学中に特に意欲的に学んだ科目では、専門科目や臨床系科目に限らず、一般教養科目や基礎科目の多様な科目の回答があり、様々な科目から得られた学びが卒後のキャリアに活かされるようであった（表 14、図 17-図 22）。

表 14 卒業後のキャリアを築く上で在学中に学んだことはどのくらい役に立っているか〔看護基礎教育〕

	全体		聖路加女子 専門学校		聖路加 短期大学		聖路加看護大 学・聖路加国 際大学		聖路加看護 大学短大卒 3 年次編入		聖路加看護 大学・聖路 加国際大学 2 年次編入		聖路加国 際大学 3 年次編入	
	(n=1262)		(n=18)		(n=57)		(n=804)		(n=49)		(n=86)		(n=15)	
	n	(%)	n	(%)	n	(%)	n	(%)	n	(%)	n	(%)	n	(%)
1) 一般教養科目（キリスト教、語学、心理学、社会学等）														
履修しなかった	32	(3.1)	1	(7.1)	0	(0.0)	5	(0.6)	0	(0.0)	20	(23.3)	2	(13.3)
全く役に立っていない	14	(1.3)	0	(0.0)	0	(0.0)	13	(1.6)	0	(0.0)	1	(1.2)	0	(0.0)
あまり役立っていない	193	(18.5)	1	(7.1)	13	(24.5)	154	(19.3)	2	(4.2)	15	(17.4)	4	(26.7)
やや役立っている	627	(60.0)	7	(50.0)	29	(54.7)	498	(62.3)	31	(64.6)	40	(46.5)	5	(33.3)
とても役立っている	179	(17.1)	5	(35.7)	11	(20.8)	129	(16.1)	15	(31.3)	10	(11.6)	4	(26.7)
合計	1045	82.8	14	77.8	53	93.0	799	99.4	48	98.0	86	100.0	15	100.0
2) 基礎科目（栄養学、形態機能学（解剖生理学）、生涯発達、生命倫理、セクシャルヘルス等）														
履修しなかった	10	(1.0)	1	(6.7)	0	(0.0)	0	(0.0)	7	(14.6)	1	(1.2)	0	(0.0)
全く役に立っていない	1	(0.1)	0	(0.0)	0	(0.0)	1	(0.1)	0	(0.0)	0	(0.0)	0	(0.0)
あまり役立っていない	81	(7.8)	2	(13.3)	13	(24.1)	54	(6.8)	5	(10.4)	3	(3.5)	1	(6.7)
やや役立っている	563	(53.9)	5	(33.3)	29	(53.7)	435	(54.5)	22	(45.8)	46	(53.5)	9	(60.0)
とても役立っている	390	(37.3)	7	(46.7)	12	(22.2)	308	(38.6)	14	(29.2)	36	(41.9)	5	(33.3)
合計	1045	82.8	15	83.3	54	94.7	798	99.3	48	98.0	86	100.0	15	100.0
3) 臨床系専門科目の講義（小児看護、母性看護、成人看護、老年看護、精神看護、地域・在宅看護 等）														
履修しなかった	1	(0.1)	1	(6.7)	0	(0.0)	0	(0.0)	0	(0.0)	0	(0.0)	0	(0.0)
全く役に立っていない	1	(0.1)	0	(0.0)	0	(0.0)	1	(0.1)	0	(0.0)	0	(0.0)	0	(0.0)
あまり役立っていない	28	(2.7)	0	(0.0)	2	(3.6)	21	(2.6)	2	(4.2)	2	(2.3)	0	(0.0)
やや役立っている	462	(44.1)	7	(46.7)	36	(65.5)	330	(41.3)	24	(50.0)	42	(48.8)	8	(53.3)
とても役立っている	556	(53.1)	7	(46.7)	17	(30.9)	447	(55.9)	22	(45.8)	42	(48.8)	7	(46.7)
合計	1048	83.0	15	83.3	55	96.5	799	99.4	48	98.0	86	100.0	15	100.0
4) 臨床系専門科目の実習・演習														
履修しなかった	9	(0.9)	1	(6.7)	1	(1.9)	5	(0.6)	1	(2.1)	1	(1.2)	0	(0.0)
全く役に立っていない	2	(0.2)	0	(0.0)	0	(0.0)	2	(0.3)	0	(0.0)	0	(0.0)	0	(0.0)
あまり役立っていない	48	(4.6)	0	(0.0)	2	(3.8)	31	(3.9)	6	(12.5)	3	(3.5)	2	(13.3)
やや役立っている	448	(42.8)	7	(46.7)	30	(56.6)	328	(41.1)	25	(52.1)	36	(41.9)	9	(60.0)
とても役立っている	539	(51.5)	7	(46.7)	20	(37.7)	433	(54.2)	16	(33.3)	46	(53.5)	4	(26.7)
合計	1046	82.9	15	83.3	53	93.0	799	99.4	48	98.0	86	100.0	15	100.0
5) その他の専門科目（看護教育、看護管理、研究法等）														
履修しなかった	23	(2.2)	3	(21.4)	6	(12.0)	12	(1.5)	1	(2.1)	1	(1.2)	0	(0.0)
全く役に立っていない	15	(1.5)	1	(7.1)	1	(2.0)	12	(1.5)	0	(0.0)	0	(0.0)	0	(0.0)
あまり役立っていない	167	(16.2)	1	(7.1)	10	(20.0)	138	(17.4)	0	(0.0)	14	(16.3)	3	(20.0)
やや役立っている	568	(54.9)	3	(21.4)	28	(56.0)	446	(56.2)	21	(43.8)	50	(58.1)	6	(40.0)
とても役立っている	261	(25.2)	6	(42.9)	5	(10.0)	185	(23.3)	26	(54.2)	21	(24.4)	6	(40.0)
合計	1034	81.9	14	77.8	50	87.7	793	98.6	48	98.0	86	100.0	15	100.0
6) 卒業論文														
履修しなかった	22	(2.1)	8	(66.7)	9	(20.9)	5	(0.6)	0	(0.0)	0	(0.0)	0	(0.0)
全く役に立っていない	39	(3.8)	0	(0.0)	3	(7.0)	32	(4.0)	0	(0.0)	3	(3.5)	0	(0.0)
あまり役立っていない	228	(22.2)	1	(8.3)	18	(41.9)	183	(23.0)	4	(8.3)	15	(17.4)	3	(20.0)
やや役立っている	465	(45.3)	1	(8.3)	11	(25.6)	367	(46.2)	21	(43.8)	42	(48.8)	8	(53.3)
とても役立っている	272	(26.5)	2	(16.7)	2	(4.7)	207	(26.1)	23	(47.9)	26	(30.2)	4	(26.7)
合計	1026	81.3	12	66.7	43	75.4	794	98.8	48	98.0	86	100.0	15	100.0

note:表中(%)は有効回答中のパーセントを示し、カッコなし%は該当者数の回答者割合を示す

聖路加女子専門学校の回答に興健女子専門学校の回答(n=1)を含めている

³⁾小澤道子, 森, 明子, 久代和加子, 桃井雅子, 片桐和子, 堀内成子, 園城寺康子, 菊田文夫. 卒業時の学生によるカリキュラム評価の推移:1995-1997 年度入学生. 聖路加看護大学紀要. 2002;28:39-49.

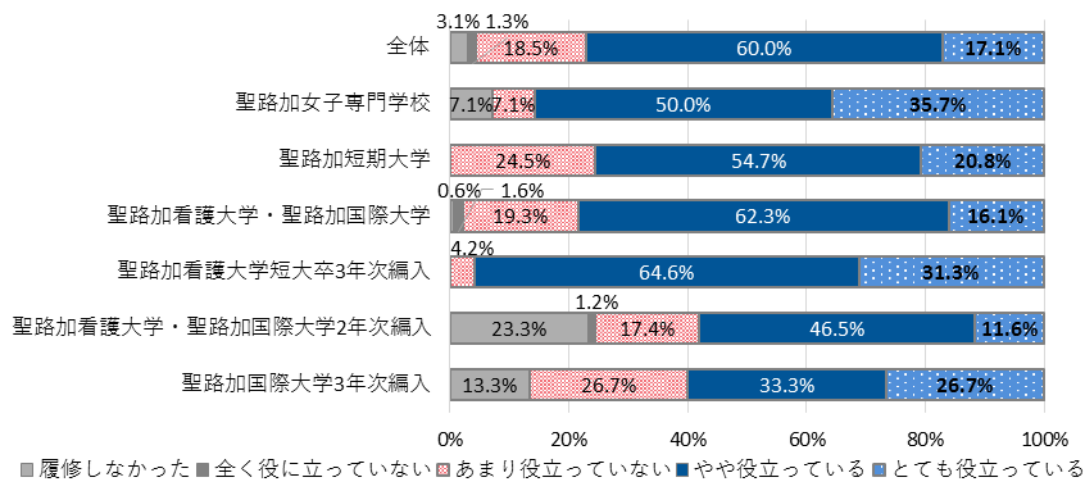


図 17 1) 一般教養科目（キリスト教、語学、心理学、社会学等）

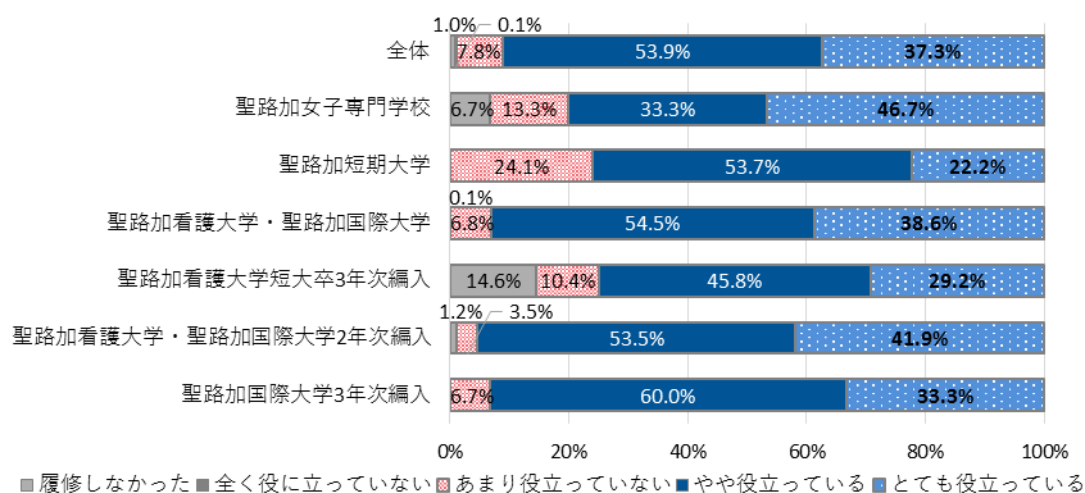


図 18 2) 基礎科目（栄養学、形態機能学（解剖生理学）、生涯発達、生命倫理、セクシャルヘルス等）

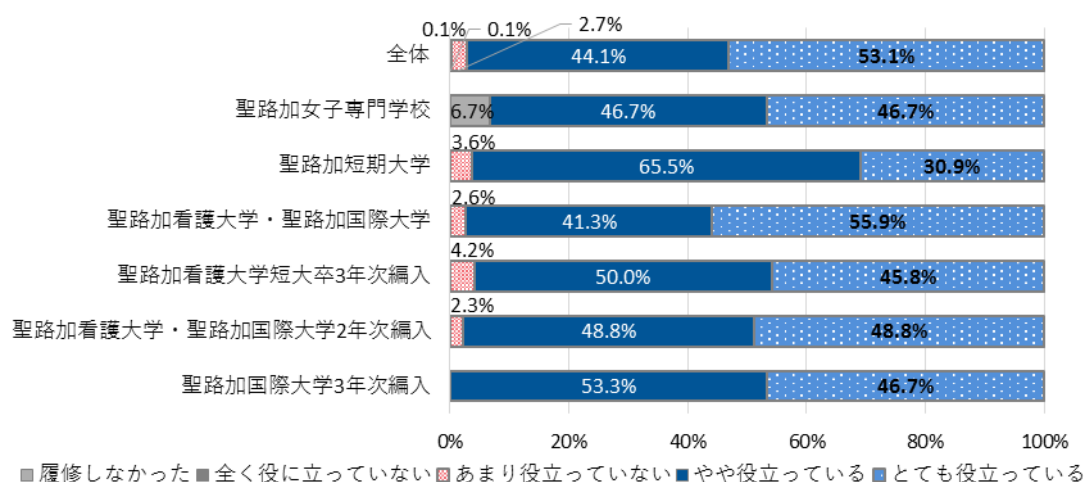


図 19 3) 臨床系専門科目の講義（小児看護、母性看護、成人看護、老年看護、精神看護、地域・在宅看護等）

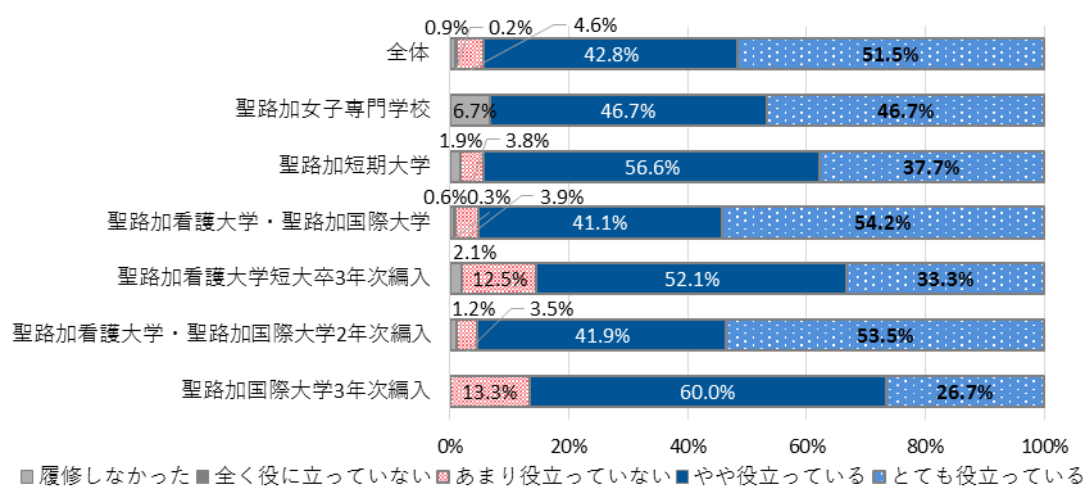


図 20 4) 臨床系専門科目の実習・演習

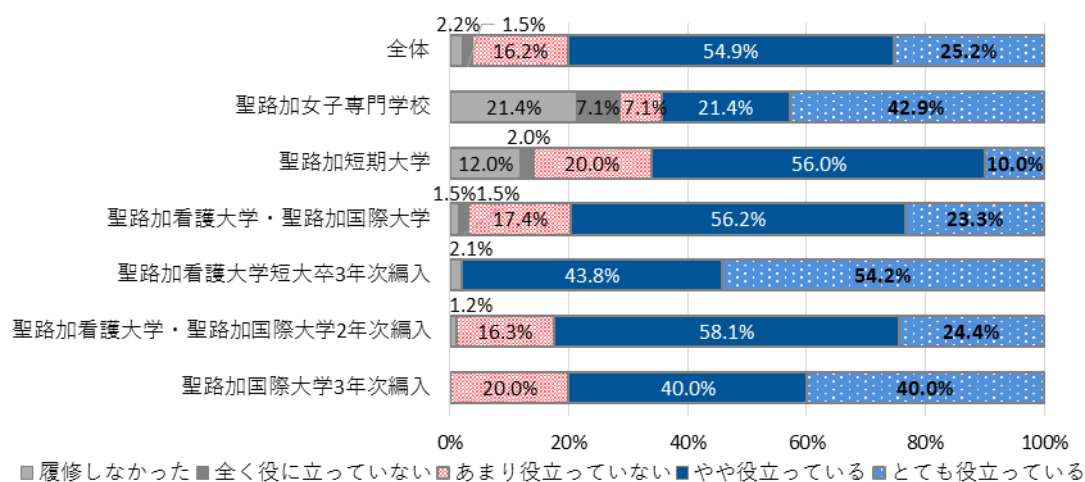


図 21 5) その他の専門科目（看護教育、看護管理、研究法等）

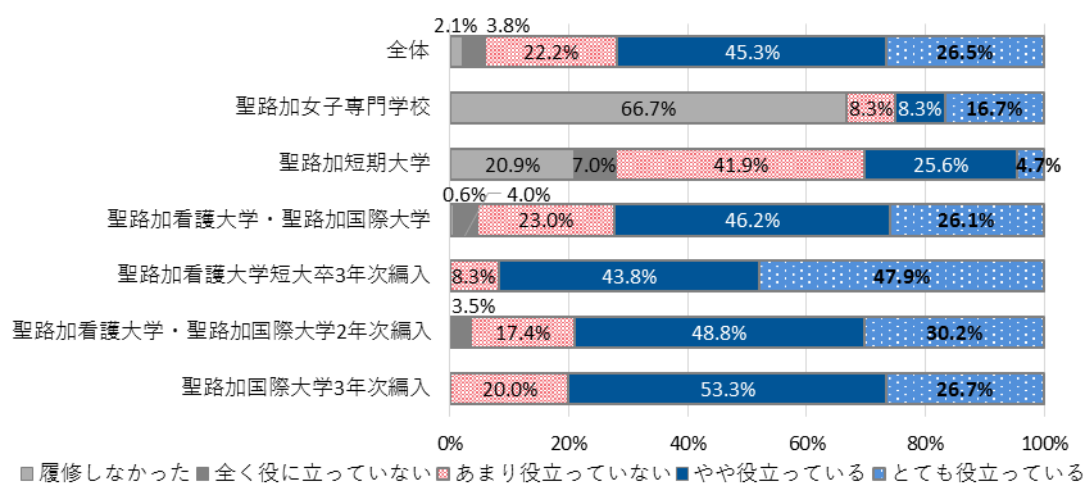


図 22 6) 卒業論文

5) 在学中、特に意欲的に学んだ科目

在学中、特に意欲的に学んだ科目を回答してもらい、年代別、科目名・教員名別に集計した（表15、16）。意欲的に学んだ科目は多様であり、教養科目、専門基礎科目、専門科目を網羅し、専門科目では分野を広くカバーし、講義と実習の両者を含んでいた。

表 15 特に意欲的に学べた科目 科目別〔看護基礎教育〕

卒業年	科目名	件数	公衆衛生看護に 関する科目（講 義）	1	医学概論	1	
1940～	倫理	1			細菌学	1	
1949 (専門学 校)	看護技術概論	1	専攻科での助産 婦コース	2	微生物学	2	
1950～	社会学	1	臨床内科外科の 実習・演習	1	薬理	1	
1959 (専門学 校－1957 年より短 大卒)	医療社会福祉	1	外科（主に実 習）	1	病理	1	
	解剖生理	1	専門臨床実習場 （外科、内科、 整形外科、小児 科、パブリッ ク、学外の保健 所実習や多麻全 生園（ライ病） 都内松澤病院な ど	1	疫学	1	
	栄養学	1	公衆衛生看護に 関する科目（実 習）	1	栄養学	1	
	基礎看護学	1	看護管理実習	1	基礎看護	7	
	成人看護学	1	キリスト教概論	1	成人看護学	10	
	腎疾患	1	宗教音楽	1	整形外科	1	
	臨床系専門科目 の講義と実習	1	文学	1	家族心理学	1	
	看護実習	1	夏目漱石「それ から」をテキス トにした講義	1	精神医学	1	
1960～	一般教養各臨床	1	国語表現法	1	臨床系専門科目 演習	1	
1969 (短期大 学－1968 年より大 学卒)	専門学等	1	音楽	1	臨床系専門科目 講義	1	
	宗教学	1	社会学	3	看護学総論 演 習	1	
	聖書	1	教育学	1	看護学総論 講 義	1	
	話法	1	人口動態・統計 等に関する講義	1	母性看護学	6	
	中東西洋史	1	現象学	1	MaternalChild Nursing,	1	
	心理学	6	実存哲学	1	小児科学	1	
	教育学	3	ドイツ語	2	小児看護学	6	
	生活科学	1	語学	1	助産学	7	
	物理学	1	日本国憲法	1	精神看護	2	
	医学概論	1	心理学	6	地域看護	1	
	細菌学	1	物理	2	公衆衛生看護学	4	
	生化学	1	量子力学	1	臨床実習	3	
	基礎看護学	4	化学	2	内科看護学実習	1	
	看護原理	1	解剖生理	7	成人看護学実習	2	
	ケア技術	1			精神科看護学実 習	1	
	看護技術	1			保健所実習	1	
	外科看護	3			婦長学	1	
	内科看護学	8			水と電解質	1	
	成人看護学	3			看護研究	4	
	成人保健	1			研究法概説	1	
	新生児学	2			教職実習	2	
	母性看護	1					
	助産学	1			1980～	一般教養科目	1
	精神	1			1989	キリスト教	1
	精神衛生	1				チャプレンの講 義	1
	公衆衛生	1					

	社会学	3		解剖生理学	5		臨床看護に関する科目	3	
	心理学	15		微生物学	2		看護学概論	1	
	教育学	3		衛生学	1		基礎看護学	8	
	統計学	1		生化学	1		看護技術	1	
	日本文化論	1		疫学	1		フィジカルアセスメント	1	
	ストレス理論	1		公衆衛生学	4		看護管理	5	
	ドイツ語	2		形態機能学	2		看護提供システム	1	
	英語	2		看護学原理	10		看護教育	2	
	語学	1		基礎看護学	7		成人看護	7	
	解剖生理学	7		看護管理	7		急性期看護学	9	
	微生物学	2		看護システム論	1		慢性期看護学	2	
	薬理学	1		臨床系専門科目	2		緩和ケア	1	
	栄養学	1		成人看護学	16		ターミナルケア論	2	
	精神保健	1		成人看護（急性期）	3		老年看護学	4	
	基礎看護学	4		成人看護（慢性期）	1		小児看護学	6	
	看護学原理	1		老年看護	1		生涯発達論	2	
	看護学概論	1		小児看護学	13		家族関係論	4	
	家族関係論	1		母性看護学	14		母性看護学	10	
	小児看護学	18		助産学	9		助産学	7	
	専門科目 母性・小児看護	1		家族発達論	1		精神看護学	5	
	母性看護学	9		家族心理学	1		メンタルヘルスと家族	1	
	成人看護学	31		家族関係論	2		リエゾン	1	
	がん患者の看護	1		精神看護学	10		地域看護学	13	
	地域・在宅看護	2		地域看護学	5		国際看護学	2	
	精神看護	10		公衆衛生看護学	1		PBL	1	
	公衆衛生看護学	6		学校保健	1		グループワークを行った科目	4	
	助産学	8		教職	1		遺伝看護学	1	
	臨床系専門科目の演習	1		実習	4		実習	8	
	臨床系専門科目の実習	2		成人看護学実習	2		基礎看護実習	2	
	聖路加国際病院での実習全般	1		小児看護学実習	1		成人看護学実習	3	
	成人看護学実習	2		地域看護の実習	1		成人・老年の臨床実習	1	
	終末期看護実習	1		卒業論文	14		急性期実習	3	
	小児看護実習	1		研究法	1		老年看護学実習	2	
	公衆衛生看護実習	2		PBL	1		小児看護学実習	3	
	助産実習	1		2000～	一般教養科目	1	精神看護実習	2	
	卒業研究（卒論・看護研究）	18		2009	キリスト教倫理	1	国際看護実習	1	
	研究法	2			教育学	1	チームチャレンジ	2	
	教職課程	1			女性学	1	卒業論文	4	
	教育実習	1			英語	2	老年看護の看護研究	1	
	学校保健	2			中国語	1	卒業論文(小児看護)	1	
	1990～	キリスト教概論	2		哲学	1			
	1999	英語	6		情報処理の授業	1	2010～	キリスト教概論	1
		国際表現法	1		統計学	1	2019	キリスト教倫理	2
		作文	1		野外活動実習	1		哲学	1
		心理学	5		形態機能学	9			
		社会学	1		生命倫理、看護倫理	4			
		教育学	3		セクシャルヘルス	2			
					感染症学	1			

宗教学	1	リーダーシップ	5	臨地実習(特に	1
自校学習	1	論		成人看護学)	
社会学	2	成人看護学	2	慢性期実習	2
心理学	2	急性期看護学	9	3年次の慢性看	1
教育制度論	1	慢性期看護学	1	護学実習	
教育展開論	1	慢性期看護学ゼ	1	総合実習(4年	1
女性学	1	ミ		次・急性期看	
英語	10	ターミナルケア	4	護)	
中国語	1	論		老年看護学実習	2
ドイツ語	1	老年看護学	4	精神看護 実習	1
統計学	1	生涯発達看護論	3	チームチャレン	1
形態機能学	23	小児看護学	3	ジ	
病態生理	2	母性看護学	6	災害看護ゼミナ	3
ヒューマンセク	2	周産期看護学演	1	ール	
シャリティ		習		感染に関するク	1
生命倫理	2	家族発達看護学	2	ラス・ゼミ	
公衆衛生学	1	精神看護学	6	看護教育	2
環境論	2	地域看護学	2	遺伝看護学	3
疾病・治療各論	2	公衆衛生看護学	1	クリティカルケ	1
看護情報学	1	在宅看護学	1	ア論	
看護学概論	1	養護概説	1	看護研究	1
PCC	1	学校保健	2	卒業論文	12
基礎看護学	6	養護教諭過程の	8	卒業論文(成人)	1
看護援助論	2	授業、実習		小児看護ゼミナ	3
基礎看護技術論	3	国際看護	3	ール・卒業論文	
フィジカルアセ	2	演習全般	1	精神看護 卒論	1
スメント		各臨床系専門科	1	総計	880
看護展開論	2	目の中のグルー			
看護管理学	4	ブワーク授業			
看護提供システ	1	実習	13		
ム					

表 16 特に意欲的に学べた科目 教員別〔看護基礎教育〕

卒業年	教員名	件数	勝部(渡部) 尚子	1	前田アヤ先生	1	
1940 ~	Peters, Auusta	1	先生		前田信雄先生	1	
1949	F.		小柳コト先生	1	土居健郎先生	1	
	留岡清男先生	1	深堀いづみ先生	1	東大からいらし	1	
1950 ~	高橋シュン先生	3	斉藤文雄先生	1	て下さった先生		
1959	湯槇ます先生	2	竹田真二	1	1980 ~	岩井郁子先生	17
	吉田時子先生	2	藤枝文武	1	1989	常葉恵子先生	7
	前田アヤ先生	1	檜垣マサ先生	1		南裕子先生	7
	松本敦子先生	1	1970 ~	高橋シュン先生	8	片田範子先生	7
	橘敏也先生	1	1979	近藤潤子先生	6	木村登紀子先生	6
1960 ~	高橋シュン先生	8		日野原重明先生	5	日野原重明先生	5
1969	吉田時子先生	4		岩井郁子先生	4	岡堂哲雄先生	4
	日野原重明先生	4		吉田時子先生	4	近藤潤子先生	3
	岡堂哲雄先生	2		岡堂哲雄先生	3	小島操子先生	3
	土居健郎先生	2		常葉恵子先生	3	飯田澄美子先生	3
	Vial (バイアル)	1		小澤道子先生	2	及川郁子先生	2
	根岸(近藤) 惇子	1		片平ミエ子先生	2	手島恵先生	2
	先生			檜垣マサ先生	2	小松浩子先生	2
	三上知子先生	1		栗山仁子先生	1	大川章子先生	2
				工藤正四郎先生	1	中山洋子先生	2

	堀内成子先生	2		石松先生	1		平林優子先生	1
	チャプレンの講義	1		浅野先生	1		片桐麻州美先生	1
	伊藤和弘先生	1		太田喜久子先生	1		名前は失念してしまいました。欧米出身の夫妻でした。	1
	戸倉先生	1		大森先生	1		野村美香先生	1
	荒井蝶子先生	1		中山洋子先生	1		岩辺京子先生	7
	高木廣文先生	1		渡辺真弓先生	1		宇都宮明美先生	6
	松下和子先生	1		筒井真優美先生	1		井上麻未先生	5
	松谷美和子先生	1		内藤先生	1		大久保暢子先生	5
	川口千鶴先生	1		日野原重明先生	1		佐居由美先生	4
	浅沼茂先生	1		平林優子先生	1		伊東美奈子先生	3
	前田アヤ先生	1		麻醉科部長	1		三森寧子先生	3
	田村正枝先生	1		木下先生	1		倉岡有美子先生	3
	渡辺純子先生	1		檜垣マサ先生	1		角田秋先生	2
	菱沼典子先生	1		菱沼典子先生	9		萱間真美先生	2
	平野かよ子先生	1		佐居由美先生	4		亀井智子先生	2
	檜垣マサ先生	1		川越博美先生	4		三浦友理子先生	2
	岩井郁子先生	10		射場典子先生	3		大橋先生	2
	横尾京子先生	4		村上好恵先生	3		長松康子先生	2
	南裕子先生	4		有森直子先生	3		堀成美先生	2
	片田範子先生	4		井部俊子先生	2		ケビン先生	1
	及川郁子先生	3		横山先生	2		ハフマン先生	1
	手島恵先生	3		岩井郁子先生	2		フローレンス菊田先生	1
	小島操子先生	3		香春知永先生	2		卵野木健先生	1
	操華子先生	3		小澤道子先生	2		永井智子先生	1
	飯田澄美子先生	3		大久保暢子先生	2		外崎明子先生	1
	菱沼典子先生	3		長松康子先生	2		関先生	1
	堀内成子先生	3		堀内成子先生	2		吉田千文先生	1
	粟生田友子先生	2		林直子先生	2		古川恵一先生	1
	岡堂哲雄先生	2		卵野木健先生	1		広瀬清人先生	1
	萱間真美先生	2		岡堂哲雄先生	1		小林京子先生	1
	三橋恭子先生	2		外崎明子先生	1		瀬戸屋希先生	1
	助川尚子先生	2		亀井智子先生	1		瀬戸先生	1
	常葉恵子先生	2		菊田文夫先生	1		青木先生	1
	深谷計子先生	2		錦戸典子先生	1		大熊恵子先生	1
	田中美恵子先生	2		古川恵一先生	1		中山和弘先生	1
	木村登紀子先生	2		三森寧子先生	1		飯岡由紀子先生	1
	外科部長	1		山崎好美先生	1		武石典史先生	1
	吉田時子先生	1		市川和可子先生	1		平林優子先生	1
	宮坂義彦先生	1		小山真理子先生	1		木戸先生	1
	近藤潤子先生	1		小松浩子先生	1		有森直子先生	1
	荒井蝶子先生	1		松谷美和子先生	1		総計	403
	香春知永先生	1		瀬戸屋希先生	1		note：自由記事を集計しているため、敬称等の表記は実際の回答に記載されていた表現を使用している	
	山本俊一先生	1		成瀬和子先生	1			
	小松浩子先生	1		川名典子	1			
	小澤道子先生	1		男性教員(名前失念)	1			
	松下和子先生	1		中山先生	1			
	森明子先生	1		田代順子先生	1			
	成木弘子先生	1		日野原重明先生	1			
	西郷淳子先生	1		飯岡由紀子先生	1			

4.2. 修士課程（博士前期課程）について

1) 修士課程で修了したコース

全回答者中 25.8%が本学の修士課程（博士前期課程）を修了していた。武村ら⁴の看護職の実態調査では、看護師免許取得後の修士課程修了者は 1.0%と報告されており、本結果は 25 倍の高さであった。

修士課程には上級実践コースと修士論文コースが設置されているが、修了生の内訳は、約半数ずつであった。修了時の平均年齢は 33.3 歳で、30 歳代が 48.2%と最も多く、続いて 20 歳代が 38.0%となっていた（表 17）。

本大学院の 1980-2000 年までの大学院修了生の動向調査⁵では、修士課程修了時の年齢は 30 歳代が 40.2%で最も多くこれまでの傾向と同様の結果であったが、続いて 40 歳代 35.9%、50 歳代 18.4%、20 歳代 2.2%の順であり、本調査では 20 歳代の増加が目立っていた。

この背景には、助産師(2005 年より)や保健師(2015 年より)教育が大学院に移行したことにより、大学卒業後ストレート進学者が増えたことが影響していると考えられる。また、2004 年度より社会人入学(長期在学コース)を開始しており働きながら大学院の進学が可能となり、8.4%が社会人院生となっている。先行研究において、大学院の進学を希望する理由には「能力の向上」が報告されているが、進学の選択に関わる問題として「学費などの費用」、「仕事との両立が困難」、「家庭の事情」などが挙げられたと報告されている⁶。また、2019 年度の看護職員の多様な勤務形態に関する実態調査(n=3,385)⁷では、大学院等の能力開発のための休職・休暇制度について、「実施していない」および「検討中」と回答した施設が 51.0%と半数以上であり、希望や関心がある場合でも、勤務施設の制度によっては退職や進学すること自体を断念している可能性があることも伺えた。

専門分野については、自由記載で回答を求めた結果を表 18 にまとめた。

⁴ 武村雪絵, 米倉佑貴, 市川奈央子, 駒形万里絵, 船越千佳, 磯部環. 看護職員確保対策に向けた看護職及び医療機関等の実態調査: 看護職調査. <https://mhlw-grants.niph.go.jp/niph/search/NIDD00.do?resrchNum=201806012> [2020-10-21 閲覧]

⁵ 小澤道子, 及川郁子, 横山美樹, 伊藤和弘, 白木和夫, 堀内成子, ほか. 大学院修了生の動向: 聖路加看護大学大学院 1980-2000(大学院将来構想プロジェクト). 聖路加看護大学紀要. 2003;29:47-58.

⁶ 本村美和, 中村博文, 糸嶺一郎, 加納尚美. 大学院看護学修士課程への進学ニーズに関する調査. 茨城県立医療大学紀要. 2018;23:63-69

⁷ 日本看護協会. 2019 年病院看護実態調査. [Internet]. <https://www.nurse.or.jp/home/publication/pdf/research/95.pdf> [2020-10-21 閲覧]

表 17 修了した課程〔修士課程（博士前期課程）〕（n=1,262）

	n	(%)
専攻		
看護学	250	(76.7)
ウィメンズヘルス・助産学	76	(23.3)
合計	326	25.8
コース		
上級実践	132	(49.6)
修士論文	134	(50.4)
合計	266	21.1
在籍コース		
2年間	306	(91.6)
3年間	28	(8.4)
合計	334	26.5
修了年		
1980年代	17	(5.2)
1990年代	66	(20.4)
2000年代	82	(25.3)
2010年代	159	(49.1)
合計	324	25.7
修了時年齢		
平均±標準偏差	33.3	7.2
21-25歳	43	(13.2)
26-30歳	81	(24.9)
31-35歳	98	(30.2)
36-40歳	59	(18.2)
41-45歳	25	(7.7)
46-50歳	12	(3.7)
51歳以上	7	(2.2)
合計	325	25.8

note:表中(%)は有効回答中のパーセントを示し、カッコなし%は該当者数の回答者割合を示す

表 18 専門分野（自由記載）〔修士課程（博士前期課程）〕

専門分野	n		
ウィメンズヘルス・助産学	6	周麻酔期看護学	8
がん看護学/がん看護・緩和ケア	19	助産学	72
ニューロサイエンス看護学	1	小児看護学	22
遺伝看護学	6	成人看護学	24
看護学	5	成人・老年看護	1
看護管理学	25	精神看護学	29
看護技術学	4	地域看護学	26
看護教育学	15	地域保健	1
看護情報学	1	統計学	1
基礎看護学	11	母性看護学	4
急性期看護学	5	母性看護・助産学	2
急性期成人看護学	2	本校ではなく他校で（大阪のバルナベ	1
急性重症患者看護専門看護師コース	1	助産婦学院）助産学 1年間	
教育管理	1	慢性期	1
公衆衛生看護学	9	老年看護学	2
国際看護学	4	CNE コース	1
在宅看護学	6	WH	1
		計	317

2) 在学中の学習に対する姿勢

修士課程では「授業やプレゼンに積極的に取り組んだ」、「資格取得または学位取得のための学習に積極的に取り組んだ」について「そう思う」・「とてもそう思う」と回答した者が90%以上であった。また、「実習または演習や研究フィールドの開拓に積極的に取り組んだ」「目標を立てて計画的に研究に取り組んだ」が80%以上であり、専門看護師や保健師・助産師資格、学位取得といった目標に向かって積極的に学習している姿勢がみられた。さらに、「学会・研究会等への参加に積極的に取り組んだ」は「そう思う」・「とてもそう思う」と回答したのは約60%であったが、「学会誌等への論文投稿」、「海外研修・短期留学」は20%台と低かった。この理由には、在学中は自身の課題研究や修士論文の作成をするため、論文投稿は修了後となることが影響しているものと考えられるが、教員等との共著論文などの作成を進めるものも存在し、研鑽している姿勢がうかがえる（表9、図23-図29）。

表 19 在学中の学習に対する姿勢〔修士課程（博士前期課程）〕

	全体		専攻別		コース別		在籍コース別	
			看護学	ウィメン ズヘル ス・ 助産学	上級実践	修士論文	2年間	3年間
	(n=1262)		(n=250)	(n=76)	(n=132)	(n=134)	(n=306)	(n=28)
	n (%)		n (%)	n (%)	n (%)	n (%)	n (%)	n (%)
1) 授業やプレゼンに積極的に取り組んだ								
まったくそう思わない	1 (0.3)		0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
そう思わない	5 (1.4)		3 (1.2)	0 (0.0)	2 (1.5)	1 (0.7)	3 (1.0)	0 (0.0)
どちらともいえない	26 (7.2)		18 (7.2)	0 (0.0)	3 (2.3)	10 (7.5)	14 (4.6)	5 (17.9)
そう思う	172 (47.4)		114 (45.6)	42 (55.3)	63 (47.7)	58 (43.3)	146 (47.7)	11 (39.3)
とてもそう思う	159 (43.8)		115 (46.0)	34 (44.7)	64 (48.5)	65 (48.5)	143 (46.7)	12 (42.9)
合計	363 28.8		250 100.0	76 100.0	132 100.0	134 100.0	306 100.0	28 100.0
2) 資格取得または学位取得のための学習に積極的に取り組んだ								
まったくそう思わない	2 (0.6)		2 (0.8)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (0.7)	0 (0.0)
そう思わない	5 (1.4)		3 (1.2)	0 (0.0)	1 (0.8)	2 (1.5)	3 (1.0)	0 (0.0)
どちらともいえない	18 (5.0)		13 (5.2)	0 (0.0)	1 (0.8)	8 (6.0)	9 (2.9)	3 (11.1)
そう思う	154 (42.9)		113 (45.4)	25 (32.9)	53 (40.2)	46 (34.6)	128 (41.8)	12 (44.4)
とてもそう思う	180 (50.1)		118 (47.4)	51 (67.1)	77 (58.3)	77 (57.9)	164 (53.6)	12 (44.4)
合計	359 28.4		249 99.6	76 100.0	132 100.0	133 99.3	306 100.0	27 96.4
3) 実習または演習や研究フィールドの開拓に積極的に取り組んだ								
まったくそう思わない	1 (0.3)		0 (0.0)	1 (1.3)	0 (0.0)	1 (0.7)	1 (0.3)	0 (0.0)
そう思わない	8 (2.2)		5 (2.0)	1 (1.3)	2 (1.5)	2 (1.5)	6 (2.0)	0 (0.0)
どちらともいえない	45 (12.5)		29 (11.6)	5 (6.6)	11 (8.3)	18 (13.4)	31 (10.1)	4 (14.3)
そう思う	141 (39.3)		106 (42.4)	25 (32.9)	49 (37.1)	51 (38.1)	122 (39.9)	10 (35.7)
とてもそう思う	164 (45.7)		110 (44.0)	44 (57.9)	70 (53.0)	62 (46.3)	146 (47.7)	14 (50.0)
合計	359 28.4		250 100.0	76 100.0	132 100.0	134 100.0	306 100.0	28 100.0
4) 目標を立てて計画的に研究に取り組んだ								
まったくそう思わない	1 (0.3)		1 (0.4)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (0.8)	1 (0.3)	0 (0.0)
そう思わない	17 (4.8)		8 (3.2)	3 (4.0)	6 (4.6)	3 (2.3)	10 (3.3)	1 (3.6)
どちらともいえない	51 (14.3)		35 (14.1)	9 (12.0)	22 (16.8)	15 (11.3)	38 (12.5)	8 (28.6)
そう思う	171 (48.0)		124 (49.8)	34 (45.3)	66 (50.4)	60 (45.1)	150 (49.3)	11 (39.3)
とてもそう思う	116 (32.6)		81 (32.5)	29 (38.7)	37 (28.2)	54 (40.6)	105 (34.5)	8 (28.6)
合計	356 28.2		249 99.6	75 98.7	131 99.2	133 99.3	304 99.3	28 100.0
5) 学会誌等への論文投稿に積極的に取り組んだ								
まったくそう思わない	56 (15.7)		35 (14.1)	12 (15.8)	23 (17.6)	17 (12.7)	41 (13.4)	5 (17.9)
そう思わない	105 (29.5)		78 (31.3)	19 (25.0)	40 (30.5)	36 (26.9)	94 (30.8)	6 (21.4)
どちらともいえない	97 (27.2)		71 (28.5)	17 (22.4)	32 (24.4)	40 (29.9)	81 (26.6)	13 (46.4)
そう思う	58 (16.3)		39 (15.7)	16 (21.1)	21 (16.0)	22 (16.4)	52 (17.0)	2 (7.1)

とてもそう思う	40	(11.2)	26 (10.4)	12 (15.8)	15 (11.5)	19 (14.2)	37 (12.1)	2 (7.1)
合計	356	28.2	249 99.6	76 100.0	131 99.2	134 100.0	305 99.7	28 100.0
6) 学会・研究会等への参加に積極的に取り組んだ								
まったくそう思わない	21	(5.9)	9 (3.6)	5 (6.6)	5 (3.8)	5 (3.7)	12 (3.9)	1 (3.6)
そう思わない	35	(9.8)	18 (7.2)	9 (11.8)	10 (7.6)	13 (9.7)	28 (9.2)	0 (0.0)
どちらともいえない	94	(26.3)	67 (26.8)	22 (28.9)	36 (27.3)	30 (22.4)	81 (26.5)	11 (39.3)
そう思う	140	(39.2)	105 (42.0)	27 (35.5)	54 (40.9)	54 (40.3)	124 (40.5)	10 (35.7)
とてもそう思う	67	(18.8)	51 (20.4)	13 (17.1)	27 (20.5)	32 (23.9)	61 (19.9)	6 (21.4)
合計	357	28.3	250 100.0	76 100.0	132 100.0	134 100.0	306 100.0	28 100.0
7) 海外研修・短期留学などの活動に積極的に取り組んだ								
まったくそう思わない	136	(38.3)	109 (43.8)	15 (19.7)	42 (31.8)	60 (45.1)	112 (36.7)	12 (42.9)
そう思わない	89	(25.1)	60 (24.1)	20 (26.3)	30 (22.7)	33 (24.8)	81 (26.6)	4 (14.3)
どちらともいえない	58	(16.3)	43 (17.3)	11 (14.5)	23 (17.4)	17 (12.8)	52 (17.0)	3 (10.7)
そう思う	40	(11.3)	20 (8.0)	16 (21.1)	16 (12.1)	16 (12.0)	34 (11.1)	4 (14.3)
とてもそう思う	32	(9.0)	17 (6.8)	14 (18.4)	21 (15.9)	7 (5.3)	26 (8.5)	5 (17.9)
合計	355	28.1	249 99.6	76 100.0	132 100.0	133 99.3	305 99.7	28 100.0

note:表中(%)は有効回答中のパーセントを示し、カッコなし%は該当者数の回答者割合を示す

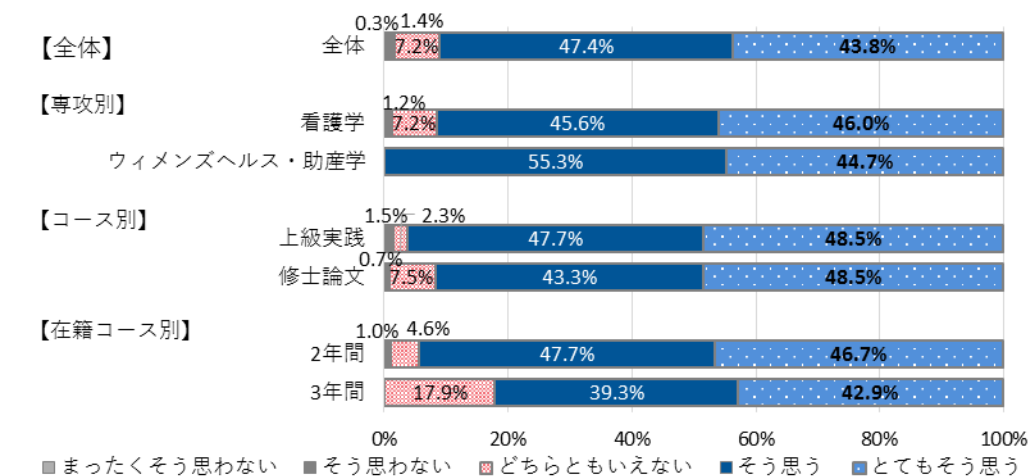


図 23 1) 授業やプレゼンに積極的に取り組んだ

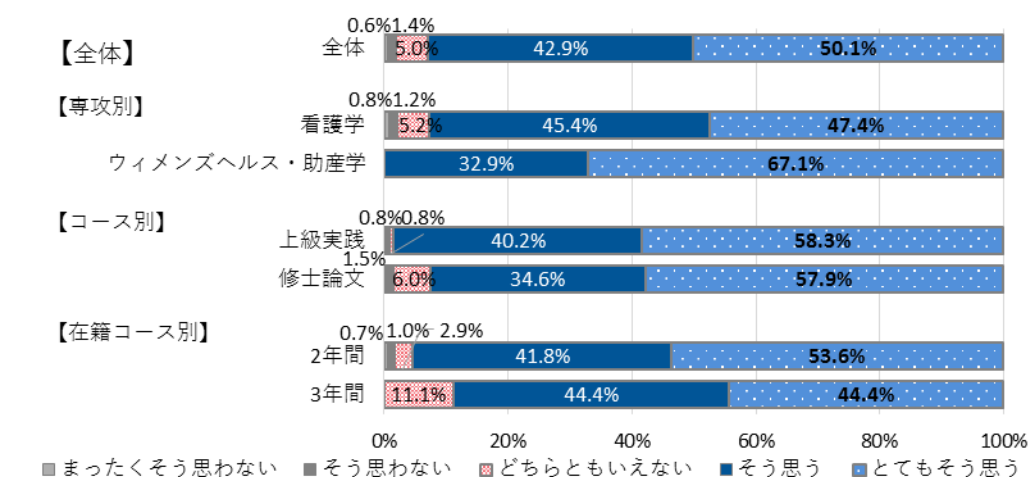


図 24 2) 資格取得または学位取得のための学習に積極的に取り組んだ

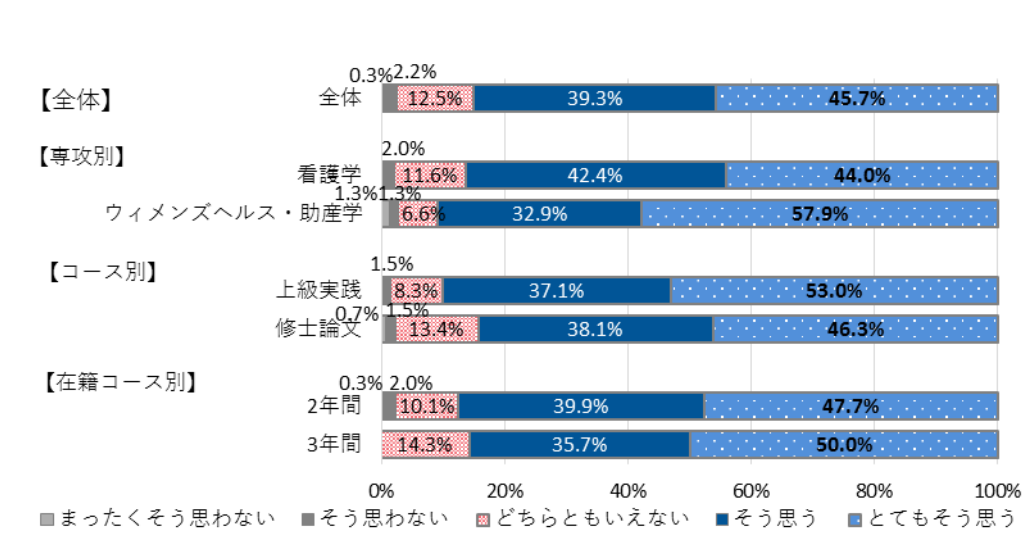


図 25 3) 実習または演習や研究フィールドの開拓に積極的に取り組んだ

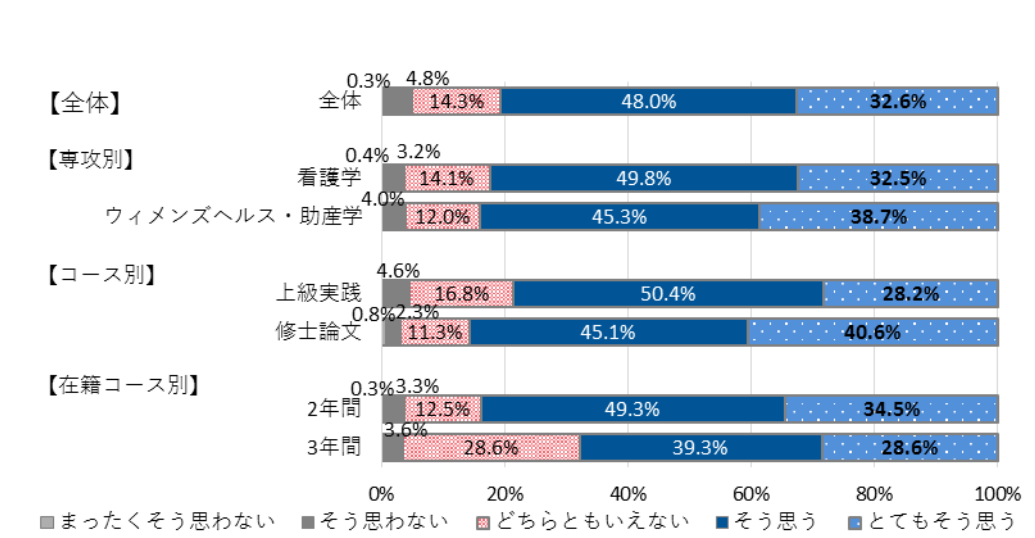


図 26 4) 目標を立てて計画的に研究に取り組んだ

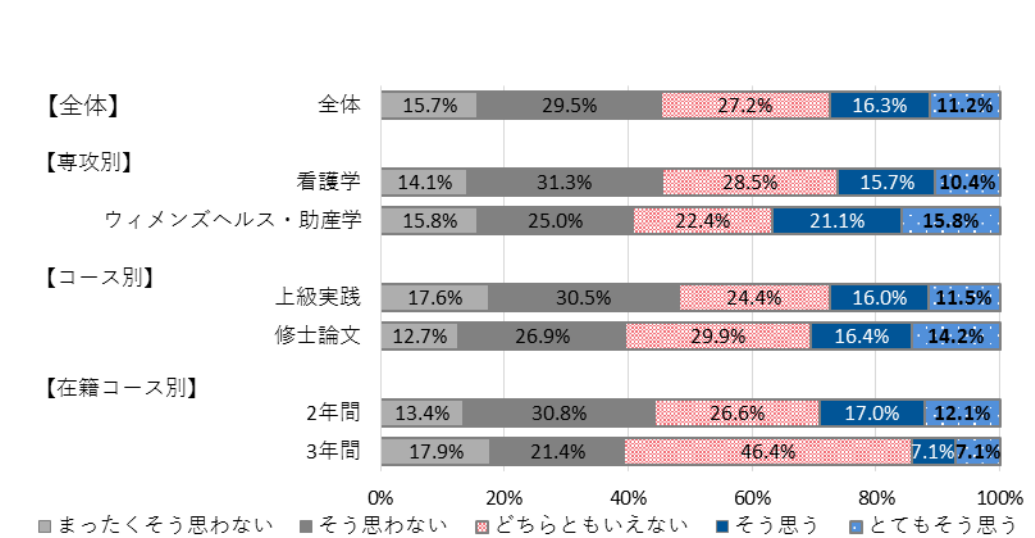


図 27 5) 学会誌等への論文投稿に積極的に取り組んだ

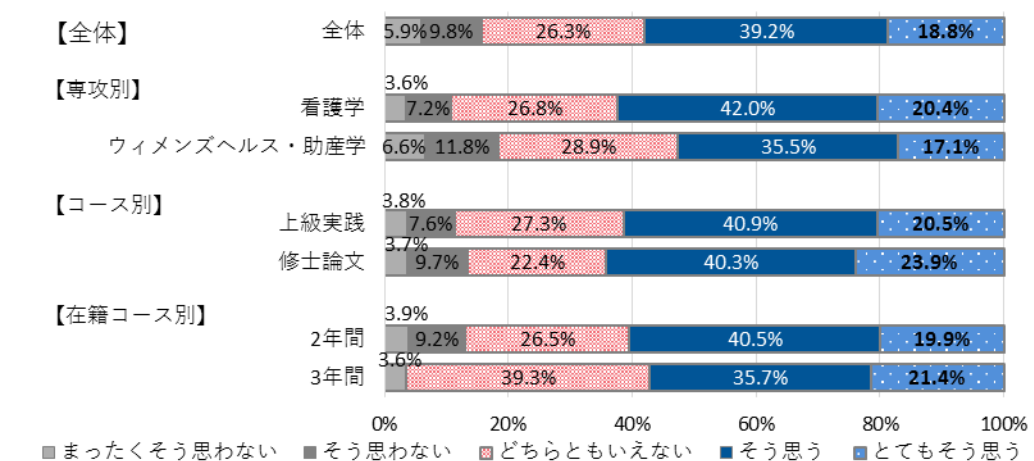


図 28 6) 学会・研究会等への参加に積極的に取り組んだ

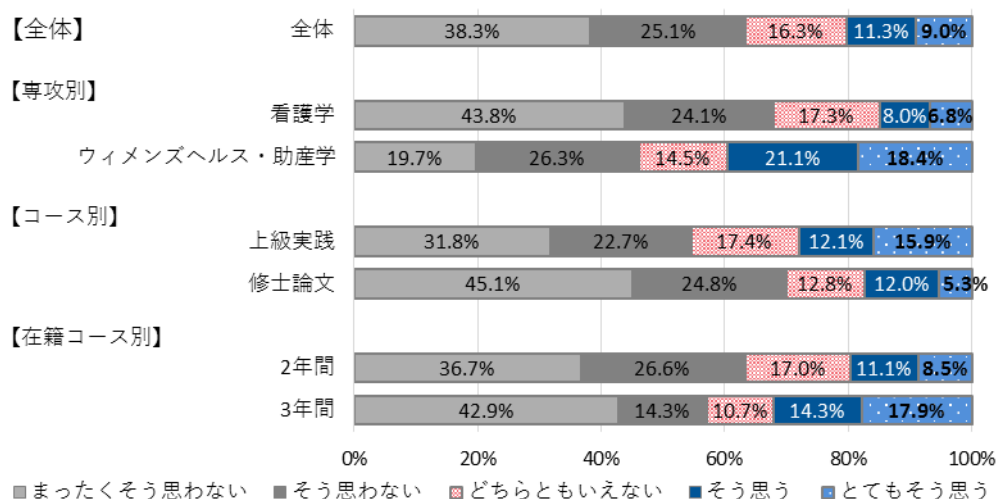


図 29 7) 海外研修・短期留学などの活動に積極的に取り組んだ

3) 修了時に身につけた知識・能力

上級実践コース、修士論文コースのいずれにおいても、「広い視野に立つ精深な学識を身につけた」という項目に「そう思う」・「とてもそう思う」と回答した者が84.1%と高かった。コース別では、修士論文コースでは「看護学分野における研究能力を身につけた」、上級実践コースでは「高度の専門性を要する看護実践に必要な能力を身につけた」という項目で、「そう思う」・「とてもそう思う」と回答した割合が70%以上であり、本学の修士課程の最終試験の審査項目でもある「上級実践者および看護研究者として幅広い知識・教養を有しているか」、「上級実践者としての専門的能力を有しているか」という点を多くの修了生が達成していると推察された（表20、図30-図34）。

表 20 修了段階で身につけることができたと思う知識・能力〔修士課程（博士前期課程）〕

	全体		専攻別		コース別		在籍コース別	
			看護学	ウィメン ズヘル ス・助産 学	上級実践	修士論文	2 年間	3 年間
	(n=1262)		(n=250)	(n=76)	(n=132)	(n=134)	(n=306)	(n=28)
	n (%)		n (%)	n (%)	n (%)	n (%)	n (%)	n (%)
1) 看護学の指導者として必要な知識・能力を身につけた								
まったくそう思わない	5 (1.4)		4 (1.6)	1 (1.3)	2 (1.5)	1 (0.7)	5 (1.6)	0 (0.0)
そう思わない	44 (12.3)		19 (7.6)	19 (25.0)	23 (17.4)	13 (9.7)	37 (12.1)	2 (7.1)
どちらともいえない	97 (27.1)		56 (22.4)	31 (40.8)	42 (31.8)	36 (26.9)	87 (28.4)	4 (14.3)
そう思う	167 (46.6)		137 (54.8)	18 (23.7)	48 (36.4)	63 (47.0)	140 (45.8)	17 (60.7)
とてもそう思う	45 (12.6)		34 (13.6)	7 (9.2)	17 (12.9)	21 (15.7)	37 (12.1)	5 (17.9)
合計	358 28.4		250 100.0	76 100.0	132 100.0	134 100.0	306 100.0	28 100.0
2) 広い視野に立つ精深な学識を身につけた								
まったくそう思わない	1 (0.3)		1 (0.4)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (0.3)	0 (0.0)
そう思わない	11 (3.1)		4 (1.6)	2 (2.6)	3 (2.3)	2 (1.5)	5 (1.6)	1 (3.6)
どちらともいえない	45 (12.6)		33 (13.3)	6 (7.9)	10 (7.6)	18 (13.4)	36 (11.8)	3 (10.7)
そう思う	218 (60.9)		155 (62.2)	47 (61.8)	85 (64.4)	77 (57.5)	191 (62.4)	17 (60.7)
とてもそう思う	83 (23.2)		56 (22.5)	21 (27.6)	34 (25.8)	37 (27.6)	73 (23.9)	7 (25.0)
合計	358 28.4		249 99.6	76 100.0	132 100.0	134 100.0	306 100.0	28 100.0
3) 看護学の分野における研究能力を身につけた								
まったくそう思わない	3 (0.8)		2 (0.8)	0 (0.0)	2 (1.5)	0 (0.0)	2 (0.7)	0 (0.0)
そう思わない	24 (6.7)		16 (6.4)	3 (3.9)	11 (8.3)	5 (3.8)	15 (4.9)	4 (14.3)
どちらともいえない	79 (22.1)		53 (21.3)	18 (23.7)	37 (28.0)	25 (18.8)	64 (21.0)	8 (28.6)
そう思う	203 (56.9)		141 (56.6)	46 (60.5)	72 (54.5)	78 (58.6)	181 (59.3)	12 (42.9)
とてもそう思う	48 (13.4)		37 (14.9)	9 (11.8)	10 (7.6)	25 (18.8)	43 (14.1)	4 (14.3)
合計	357 28.3		249 99.6	76 100.0	132 100.0	133 99.3	305 99.7	28 100.0
4) 高度の専門性を要する看護実践に必要な能力を身につけた								
まったくそう思わない	3 (0.8)		2 (0.8)	1 (1.3)	0 (0.0)	2 (1.5)	3 (1.0)	0 (0.0)
そう思わない	41 (11.5)		31 (12.4)	5 (6.6)	7 (5.3)	20 (14.9)	32 (10.5)	4 (14.3)
どちらともいえない	95 (26.5)		70 (28.0)	17 (22.4)	19 (14.4)	47 (35.1)	85 (27.8)	5 (17.9)
そう思う	159 (44.4)		107 (42.8)	37 (48.7)	67 (50.8)	51 (38.1)	133 (43.5)	13 (46.4)
とてもそう思う	60 (16.8)		40 (16.0)	16 (21.1)	39 (29.5)	14 (10.4)	53 (17.3)	6 (21.4)
合計	358 28.4		250 100.0	76 100.0	132 100.0	134 100.0	306 100.0	28 100.0
5) 高度の専門性を要する看護教育に必要な能力を身につけた								
まったくそう思わない	3 (0.8)		3 (1.2)	0 (0.0)	1 (0.8)	0 (0.0)	3 (1.0)	0 (0.0)
そう思わない	36 (10.1)		24 (9.6)	6 (7.9)	10 (7.6)	14 (10.4)	29 (9.5)	2 (7.1)
どちらともいえない	102 (28.5)		65 (26.0)	29 (38.2)	38 (28.8)	43 (32.1)	93 (30.4)	4 (14.3)
そう思う	171 (47.8)		125 (50.0)	32 (42.1)	58 (43.9)	60 (44.8)	144 (47.1)	14 (50.0)
とてもそう思う	46 (12.8)		33 (13.2)	9 (11.8)	25 (18.9)	17 (12.7)	37 (12.1)	8 (28.6)
合計	358 28.4		250 100.0	76 100.0	132 100.0	134 100.0	306 100.0	28 100.0

note:表中(%)は有効回答中のパーセントを示し、カッコなし%は該当者数の回答者割合を示す

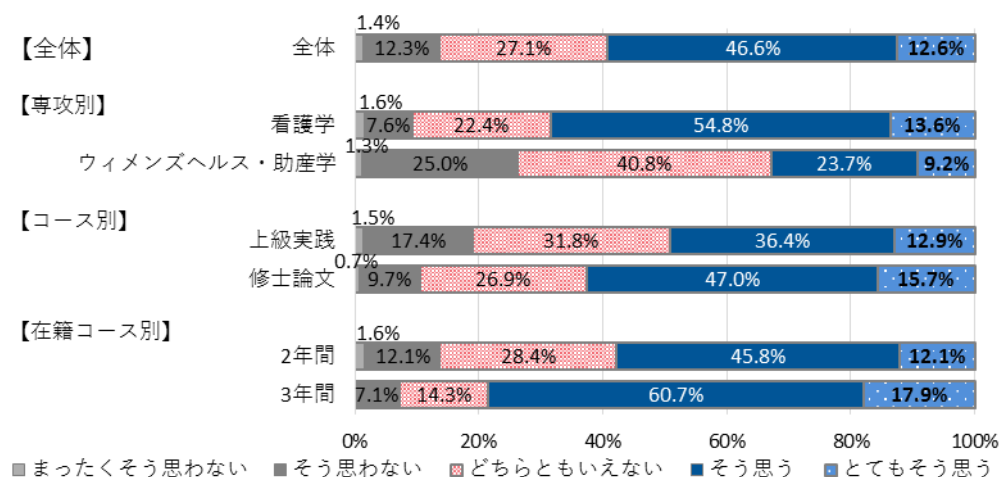


図 30 1) 看護学の指導者として必要な知識・能力を身につけた

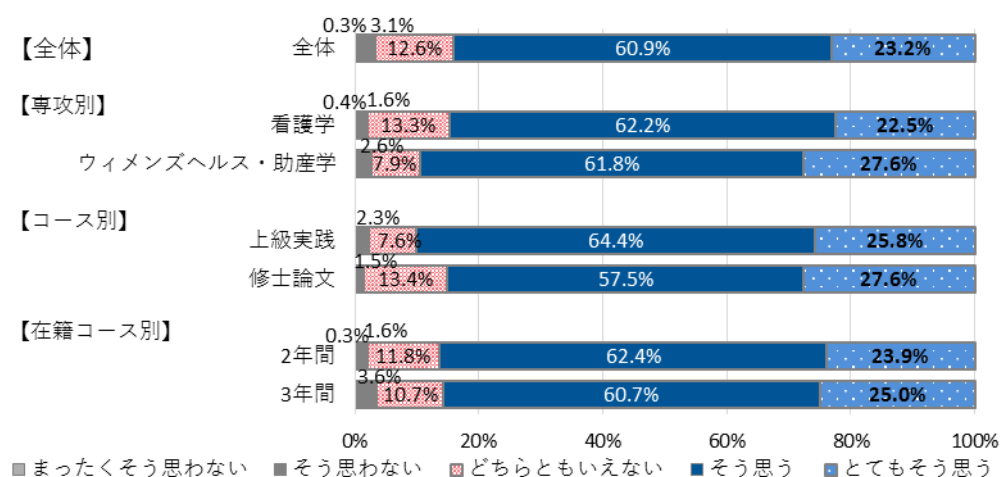


図 31 2) 広い視野に立つ精深な学識を身につけた

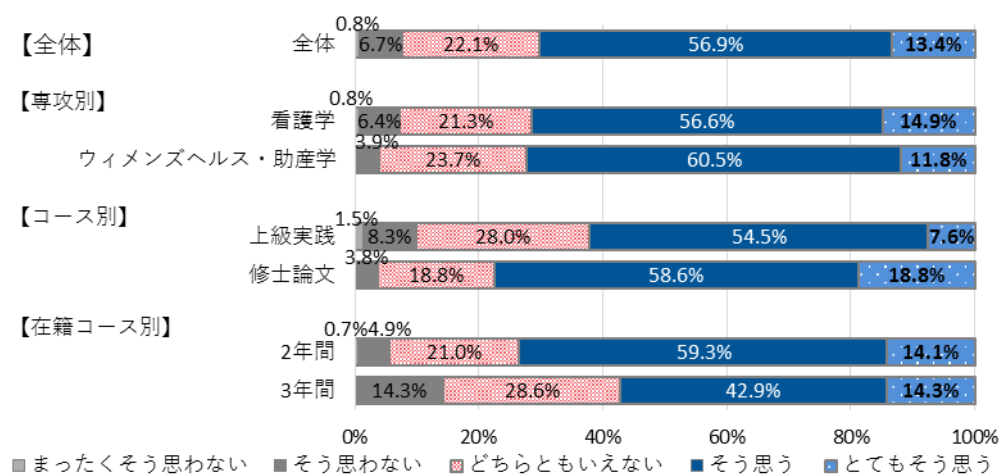


図 32 3) 看護学の分野における研究能力を身につけた

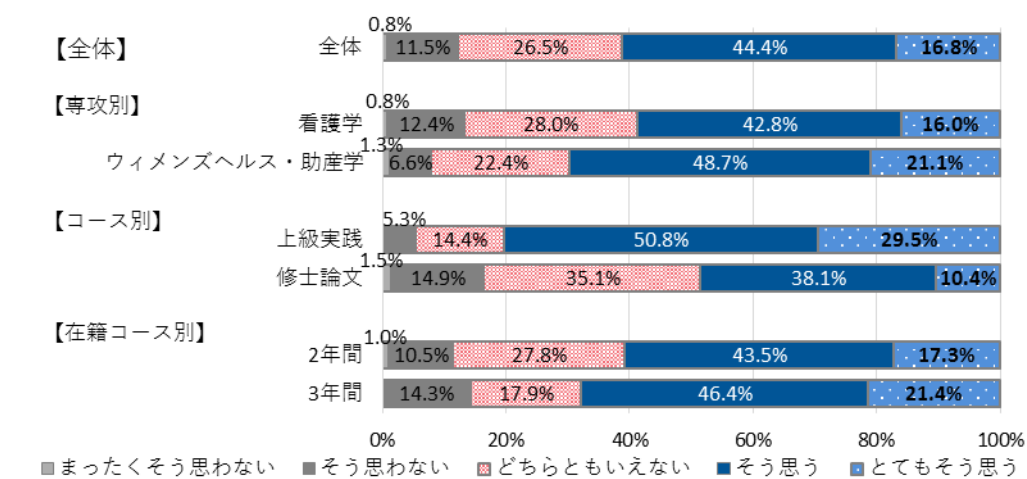


図 33 4) 高度の専門性を要する看護実践に必要な能力を身につけた

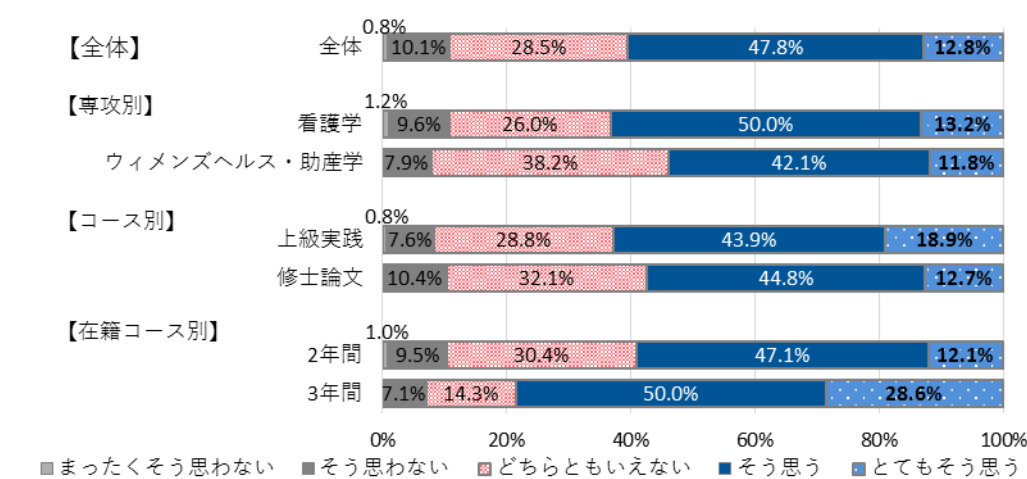


図 34 5) 高度の専門性を要する看護教育に必要な能力を身につけた

4) 修了後のキャリアを築く上で在学中に学んだことが役に立っている度合い

必修科目、選択必修科目、選択科目・特別講義、実習・演習、修士論文・課題研究のすべての項目において、「やや役立っている」「役立っている」と回答した割合が90%以上であった。修士課程でのカリキュラムでは、看護の実践者や研究者として活躍するうえで求められる専門的な知識と技術を深めるために看護学の理論や研究法について学ぶことが可能となっており、教育・支援体制が充実していることが反映された結果であると考えられた（表 21、図 35-図 39）。

表 21 修了後のキャリアを築く上で在学中に学んだことはどのくらい役に立っているか〔修士課程（博士前期課程）〕

	全体		専攻別		コース別		在籍コース別	
			看護学	ウィメンズヘルス・助産学	上級実践	修士論文	2年間	3年間
	(n=1262)	n (%)	(n=250)	(n=76)	(n=132)	(n=134)	(n=306)	(n=28)
		n (%)	n (%)	n (%)	n (%)	n (%)	n (%)	n (%)
1) 必修科目(看護学研究法・統計学・各分野の専門科目等)								
履修しなかった	0	(0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
全く役に立っていない	2	(0.6)	0 (0.0)	1 (1.3)	1 (0.8)	0 (0.0)	1 (0.3)	0 (0.0)
あまり役立っていない	21	(6.0)	11 (4.4)	7 (9.2)	15 (11.4)	3 (2.2)	19 (6.2)	0 (0.0)
やや役立っている	153	(43.6)	106 (42.4)	36 (47.4)	63 (47.7)	51 (38.1)	130 (42.5)	13 (46.4)
とても役立っている	175	(49.9)	133 (53.2)	32 (42.1)	53 (40.2)	80 (59.7)	156 (51.0)	15 (53.6)
合計	351	27.8	250 100.0	76 100.0	132 100.0	134 100.0	306 100.0	28 100.0
2) 選択必修科目(専攻分野以外の特論・看護理論・看護倫理等)								
履修しなかった	2	(0.6)	1 (0.4)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (0.7)	1 (0.3)	0 (0.0)
全く役に立っていない	0	(0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
あまり役立っていない	18	(5.1)	6 (2.4)	7 (9.2)	12 (9.1)	1 (0.7)	14 (4.6)	0 (0.0)
やや役立っている	164	(46.7)	113 (45.2)	44 (57.9)	65 (49.2)	57 (42.5)	145 (47.4)	10 (37.0)
とても役立っている	167	(47.6)	130 (52.0)	25 (32.9)	55 (41.7)	75 (56.0)	146 (47.7)	17 (63.0)
合計	351	27.8	250 100.0	76 100.0	132 100.0	134 100.0	306 100.0	27 96.4
3) 選択科目・特別講義								
履修しなかった	6	(1.7)	2 (0.8)	2 (2.7)	2 (1.5)	3 (2.3)	4 (1.3)	1 (3.7)
全く役に立っていない	2	(0.6)	2 (0.8)	0 (0.0)	2 (1.5)	0 (0.0)	2 (0.7)	0 (0.0)
あまり役立っていない	25	(7.2)	14 (5.6)	4 (5.3)	8 (6.1)	5 (3.8)	18 (5.9)	0 (0.0)
やや役立っている	168	(48.4)	124 (49.8)	37 (49.3)	63 (48.1)	68 (51.1)	150 (49.3)	12 (44.4)
とても役立っている	146	(42.1)	107 (43.0)	32 (42.7)	56 (42.7)	57 (42.9)	130 (42.8)	14 (51.9)
合計	347	27.5	249 99.6	75 98.7	131 99.2	133 99.3	304 99.3	27 96.4
4) 実習・演習								
履修しなかった	7	(2.0)	6 (2.4)	1 (1.3)	1 (0.8)	5 (3.8)	7 (2.3)	0 (0.0)
全く役に立っていない	1	(0.3)	1 (0.4)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (0.3)	0 (0.0)
あまり役立っていない	24	(6.7)	19 (7.6)	3 (3.9)	4 (3.0)	12 (9.0)	20 (6.6)	2 (7.1)
やや役立っている	129	(36.2)	97 (39.0)	19 (25.0)	27 (20.5)	58 (43.6)	108 (35.4)	8 (28.6)
とても役立っている	195	(54.8)	126 (50.6)	53 (69.7)	100 (75.8)	58 (43.6)	169 (55.4)	18 (64.3)
合計	356	28.2	249 99.6	76 100.0	132 100.0	133 99.3	305 99.7	28 100.0
5) 修士論文/課題研究								
履修しなかった	1	(0.3)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
全く役に立っていない	3	(0.9)	2 (0.8)	0 (0.0)	2 (1.5)	0 (0.0)	2 (0.7)	0 (0.0)
あまり役立っていない	13	(3.7)	7 (2.8)	4 (5.3)	8 (6.1)	3 (2.2)	8 (2.6)	2 (7.4)
やや役立っている	113	(32.6)	75 (30.0)	32 (42.1)	57 (43.2)	35 (26.1)	98 (32.0)	9 (33.3)
とても役立っている	217	(62.5)	166 (66.4)	40 (52.6)	65 (49.2)	96 (71.6)	198 (64.7)	16 (59.3)
合計	347	27.5	250 100.0	76 100.0	132 100.0	134 100.0	306 100.0	27 96.4

note:表中(%)は有効回答中のパーセントを示し、カッコなし%は該当者数の回答者割合を示す

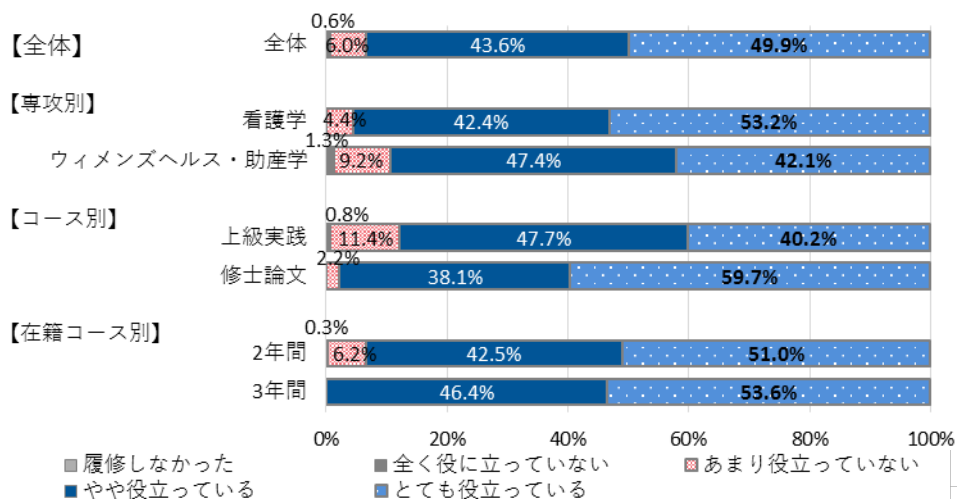


図 35 1) 必修科目(看護学研究法・統計学・各分野の専門科目等)

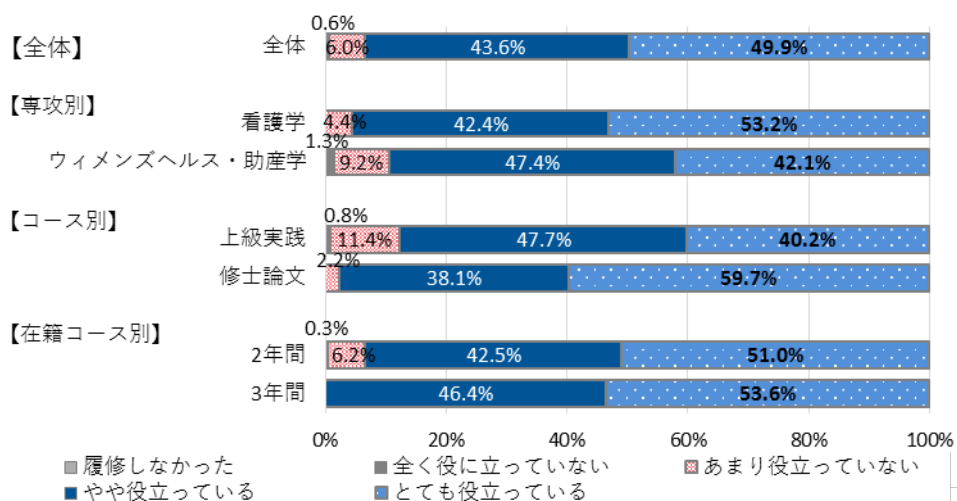


図 36 2) 選択必修科目(専攻分野以外の特論・看護理論・看護倫理等)

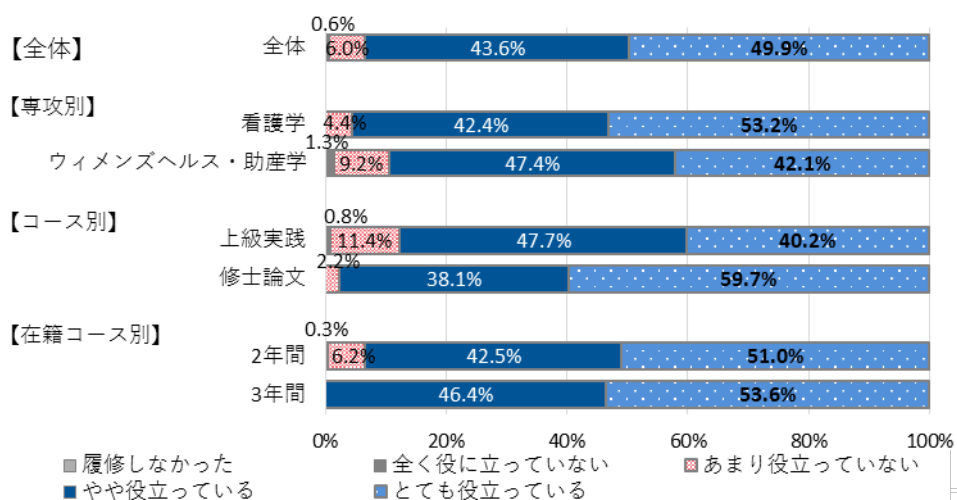


図 37 3) 選択科目・特別講義

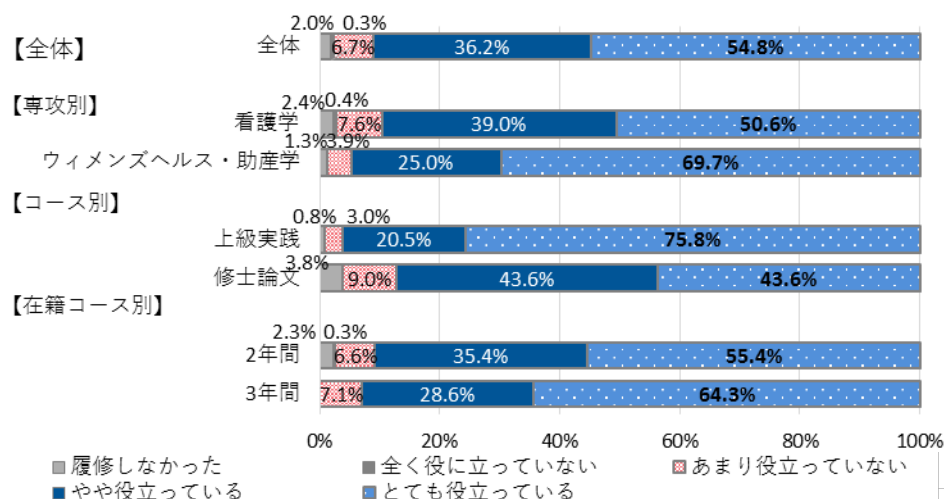


図 38 4) 実習・演習

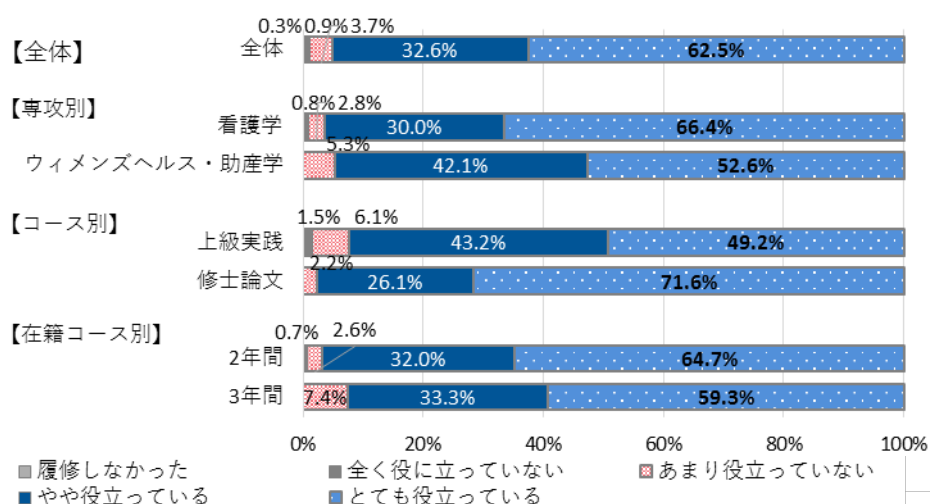


図 39 5) 修士論文/課題研究

5) 在学中、特に意欲的に学べた科目

在学中、特に意欲的に学べた科目を自由記載にて回答してもらい、科目名・教員名別に集計した（表 22, 23）。

表 22 特に意欲的に学べた科目_科目別〔修士課程（博士前期課程）〕

科目名	件数	教育	看護倫理
全部	3	1	1
必修科目、及び選択必修科目の全科目	1	30	1
統計学	9	1	1
社会学	9	1	2
公共哲学	1	14	1
心理学	4	1	1

病態生理学	2	周麻酔期看護学	2	遺伝看護学特論	1
薬理学	1	急性期看護学	1	遺伝看護学演習	1
専門科目	3	がん看護学	4	母性看護・助産学特論	1
演習	6	がん看護学特論	1	助産学の科目	2
特論	12	がん看護ゼミ	2	基礎助産学	1
基礎看護学	2	がん看護・緩和ケア特論	1	助産学特論	3
基礎看護学演習	1	緩和ケア特論Ⅰ・Ⅱ	1	助産学演習	1
看護管理学	18	がん末期患者の看護	1	助産学実習	7
看護管理学特論	1	精神看護学	6	国際助産学	1
管理実習	1	精神看護学特論	3	看護情報学	1
参加観察法の学習で病棟の ヘッドナースについて現象 を観察、記述、分析したこ と。	1	精神看護学実習	1	実習	8
看護心理学	2	学部生の実習病院（精神 科）での Dr.アンダーウッド による事例分析の機会に何 度か聴講参加したこと。	1	上級実践実習	2
看護教育学	12	地域看護	3	看護実践のための基本概念	1
看護教育学特論	3	地域看護学演習	1	課題研究	9
看護教育学演習	3	地域看護学特論	1	看護研究	8
看護教育学実習	2	在宅看護学	1	特別研究	2
小児看護学	10	在宅看護特論	1	修士論文	23
小児看護学特論	3	在宅看護演習	1	執筆に関する科目	1
成人看護学	9	在宅看護学実習	1	東日本大震災のボランティア アの参加	1
成人看護学特論	1	国際看護学演習	1	科目ではないが teaching assistant も大変勉強になっ た。	1
成人看護学に関する科目(演 習)	3	国際協働論	1		
		国際協働論演習	1	総計	293

表 23 特に意欲的に学べた科目_教員別〔修士課程（博士前期課程）〕

教員名	件数	麻原きよみ先生	3	山田雅子先生	1
菱沼典子先生	6	萱間真美先生	2	近藤潤子先生	1
田代順子先生	6	吉田時子先生	2	水戸美津子先生	1
小松浩子先生	5	小島操子先生	3	Alicia Matthews 先生	1
井部俊子先生	5	宇都宮明美先生	2	常葉恵子先生	1
堀内成子先生	4	岩井郁子先生	2	川越博美先生	1
羽山由美子先生	4	有森直子先生	2	高木廣文先生	1
及川郁子先生	4	柳井春夫先生	2	木村登紀子先生	1
高橋シュン先生	3	蛭田明子先生	2	青木美紀子先生	1
小山真理子先生	3	ホルツマー先生	2	檜垣マサ先生	1
片岡弥恵子先生	3	中山洋子先生	2	総計	95
小黒道子先生	3	松谷美和子先生	2	note：自由記載を集計しているため、 敬称等の表記は実際の回答に記載され ていた表現を使用している	
林直子先生	3	亀井智子先生	2		
南裕子先生	3	卯野木健先生	1		
飯田澄美子先生	3	伊藤和弘先生	1		

4.3. 博士後期課程について

1) 修了したコース

博士課程は、全回答者中のうち 7.1% が修了したと回答していた。武村ら⁸の看護職の実態調査では、博士課程修了者は 0.6% と報告されており、約 5 倍と高い結果であった。

修了時の平均年齢は 41.8 歳であり、40 歳代が 47.1% と一番多く、続いて 30 歳代は 37.6% であった。本大学院の 1980-2000 年までの大学院修了生の動向調査⁹では、博士課程修了時の年齢は、40 歳代が 50.5% で一番多くこれまでの傾向と同様の結果であったが、続いて 50 歳代が 30.0%、30 歳代が 20.0% という順であり、本調査では 30 歳代が増加傾向であった。これには、修士課程の修士論文コースの修了生がそのまま博士課程への進学すること(2019 年度、26.5%)や、仕事を続けながら研究することが可能なこと、DNP コースの開設など、研究者や教育者、高度実践者などの将来的な働き方を目指して進学していることが影響していると考えられる(表 24)。

表 24 修了した課程(博士後期課程)(n=1262)

	n	(%)
入学したコース		
研究者(PhD)コース	71	(79.8)
論文博士	18	(20.2)
合計	89	7.1
学位取得年		
1990 年代	8	(9.5)
2000 年代	23	(27.4)
2010 年代	53	(63.1)
合計	84	6.7
学位取得時の年齢		
平均±標準偏差	42.0	7.1
26-30 歳	2	(2.4)
31-35 歳	15	(17.9)
36-40 歳	17	(20.2)
41-45 歳	26	(31.0)
46-50 歳	14	(16.7)
51 歳以上	10	(11.9)
合計	84	6.7

note:表中(%)は有効回答中のパーセントを示し、カッコなし%は該当者数の回答者割合を示す

2) 在学中の学習に対する姿勢

博士課程においても、修士課程と同様、「授業やプレゼンに積極的に取り組んだ」「演習や研究フィールドの開拓に積極的に取り組んだ」「目標を立てて計画的に研究に取り組んだ」という項目について「そう思う」・「とてもそう思う」と回答した割合が 70%以上と高かった。修士課程との

⁸ 前掲 4

⁹ 前掲 5

違いは、「学会誌等への論文投稿」についての項目で「そう思う」・「とてもそう思う」と回答した割合が53.0%と倍増していたことであった。一方、「海外研修・短期留学」については、20%台と低かった（表25、図40）。

表 25 在学中の学習に対する姿勢 (n=1262)

	n	(%)
1) 授業やプレゼンに積極的に取り組んだ		
まったくそう思わない	1	(0.8)
そう思わない	6	(5.0)
どちらともいえない	16	(13.2)
そう思う	51	(42.1)
とてもそう思う	47	(38.8)
合計	121	9.6
2) 演習や研究フィールドの開拓に積極的に取り組んだ		
まったくそう思わない	2	(1.7)
そう思わない	11	(9.2)
どちらともいえない	16	(13.4)
そう思う	32	(26.9)
とてもそう思う	58	(48.7)
合計	119	9.4
3) 目標を立てて計画的に研究に取り組んだ		
まったくそう思わない	1	(0.8)
そう思わない	14	(11.8)
どちらともいえない	21	(17.6)
そう思う	39	(32.8)
とてもそう思う	44	(37.0)
合計	119	9.4
4) 学会誌等への論文投稿に積極的に取り組んだ		
まったくそう思わない	16	(13.7)
そう思わない	14	(12.0)
どちらともいえない	25	(21.4)
そう思う	28	(23.9)
とてもそう思う	34	(29.1)
合計	117	9.3
5) 学会・研究会等への参加に積極的に取り組んだ		
まったくそう思わない	9	(7.7)
そう思わない	10	(8.5)
どちらともいえない	19	(16.2)
そう思う	38	(32.5)
とてもそう思う	41	(35.0)
合計	117	9.3
6) 海外研修・短期留学などの活動に積極的に取り組んだ		
まったくそう思わない	44	(38.3)
そう思わない	28	(24.3)
どちらともいえない	15	(13.0)
そう思う	16	(13.9)
とてもそう思う	12	(10.4)
合計	115	9.1

note:表中(%)は有効回答中のパーセントを示し、カッコなし%は該当者数の回答者割合を示す

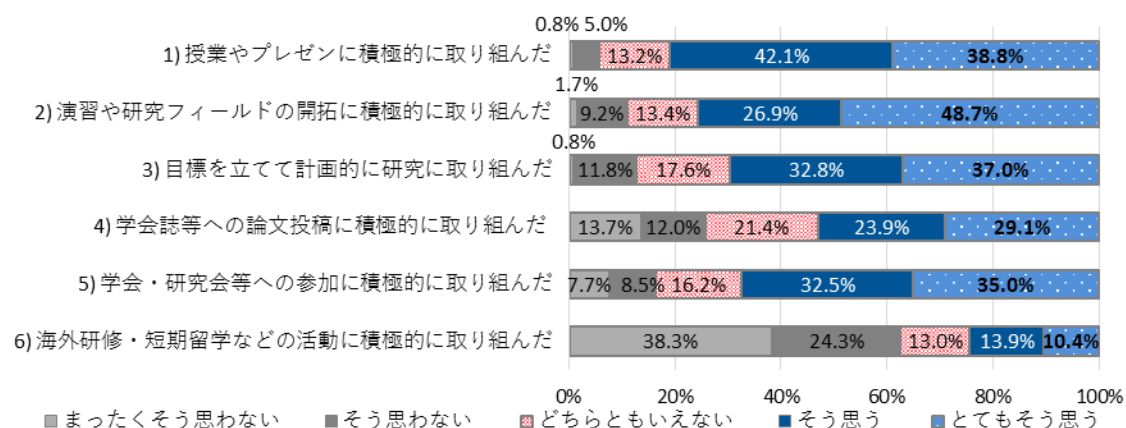


図 40 在学中の学習に対する姿勢〔博士後期課程〕

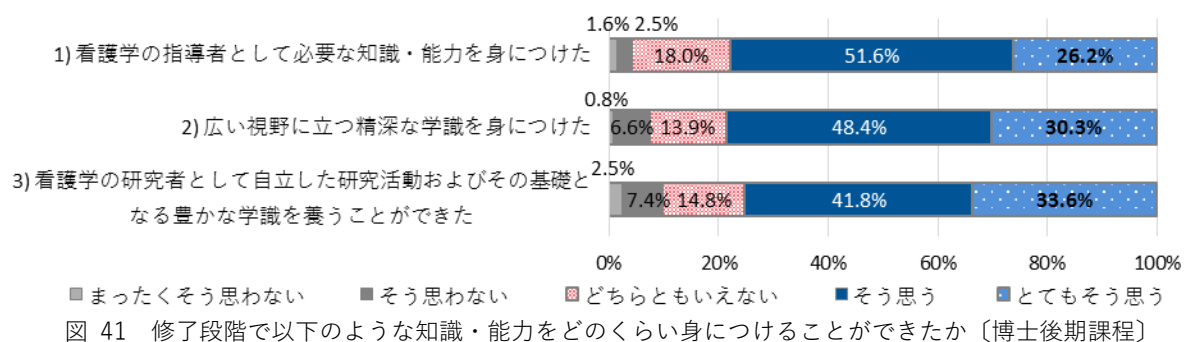
3) 修了時に身につけた知識・能力

「看護学の指導者として必要な知識・能力を身につけた」「広い視野に立つ精深な学識を身につけた」「看護学の研究として自律した研究活動およびその基礎となる豊かな学識を養うことができた」という項目について、「そう思う」「とてもそう思う」と回答した割合がいずれも 80%以上であった。本学の博士課程の最終試験の審査項目でもある「今後の研究課題の展開およびこれから自立して研究者としてやっていける見通しを持っているか」、「看護研究者として、幅広い知識・教養を有しているか」という点について、多くの修了生が達成していると推察される（表 26、図 41）。

表 26 修了段階で身につける事ができたと思う知識・能力〔博士後期課程〕(n=1262)

	n	(%)
1) 看護学の指導者として必要な知識・能力を身につけた		
まったくそう思わない	2	(1.6)
そう思わない	3	(2.5)
どちらともいえない	22	(18.0)
そう思う	63	(51.6)
とてもそう思う	32	(26.2)
合計	122	9.7
2) 広い視野に立つ精深な学識を身につけた		
まったくそう思わない	1	(0.8)
そう思わない	8	(6.6)
どちらともいえない	17	(13.9)
そう思う	59	(48.4)
とてもそう思う	37	(30.3)
合計	122	9.7
3) 看護学の研究者として自律した研究活動およびその基礎となる豊かな学識を養うことができた		
まったくそう思わない	3	(2.5)
そう思わない	9	(7.4)
どちらともいえない	18	(14.8)
そう思う	51	(41.8)
とてもそう思う	41	(33.6)
合計	122	9.7

note:表中(%)は有効回答中のパーセントを示し、カッコなし%は該当者数の回答者割合を示す



4) 卒後のキャリアを築く上で在学中に学んだことが役に立っている度合い

「基盤分野科目」、「専門分野科目」、「博士論文」のすべての項目において、「やや役立っている」・「役立っている」と回答した割合が80%以上であった。自立した看護学の研究者としての能力を取得するうえで、専門分野だけではなく、看護理論、看護研究法、統計学などの幅広い知識を基盤に学べることは強みである。また、博士論文の作成における教育・支援体制があり、今後のキャリア構築や選択にも良い影響を与えることが考えられる（表 27、図 42）。

表 27 卒後のキャリアを築く上で在学中に学んだことはどのくらい役に立っているか〔博士後期課程〕 (n=1262)

	N	(%)
1) 基盤分野科目（理論看護学、看護学方法論等）		
履修しなかった	5	(4.1)
全く役に立っていない	0	(0.0)
あまり役立っていない	7	(5.7)
やや役立っている	38	(31.1)
とても役立っている	72	(59.0)
合計	122	9.7
2) 専門分野科目（各専門分野科目）		
履修しなかった	5	(4.2)
全く役に立っていない	0	(0.0)
あまり役立っていない	8	(6.8)
やや役立っている	42	(35.6)
とても役立っている	63	(53.4)
合計	118	9.4
3) 博士論文		
履修しなかった	12	(11.0)
全く役に立っていない	1	(0.9)
あまり役立っていない	6	(5.5)
やや役立っている	16	(14.7)
とても役立っている	74	(67.9)
合計	109	8.6

note:表中(%)は有効回答中のパーセントを示し、カッコなし%は該当者数の回答者割合を示す

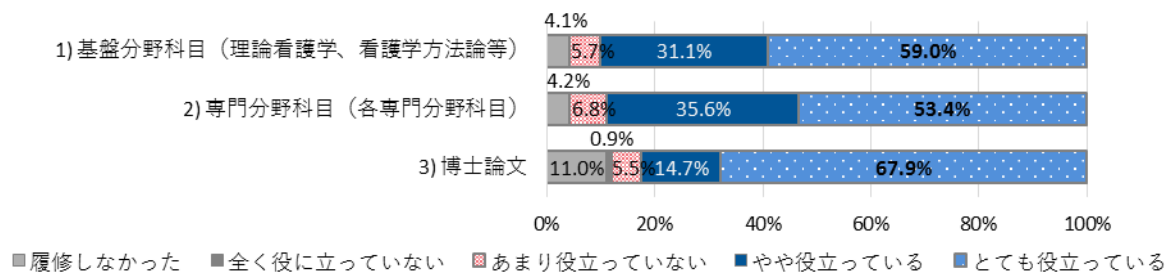


図 42 卒後のキャリアを築く上で在学中に学んだことはどのくらい役に立っているか〔博士後期課程〕

5) 在学中、特に意欲的に学んだ科目

在学中、特に意欲的に学べた科目を自由記載にて回答してもらい、科目名・教員名別に集計した (表 28, 29)。

表 28 特に意欲的に学べた科目 科目別〔博士後期課程〕

科目名	件数	看護研究方法論	12	小児看護学	2
基盤分野	1	看護社会学	5	老年看護学特論	1
ケビン先生の英語	1	看護理論	4	老年看護学演習	1
特別講義英論文の書き方	1	看護倫理	1	予防保健	1
社会学方法論	1	基礎解剖	1	理論	1
公衆衛生学	2	脳外科学	1	理論看護学	10
心理学	1	特別研究	1	博士論文	7
心理学方法論	1	専門分野の全科目	1	執筆に関する科目	1
生化学	1	特論	2	総計	86
生物統計	1	演習	1	※1988 年博士課程開設	
疫学	1	臨床・実習	1		
学外の講師を招へいした	1	基礎看護	1		
ショートプログラム		基礎看護学特論	1		
高等統計学	7	基礎看護学演習	1		
看護学方法論	4	母性看護	1		
看護教育学	1	産婦人科学	1		
看護研究 (特論)	1	助産学	2		

表 29 特に意欲的に学べた科目 教員別〔博士後期課程〕

教員名	件数	アリシア先生 (イリノイ)	1	菱沼先生	1
田代順子先生	19	Dr 日野原重明	1	麻原きよみ先生	1
柳井晴夫先生	6	井部俊子先生	1	木村登紀子先生	1
伊藤和弘先生	5	羽山教授	1	林直子	1
堀内成子先生	5	黒田裕子先生	1	総計	62
Dr.Holzemer	4	松下和子先生	1	※1988 年博士課程設置	
亀井智子先生	4	松谷美和子先生	1	note: 自由記載を集計しているため、敬称等の表記は実際の回答に記載されていた表現を使用している	
及川郁子先生	2	東大チーム (教授法、ID)	1		
小松浩子先生	2	日向野先生 (立教、当時)	1		
Kevin Seaver 先生	1				
Matthews 先生	1				

5. 就業経験（キャリア）、社会的活動

1) 卒業・修了後から現在までに経験した勤務先

卒業・修了後から現在に至るまでに経験した勤務先として最も多いのは、病院の 81.3%であり、医療機関（病院・診療所）、助産所、訪問看護ステーションを合計すると 96.7%にのぼった。教育・研究機関（小・中・高等学校、専門学校、短期大学、大学、研究機関）での勤務経験がある者が 56.1%、官庁や地方自治体は 24.2%、一般企業は 15.0%、独立行政法人機関や財団・社団法人は 2.7%、職能団体は 2.0%、国際機関や NPO・NGO 法人は 1.4%と多様な勤務先で活躍していることがうかがえた。常勤を経験した者の割合は、60.3%であった。

本学の卒業時の就職率は 98.0%(2019 年)¹⁰と高く、看護基礎教育課程の卒業後には医療機関にて看護師として経験を積んでいることが推測される。大学での就業経験が 31.0%と病院に次いで 2 番目に多い背景としては、修士号や博士号を取得する者が多いため、大学教員をはじめとする教育・研究機関の職員として勤務する割合が多いことが考えられる。（表 30、図 43）

表 30 卒業・修了後から現在までに経験した勤務先（複数回答）

	n	%
勤務先（複数回答）		
病院	998	(81.3)
診療所	132	(10.8)
助産所	27	(2.2)
訪問看護ステーション	79	(6.4)
福祉施設	86	(7.0)
小・中・高等学校	113	(9.2)
専門学校	76	(6.2)
短期大学	93	(7.6)
大学	380	(31.0)
研究機関	26	(2.1)
官庁	29	(2.4)
地方自治体	268	(21.8)
国際機関	8	(0.7)
一般企業	184	(15.0)
その他	29	(2.4)
NPO, NGO	9	(0.7)
独立行政法人機関	11	(0.9)
職能団体	24	(2.0)
検診・健診機関	12	(1.0)
自営	10	(0.8)
財団・社団法人	22	(1.8)
保険組合	7	(0.6)
就業形態		
常勤のみ	735	(60.3)
非常勤のみ	16	(1.3)

¹⁰ 教務・学生課作成資料より

両方	468	(38.4)
合計	1219	96.6

note: 勤務先(%)は回答者数 1227 名に対する割合

「その他」以下の 7 項目は、「その他」を選択した回答のうち具体的な職業の記述があったものから再分類した。分類不可能なものを「その他」として再集計した。就業形態(%)は、有効回答中のパーセントを示し、カッコなし%は該当者数の回答者割合を示す

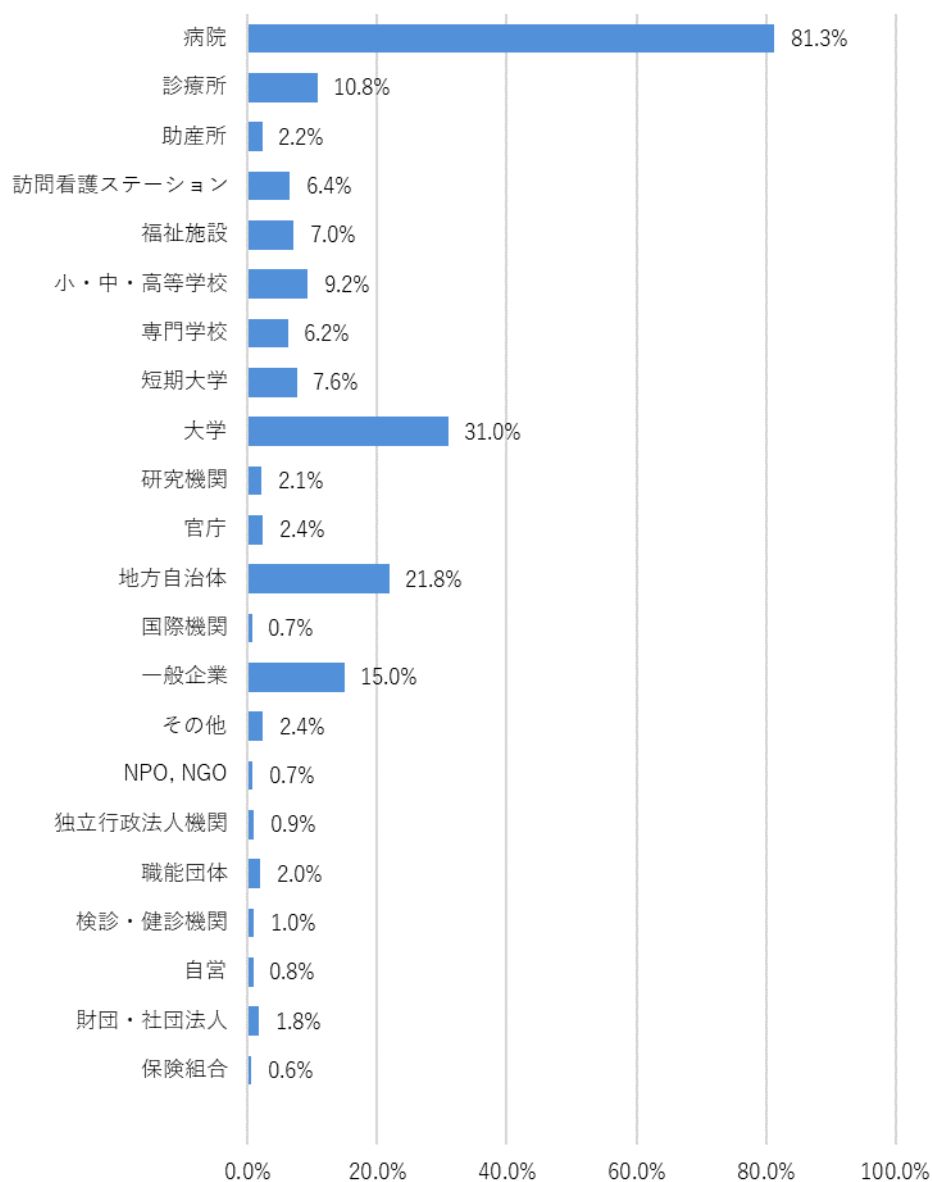


図 43 本学卒業・修了後から現在までに経験した勤務先（複数回答）

2) 経験したことのある職位

これまでに経験した職位について複数回答による結果を求めたところ、796 名から回答があった。看護学分野やその他の領域における指導的な立場の職の経験として、中等後教育機関(大学)教授が 18.8%と最も多い。ほかにも職能団体・学術団体等の看護関連団体の理事・委員長の経験者が 12.6%と多くみられた。このことは、卒業生が看護教育や医療を支えるリーダーや看護学の発展に寄与しうる人材への成長を遂げている結果であるといえる。(表 31, 図 44)

表 31 これまでに経験した職位（複数回答）

	n	(%)*1
医療・福祉機関		
看護部長(総婦長)	29	(3.6)
副院長	10	(1.3)
院長	1	(0.1)
施設長(訪問看護ステーション管理者,福祉施設等)	34	(4.3)
中等後教育機関(専門学校, 高等専門学校, 短期大学, 大学, 大学院)		
教授	150	(18.8)
学科長・教務主任	61	(7.7)
学部長・研究科長	38	(4.8)
副学長・副総長	9	(1.1)
学長・総長・理事長	7	(0.9)
看護関連団体(学会, 職能団体等)		
理事・委員長	100	(12.6)
副代表・副理事長	26	(3.3)
代表 理事長	21	(2.6)
初等・中等教育機関		
副校長・教頭	3	(0.4)
校長	1	(0.1)
一般企業・団体		
部長級以上の管理職	8	(1.0)
経営者・役員(社長・執行役・理事長・理事等)	12	(1.5)
官庁		
課長級	7	(0.9)
部長級	2	(0.3)
地方公共団体		
課長級	23	(2.9)
部長級	8	(1.0)
局長級	1	(0.1)
地方議会議員	1	(0.1)
その他	32	(4.0)
上記の職を経験したことは無い	517	(64.9)

note: 表中(%)は、回答者数 796 名に対する割合を示す

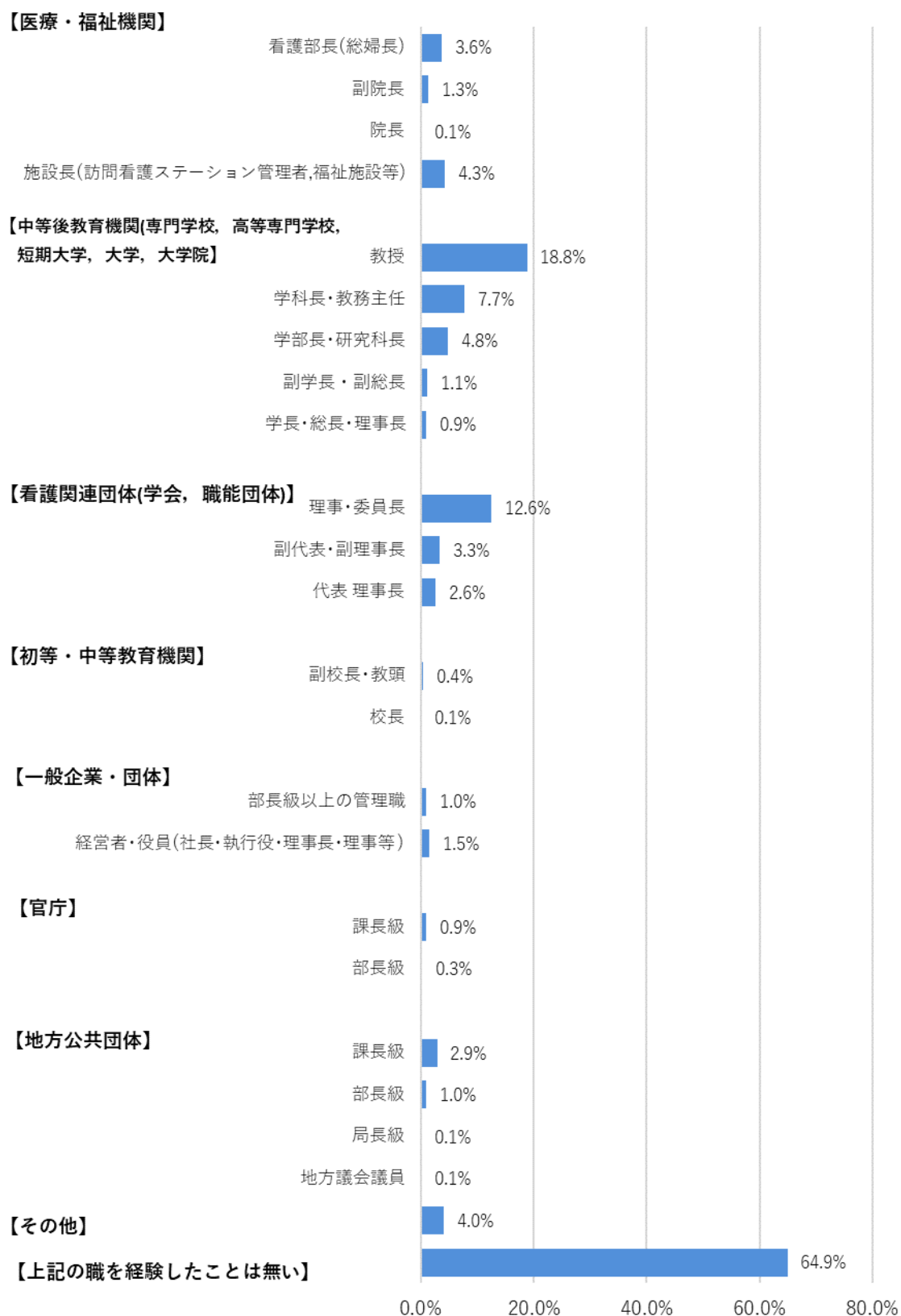


図 44 これまでに経験した職位（複数回答）

3) 海外における研修等の受講経験

海外に3ヶ月以上滞在して研修等を受講した経験について、主なものを3つまで回答を求めた(表32)。

表 32 海外の研修等受講経験

機関(コース名)	国名
City University London (最長2か月プラス短期数回)	イギリス
修士課程	カナダ
グラデュエイトコース セントメアリ病院、イーヨーククリニック主催	アメリカ
University of Pittsburgh (Nursing Administration)	U.S.A
UCSF	米国
ソエゾンコミッティ海外研修	アメリカ
デラウェア大学看護学部修士課程	アメリカ
兵庫県立看護大学 在外研修	アメリカ
文部科学省若手在外研究員	オーストラリア
継続教育センター, NYU	米国
WHO フェローシップボストン大学看護学部	アメリカ
病院研修	北欧
English Speaking & Bible study	イギリス
Columbia Presbytericon Medical Center “Exchange-Visitor Program for Graduate Professional Nurse”	アメリカ ニューヨーク
HMSS	米国
ILSC Medical English Course	カナダ
語学学校 (medical English)	カナダ
ジマンダー研修 プロジェクト評価研修	ベトナム
Exchange Nursing Program	米国
日米教育委員会フルブライト奨学金	米国
カルフォルニア大学サンフランシスコ校 Special studies program	U.S.A
語学研修	アメリカ
Rivire College 一般教養	USA
文部省短期在外研究員	米国
米国ハワイ州のハワイ大学 (看護学部及び大学院修士課程に客員研究員として)	米国
Exchange Nurse Program	米国
聖公会のサポート	アメリカ
地方自治体公立大学の海外研修派遣制度 在宅看護	米国カルフォルニア州
Rusk Rehabilitation Hospital (Horticultural therapy)	USA
TAFE NSW Certificate 3 in Heath Assistant	オーストラリア
Oxford Brookes University MSc in Public Health	United Kingdom
交換看護プログラム	アメリカ
Exchange visitor nurse	米国 シカゴ市
Paramedic Pregrum Chemeketa Community College 2年制の救命士養成コース短大にて	アメリカ
カリフォルニア大学サンフランシスコ校 看護学部特別研究課程	アメリカ
交換看護婦研修コース	アメリカ
N.Y.Rochester 大学看護学部客員准教授として博士課程受講	米国
エモリー大学公衆衛生大学院	米国
短期在外研究 (文部省)	アメリカ合衆国

University of New Castle Upon Tyne	UK
re entering to Acte care Nursing for RN	USA
語学研修	イギリス
University of Wisconsin Milwaukee ESL	アメリカ合衆国
フランス語学校	ブリュッセル
Harvard Humanitarian Initiatives	USA
World Health Organization Regional Office for South East Asia	インド
医療観光コーディネーター	韓国
Hawaii Pacific Univerity 看護学部	アメリカ
医療通訳イントロダクションプログラム	カナダ
Certificate 3	オーストラリア
English school of canada	カナダ
institute of tropical medicine antwerp (質的研究法・ミックスメソッド)	ベルギー
世界保健機関本部(インターンシップ)	
International Leadership Training	フィリピン
MD.Anderson Hospital and Tumor Institute in Texas Medical Center “Exchange-Visitor Program for Graduate Professional Nurse”	アメリカ ヒューストン
モニタリング研修 Result based Mangement 研修	ルワンダ
TAFE QLD Certificate 3 in Pathlogy	オーストラリア
卒後教育プログラム	アメリカ
Introduction to Labor Delivery Nurse	USA
WHO internship	Philippines
Hawaii Pacific University 看護修士	アメリカ
スペイン語研修	エクアドル
University of Basel research intensive course	
University of Hawaii at Hilo Doctor of Nursing Practice	アメリカ

note: 回答原文のまま

4) 国内外の学会活動

これまでに所属したことがある学会のうち主なもの3つについて、自由記載で回答を求めた(表33)。

表 33 これまで所属したことがある学会

学会名	n		
アジアパシフィック渡航医学会	1	学校保健学会	5
アメリカ公衆衛生学会	1	看護教育学会	1
こども環境学会	1	看護経済政策研究学会	1
メンタルヘルス学会	1	看護理工学会	1
移植学会	1	健康(旧民族衛生)学会	1
遺伝カウンセリング学会	2	健康教育学会	1
遺伝性腫瘍学会	1	健保連(全国健康保険組合連合会)	1
医学会	1	呼吸療法医学会	1
医療の質安全学会	4	公衆衛生学会	22
医療経済学会	1	高加齢学会	1
応用心理学会	1	国際がん看護学会	1
家族性腫瘍学会	1	国際サポーターケア学会	1
		国際医療保健学会	1

国際看護学会	2	対人支援学会	1
国際看護学会（アメリカ）	1	大阪母性衛生学会	1
国際看護学会（オーストラリア）	1	地域保健学会	1
国際看護学会（カナダ）	1	東京ストーマリハビリテーション学会	1
国際小児がん（SIOP）学会	1	東京女子医科大学看護学会	1
国際渡航医学会	1	東京地区看護婦研修会	1
国際保健学会	1	東京都保健医療学会（東京都衛生局学会）	1
国際保健医療学会	12	東京母性衛生学会	2
国際幼児教育学会	1	難病看護学会	2
災害医学会	1	日本アディクション看護学会	1
在宅ホスピス協会	1	日本アロマセラピー学会	1
産業医学会	1	日本いのちの教育学会	1
産前産後子育て支援学会	1	日本エイズ学会	4
司法精神医学会	1	日本カウンセリング学会	2
思春期医学会	1	日本がん看護学会	43
死の臨床研究会	3	日本クリティカルケア看護学会	11
社会心理学会	1	日本クリニカルパス学会	7
手術看護学会	1	日本サイコオンコロジー学会	5
周産期メンタルヘルス学会	5	日本サポーティブケア学会	1
周麻酔期看護学会	1	日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会	1
集団災害医学会	1	日本ストレス学会	1
集中治療	1	日本トラウマティック、ストレス学会	2
集中治療医学会	6	日本ニューロサイエンス看護学会	1
重症心身障害児学会	1	日本ヒューマン・ケア心理学会	2
循環器看護学会	2	日本フォレンジッグ看護学会	1
助産学会	6	日本フットボール学会	1
女性心身医学会	1	日本プライマリ・ケア連合学会	2
小児学会	1	日本ヘルスプロモーション学会	1
小児アレルギー学会	1	日本リウマチ看護学会	1
小児臨床アレルギー学会	1	日本リハビリテーション看護学会	2
昭和 53 年度（厚生省認定）看護教員養成講習会	1	日本リハビリテーション連携科学学会	1
障害児療育学会	1	日本ルーラルナース学会	3
心臓リハビリテーション学会	1	日本移植学会	1
心不全学会	2	日本遺伝カウンセリング学会	2
心理相談委員会	1	日本遺伝看護学会	10
新生児学会	1	日本医学教育学会	1
新老人の会	1	日本医事法学会	1
神奈川県公衆衛生学会	1	日本医療・病院管理学会	4
世界災害看護学会	1	日本医療マネジメント学会	1
世界集中治療学会	1	日本医療情報学会	1
世代間交流学会	1	日本医療保育学会	1
性科学医学会	1	日本衛生学会	1
性感染症学会	1	日本疫学会	3
精神科デイケア学会	1	日本園芸療法学会	1
精神看護学会	1	日本音楽療法学会	1
精神分析学会	1	日本家族看護学会	7
精神保健看護学会	5	日本家族心理学会	1
聖路加看護学会	62	日本介護福祉学会	2
静岡県母性衛生学会	1	日本介護福祉教育学会会員	1
千葉県公衆衛生学会	1	日本学校保健学会	8
専門看護師協議会	1	日本感染症学会	1
全国公衆衛生学会	1	日本環境感染学会	3
全国大学保健管理研究集会	1	日本看護学会	8
総合健診学会	1	日本看護科学学会	214

日本看護学教育学会	25	日本小児保健協会	1
日本看護管理学会	64	日本心身医学（学会）	1
日本看護技術学会	20	日本心臓リハビリテーション学会	3
日本看護協会	3	日本心理臨床学会	2
日本看護教育学学会	2	日本新生児看護学会	7
日本看護教育学会	10	日本人間ドック学会	3
日本看護研究学会	32	日本腎不全看護学会	3
日本看護師学学会	1	日本生殖医学会	1
日本看護診断学会	4	日本生殖看護学会	8
日本看護倫理学会	7	日本生命倫理学会	1
日本看護歴史学会	2	日本生理学会	1
日本緩和医療学会	25	日本精神衛生学会	1
日本虐待防止学会	2	日本精神看護学会	1
日本救急看護学会	5	日本精神障害者リハビリテーション学会	2
日本教育相談学会	1	日本精神神経学会	1
日本靴医学学会	1	日本精神保健看護学会	20
日本結核病学会	1	日本精神保健福祉士学会	1
日本健康教育学会	3	日本静脈経腸栄養学会	2
日本健康心理学会	1	日本赤十字看護学会	2
日本研究学会	1	日本摂食・嚥下リハビリテーション学会	1
日本呼吸ケア・リハビリテーション学会	2	日本創傷オストミー失禁管理学会	2
日本呼吸療法医学会	3	日本双生児研究学会	1
日本交流分析学会	2	日本総合病院精神医学会	4
日本公衆衛生学会	47	日本造血細胞移植	3
日本公衆衛生看護学会	39	日本体力医学会	1
日本口腔ケア学会	1	日本代替医療学会	1
日本高齢者虐待防止学会	1	日本地域看護学会	30
日本国際保健医療学会	8	日本転倒予防学会	1
日本災害看護学会	4	日本電話相談学会	1
日本在宅ケア学会	20	日本渡航医学会	1
日本在宅看護学会	10	日本糖尿病教育・看護学会	3
日本産業カウンセラー協会	1	日本透析医学会	2
日本産業ストレス学会	2	日本内視鏡外科学会	1
日本産業衛生学会	34	日本乳癌学会	3
日本産業看護学会	4	日本認知症学会	1
日本産業精神保健	3	日本認知症ケア学会	2
日本子ども虐待防止	6	日本脳神経看護研究学会	1
日本思春期学会	12	日本病院学会	1
日本児童青年精神医	1	日本病態栄養学会	1
日本社会福祉学会	3	日本不妊カウンセリング学会	2
日本手術医学会	2	日本保育学会	1
日本手術看護学会	3	日本保育保健学会	1
日本周産期メンタルヘルス学会	2	日本保健医療学会	1
日本周麻酔期看護学会	1	日本保健医療行動学会	1
日本集中治療医学会	6	日本保健医療社会学会	3
日本重症心身障害学会	1	日本保健医療人類学学会	1
日本循環器看護学会	6	日本保健師活動研究会	1
日本助産学会	68	日本母性衛生学会	38
日本助産師学会	1	日本母性看護学会	3
日本小児がん看護学会	13	日本麻酔科学会	4
日本小児看護学会	35	日本慢性看護学会	6
日本小児救急医学会	1	日本慢性期医療学会	1
日本小児循環器学会	1	日本輸血・細胞治療学会	1
日本小児保健学会	15	日本旅行医学会	2

日本臨床救急医学会	1	養護教諭教育学会	2
日本臨床死生学会	2	Aging&Social Change	1
日本臨床試験学会	1	American Association Neuroscience Nurses	1
日本臨床腫瘍学会	3	American Association of Nurse Practitioners	1
日本臨床腎移植学会	1	American Public Health Association	2
日本臨床麻酔科学会	1	American Society of Clinical Oncology	1
日本臨床倫理学会	2	Bernoulli Society	1
日本老年医学会	1	CNS	2
日本老年看護学会	20	ICN	1
日本嚥下リハビリテーション学会	1	ICOH	1
日本褥瘡学会	4	International Board Lactation Consultant	1
日本 CNS 看護学会	1	Association (ILCA) USA	
日本 NP 学会、日本訪問看護財団	1	International Early Psychosis Association	1
日本 VAD ユニソーシアム学会	1	International Society for Anthrozoology	1
認知症ケア学会	2	JANS	1
箱庭療法学会	1	JasPCAN	1
不妊カウンセリング学会	1	Lactation Consultant Association Australia and	1
富山県公衆衛生学会	1	Newzealand (LCANZ)	
腹膜透析学会	1	Sigma Theta Tau International	1
文化看護学会	1	Society of Clinical Data Management	1
米国電気電子学会	1	Society of Clinical Research Association	1
保育学会学会	1	STTI	1
保健医療社会学会	1	WADEM	1
保健師学術研究会	1	World Federation Neuroscience Nurses	1
母性学会	1	note: 同一と判断した学会名を統合	
母性保健学会	1		
母乳哺育学会	2		
放射線看護学会	1		
放射線腫瘍学会	1		
北海道公衆衛生	1		
北陸（地域）公衆衛生学会	1		
民族衛生学会	1		

5) これまでの主な社会的貢献活動、ボランティア活動など

これまでの主な社会的貢献活動、ボランティア活動などについて自由記載で回答を求めた（表 34）。

表 34 これまでの主な社会的貢献活動、ボランティア活動（自由記載）

イマコプロジェクト(石巻での漁師ホームステイ型ボランティア)
セブンウェーブス（NPO）たちあげ ブラジル母子教材作成
タンザニアのハイドン・ルーテル教病院にて分娩介助と補助のボランティア
ピープルズホープジャパン（国際協力 NPO）運営委員及びアドバイザー 東南アジア地域の母子保健人材育成プロジェクトに関する助言、指導 ミャンマー、カンボジアの現地での人材育成支援、講演、スーパービジョンなど
フリーマーケットを開き収益を被災地に送る
一般社団法人 日本精神保健看護学会 理事
学校ボランティア
学士時代 聴覚障害児の外あそび支援のボランティア活動
学術会議など
学童保育クラブ父母副会長

熊本地震後の益城町での避難所の環境整備と行政職員サポート
研修会講師・コンサルティション、ケアプログラム、看護相談等
県の協議会
高齢者（老々世帯や独居）、生活保護の方のお昼配食や会食、介ゴ保険外看ゴサービス¥300/h（受診付添や外出サポート etc）教会の奉仕活動諸々
埼玉県日高市心の健康づくり（市民対象学習会）など
仕事ですが、災害支援
児童見守りボランティア（放課後）
性教育（小学校、中学校）
聖路加看護学会将来構想委員
第三者評価会議委員
帝京大学医学部臨床研究審査委員会委員 2018 年～
東京 2020 にて医療ボランティア活動予定
東東京緩和ケアネットワーク幹事
特別養護老人ホームでのケア
日本看護科学学会広報委員会委員
日本看護科学学会国際活動推進委員会委員
日本看護協会の委員
日本助産師会編集委員
福島～（きぼうのプロジェクト）
文部科学省特色ある大学教育支援プログラムペーパーレフリー
北アイルランド 子どもたちへ文房具の配布
NPO ナースネット上越 理事長
NPO 法人のメンバーとして病児保育
N P O 法人障害者支援センター 監事
YMCA を通して、アメリカでのキャンプリーダーボランティア

note: 回答原文のまま

6. 卒業生動向調査のまとめ

聖路加国際大学看護教育 100 周年を記念して、本学のすべての同窓生を対象とした調査としては 1969 年以来、50 年ぶりの実態調査となった。今回は看護基礎教育、大学院教育を受けて卒業・修了した方々を対象としている。しかしながら、認定看護管理者コースや認定看護師教育課程、公衆衛生大学院の修了者は含んでいない。

今回の調査の回収率は 33.4%であったことは、予想以上に高かった。また、調査回答方法では、紙媒体の回収数の方多かったが、web 回答者も 500 名を超えており、年代によっては QR コードからの回答に利便性を感じていると思われた。

回答者の平均年齢は 47.3 歳であり、卒後約 25 年目が平均像であるが、卒後間もない方から、代筆者からメモが同封され、90 歳を超えた卒業生の回答を聞き取って代筆いただいたケースもあるなど、回答層は幅広く、全世代から得られていた。教育を受けた課程についても、聖路加女子専門学校、興健女子専門学校、聖路加短期大学、聖路加看護大学、聖路加国際大学、各編入者、修士課程、博士課程とすべての課程から回答が寄せられ、多くの同窓生からの協力により、本結果が得られたと感じることができた。

回答者の現在の居住地は、東京、およびその近県居住者が大多数を占め、これは、入学者に関東出身者が多いことや、その後の就業地との関連があるものと考えられる。また、本学での看護基礎教育終了後、大学院修士課程への進学者は本学、国内他大学院、海外大学院を含め 25.8%であり、先行研究と比較して 25 倍と非常に高い進学率を示していることは特筆に値するであろう。看護学へのたゆまぬ探求心をもち、助産師・保健師の国家試験受験資格の取得のため、あるいは専門看護師受験資格の取得のため、また、研究者の道に進むためなど、各々の進学動機をもって看護の資質向上へ意欲的に進んでいると考えられ、大学へのニーズは看護基礎教育終了後も続いているといえる。本学では、長きにわたり、学部教育で保健師・助産師・看護師国家試験受験資格が得られるようにカリキュラムが組まれていたが、2005 年より、助産師教育、その後 2015 年度より保健師教育は修士課程教育に移行している。そのため、最近の大学院では、国家試験受験資格の修得のみにとどまらず、研究力や総合力を身につけ、高度な資質を備える人材育成にもつながっている。

看護基礎教育在学中の学習姿勢は、計画的な学習、予習・復習、グループワーク、実習のほとんどの項目で「積極的な姿勢を持っていた」と回答し、教養科目、専門基礎科目、看護の専門科目のすべてにおいて、半数以上が学習姿勢を身につけていたとした。特に、実習・演習の取り組みへの積極性が最も高く、実践科学である看護を学ぶ学生の学習姿勢として、対象者を目の前にした実習・演習はどの時代でも真摯に取り組まれていたと捉えられる。また、海外研修・短期留学では、多くの回答者は「積極的ではなかった」と回答しており、特に、聖路加短期大学卒業者に際立って多かった。これは戦後の混乱期という社会情勢が影響していることを加味する必要がある。また建学の精神である、キリスト教精神にもとづく人々の理解や共感の態度、看護を必要としている人への看護実践のための知識・技術・態度、生涯にわたる自己形成、そして看護専門職としてのリーダーシップと協働の能力などでは、卒業生・修了生に広く浸透していることを把握することができた。

大学院修士課程(博士前期課程)については、実習・演習や研究フィールドの開拓、目標を立てて計画的に研究することなどは8割以上が「積極的である」としたが、学会誌等への論文投稿や海外研修・短期留学では、約2割程度にとどまっていた。修士課程は2年間で基本であり、コースによっては、修得科目が多いため、論文作成や海外研修を志向することが難しいものととらえられる。修士課程での科目や実習・演習、修士論文/課題研究は95%以上で「役に立っている」とされ、修士課程はこれらの面で特に有用であると判断できるものであった。

博士後期課程については、回答者の7.1%が本学の博士課程を修了していた。学位取得時の平均年齢は42歳と、学部卒業後約20年の頃と考えられる。ただし、20歳代後半から51歳以上と学位取得時の年齢には非常に幅があるため、各自のニーズやライフイベントとの関連で進学時期が検討されていると考えられた。

入学後の取り組みは、授業、プレゼンテーション、フィールド開拓、計画的な研究への取り組み、学会などへの参加などについて、「積極的に行った」としたものが多く結果であった。修了時には質問項目の3つで「とても身についた・身についた」と回答され、修了後のキャリアを築く上で、学習姿勢と合わせ、看護学指導者として必要な知識・能力を身につけたと回答していた。

在学中に意欲的に学んだ科目名や教員名からは、1940年代は倫理や看護技術、1950年代は社会学や医療福祉、実習、1960年代では、看護専門領域の幅が広がり、1970年以降では、科目名も教員名も幅がさらに広がるなど、大学教育に移行したことにより開講科目が広がり、学生の印象に残った科目もそれぞれであったと捉えることができた。

今回の調査の中では、特に本学卒業・修了者のその後のキャリアの形成の実態を把握することが目玉として含まれている。分析から明確化した点として、卒業・修了後に病院・診療所の医療機関、助産所・訪問看護ステーションの助産・看護提供機関での勤務を経験した者が96.7%とほとんどであり、このほか、小中高等学校、専門学校、短期大学、大学、研究機関での勤務経験が56.1%、官庁・地方公共団体24.2%、企業15.0%、福祉施設7%、財団・法人関係2.7%などが比較的多いことが分かった。また、職位の経験では、医療・福祉機関の管理職9.3%、教育機関学長・理事長・学部長・学科長・教授職33.3%、学会や職能団体の理事長など18.5%、地方公共団体課長級以上4.1%と、要職勤務を通じて医療や看護実践、看護教育や看護研究、看護管理を推進し、看護学の発展に様々な形で貢献している実態を把握することができた。これらのキャリア形成と卒後の経過年数の分析は、資料の聖路加国際大学紀要に詳細に報告することとした。

今回の実態調査を通して、聖路加国際大学が担ってきた100年の看護教育は、その時代や社会情勢、社会のニーズによって様々に変遷してきたものの、キリスト教精神に基づくあらゆる人々の理解と共感の態度を根底に、看護の実践に関する知識・技術・態度を身に付け、さらに幅広く学問を探求する姿勢や、多角的な思考性を身につけ、看護専門職としてのリーダーシップを保健・医療・福祉・学校・地域・行政・企業などの場において発揮することで、看護学の発展に貢献していることを把握することができた。本学が100年にわたり培ってきたこのミッションを今後も引き継ぎ、さらに研鑽を重ねていく必要があると考えられた。

本調査を実施するためのワーキンググループは、2018年12月に発足し、2019年1月8日から毎月定期的にミーティングを開催し、調査計画の立案、調査票作成と郵送、分析、考察、報告書の作成を進めた。調査票の作成にあたっては、学長・学部長・研究科長、大学史編纂資料室、聖路加同窓会からの多大なご協力をいただいた。2020年2月後半から現在は、新型コロナウイルス

(COVID-19)感染拡大の影響により、web 上での会議により制約のある中で検討を進めてきた。この状況も 100 年に 1 回の出来事であるとも聞いている。これからの 100 年はわが国の人口構造も変化が起こり、おそらく今以上に看護が求められると考えられる。益々の聖路加国際大学の看護教育の発展を願うものである。

最後に、今回多くの卒業生・修了生からの回答をいただいたことに、心からの謝意を表したい。看護教育 100 周年にあたる 2020 年 11 月に本報告書をまとめることができたことは、ワーキングメンバー一同、大きな喜びである。

2020 年 11 月 24 日

100 周年記念事業 卒業生動向調査ワーキンググループを代表して

亀井智子

7. 資料

7.1. 資料 1 調査表

調査票

卒業生動向調査ご協力のお願い

調査へのご協力のお願い

聖路加国際大学は、1920 年にミセス・セントジョン女史らによる看護教育が開始されて以来、2020 年で 100 周年の節目を迎えます。

これを記念して、聖路加国際大学を卒業・修了した皆様の卒業後のキャリアの実態を調査し、本学の看護教育と成果について振り返ることを目的として、この度「看護教育 100 周年記念事業卒業生動向調査」を行うことになりました。

この調査は、大学と聖路加同窓会の連携により実施するものです。多くの同窓生の皆様のご協力をお願いいたします。

2019 年 10 月吉日

聖路加国際大学卒業生動向調査ワーキンググループ

調査対象、調査内容と解析目的

この調査は、本学において看護教育・大学院教育を受けて卒業・修了した方々を調査対象とします。

調査の主な項目は、A.回答者の属性、B.本学在学中の教育内容、C.卒業後のキャリアの概要です。可能な限り全ての項目にご回答いただきたいと思います。回答したくない項目には、回答いただく必要はありません。

回答の方法

下記の2種類の中から、回答方法をお選びください。調査項目はどちらも同じです。

- ①本調査票に回答を直接書き込んで、同封の返信用封筒を用いて返送する
- ②下記の QR コードから調査用ウェブサイトへアクセスして、ウェブ上で回答を入力する

個人情報の保護

回答は、統計的に処理し、個人を特定することはありません。収集した情報は本調査の目的以外には使用しません。

回答期限

2020 年 1 月 6 日(月)【郵送は消印有効、ウェブ回答は 23 時 59 分まで】

ウェブ回答

調査用ウェブサイト(URL:<http://www.SLCN-survey.accelight.jp>)



結果の公表

解析した結果は聖路加国際大学 HP で公開し、その要約を看護教育 100 周年記念誌に掲載予定です。

問合せ先

聖路加国際大学看護教育 100 周年記念事業卒業生動向調査 WG

〒104-0044 東京都中央区明石町 10-1

TEL:03-3543-6391(代表)

電子メール:archives@luke.ac.jp

A.あなたご自身についてお尋ねします

問1	あなたの年齢	歳
問2	あなたの性別	1.男性 2.女性 3.どちらでもない
問3	現在の婚姻状況	1.結婚したことはない 2.結婚している(事実婚を含む) 3.離別・死別した
問4	現在居住している県	1.北海道 2.青森県 3.岩手県 4.宮城県 5.秋田県 6.山形県 7.福島県 8.茨城県 9.栃木県 10.群馬県 11.埼玉県 12.千葉県 13.東京都 14.神奈川県 15.新潟県 16.富山県 17.石川県 18.福井県 19.山梨県 20.長野県 21.岐阜県 22.静岡県 23.愛知県 24.三重県 25.滋賀県 26.京都府 27.大阪府 28.兵庫県 29.奈良県 30.和歌山県 31.鳥取県 32.島根県 33.岡山県 34.広島県 35.山口県 36.徳島県 37.香川県 38.愛媛県 39.高知県 40.福岡県 41.佐賀県 42.長崎県 43.熊本県 44.大分県 45.宮崎県 46.鹿児島県 47.沖縄県 48.国外(国名をお書きください:)
問5	本学以外で現在までに取得した学位(国内) (当てはまるものすべてに○をし、入学と卒業・修了の年を西暦で記入)	1.学士(分野:) 入学年: 年 / 卒業年: 年 2.修士(分野:) 入学年: 年 / 修了年: 年 3.博士(分野:) 入学年: 年 / 修了年: 年 4.本学以外で取得した学位はない
問6	海外で取得した学位	1.学位名() 2.取得した大学名() 3.取得国()
問7	現在までに取得した資格・免許(国内) (当てはまるものすべてに○)	1.看護師 2.保健師 3.助産師 4.医師 5.歯科医師 6.薬剤師 7.理学療法士 8.作業療法士 9.言語聴覚士 10.栄養士 11.養護教諭(1種) 12.養護教諭(2種) 13.受胎調節実地指導員 14.公認心理士/臨床心理士 15.専門看護師(分野:) 16.認定看護師(分野:) 17.NP・診療看護師(分野:) 18.特定看護師(分野:) 19.その他の資格・免許() 20.取得した資格・免許はない
問8	海外で取得した資格・免許	資格・免許() 取得国()
問9	過去3年以内の同窓会イベント(参加したものに○)	1.総会 2.支部総会 3.クラス委員連絡会 4.その他() 5.参加したものはなし

B.在学中に本学で受けた教育についてお尋ねします

看護基礎教育について

問 10. 卒業した看護基礎教育の課程に○をおつけください(卒業していない方は問 15 へお進みください)

入学した課程 (当てはまるものすべてに○)	1.聖路加女子専門学校 2.興健女子専門学校 3.聖路加短期大学 4.聖路加看護大学・聖路加国際大学 5.聖路加看護大学短大卒3年次編入 6.聖路加看護大学・聖路加国際大学2年次学士編入 7.聖路加国際大学3年次学士編入
卒業年	class of ()
卒業時の年齢	()歳

問 11. あなたの在学中の学習に対する姿勢についてお尋ねします。

各問いに、以下の5段階の中でもっともあてはまるものに○をおつけください。

	1.まったく そう思 わない	2.そう思 わない	3.どちら ともいえ ない	4.そう思 う	5.とても そう思う
1) 目標を立てて計画的に学習した	1	2	3	4	5
2) 予習・復習に積極的に取り組んだ	1	2	3	4	5
3) グループワーク・討議に積極的に取り組んだ	1	2	3	4	5
4) 実習または演習に積極的に取り組んだ	1	2	3	4	5
5) 教員に積極的に質問した	1	2	3	4	5
6) 図書やインターネットでの調査・学習に積極的に取り組んだ	1	2	3	4	5
7) 他 者に自分の意見や考えを伝える努力をした	1	2	3	4	5
8) 海外研修・短期留学などの活動に積極的に取り組んだ	1	2	3	4	5
9) 視野を広げる努力をした	1	2	3	4	5

問 12. 卒業時に以下に示すような知識・能力をどのくらい身につけることができましたか

各問いに、以下の5段階の中でもっともあてはまるものに○をおつけください。

	1.まったく そう思 わない	2.そう思 わない	3.どちら ともいえ ない	4.そう思 う	5.とても そう思う
1) キリスト教精神にもとづいて、あらゆる文化背景の人々を理解し、共感の態度を身につけた	1	2	3	4	5
2) 看護専門職としてリーダーシップを発揮し、協働する能力を身につけた	1	2	3	4	5
3) 幅広く学問を探究し、深く多角的に思考する力を身につけた	1	2	3	4	5
4) 看護を必要としている相手に対して、看護実践できる知識・技術・態度を身につけた	1	2	3	4	5
5) 生涯にわたり自己形成し、自律的、倫理的に行動する態度を身につけた	1	2	3	4	5
6) 国際的視点で人々が平等に健康を享受する社会の実現に貢献する姿勢を身につけた	1	2	3	4	5
7) 看護専門職・看護学の発展に寄与しようとする意欲を持つことができた	1	2	3	4	5

問 13. あなたが卒後のキャリアを築く上で在学中に学んだことはどのくらい役に立っていると思いますか。
各問いに、以下の 5 段階の中でもっともあてはまるものに○をおつけください。

	1. 履修し なかった	2. 全く役 に立って いない	3. あまり 役立って いない	4. や や 役立って いる	5. とても 役立って いる
1) 一般教養科目(キリスト教、語学、心理学、社会学等)	1	2	3	4	5
2) 基礎科目(栄養学、形態機能学(解剖生理学)、生涯 発達、生命倫理、セクシャルヘルス等)	1	2	3	4	5
3) 臨床系専門科目の講義(小児看護、母性看護、成人 看護、老年看護、精神看護、地域・在宅看護 等)	1	2	3	4	5
4) 臨床系専門科目の実習・演習	1	2	3	4	5
5) その他の専門科目(看護教育、看護管理、研究法等)	1	2	3	4	5
6) 卒業論文	1	2	3	4	5

問 14. あなたが在学中、特に意欲的に学べた科目と理由をお書きください(自由記述、複数回答可)

科目名または教員	
理由	

修士課程(博士前期課程)について

問 15. 修了した課程についてお答えください (修了していない方は問 20 へお進みください)

専攻	1.看護学専攻 2.ウィメンズヘルス・助産学専攻
コース	1.上級実践コース 2.修士論文コース
専門分野	() 例:助産学
在籍コース	1. 2年間コース 2. 3年間コース
修了年	西暦()年
修了時の年齢	()歳

問 16. あなたの在学中の学習に対する姿勢についてお尋ねします

各問いに、以下の 5 段階の中でもっともあてはまるものに○をおつけください。

	1. まった くそう思 わない	2. そう思 わない	3. どちら ともいえ ない	4. そう思 う	5. とても そう思う
1) 授業やプレゼンに積極的に取り組んだ	1	2	3	4	5
2) 資格取得または学位取得のための学習に積極的に取 り組んだ	1	2	3	4	5
3) 実習または演習や研究フィールドの開拓に積極的に取 り組んだ	1	2	3	4	5
4) 目標を立てて計画的に研究に取り組んだ	1	2	3	4	5
5) 学会誌等への論文投稿に積極的に取り組んだ	1	2	3	4	5
6) 学会・研究会等への参加に積極的に取り組んだ	1	2	3	4	5
7) 海外研修・短期留学などの活動に積極的に取り組んだ	1	2	3	4	5

問 17. 修了段階で以下に示すような知識・能力をどのくらい身につけることができたと思いますか

各問いに、以下の 5 段階の中でもっともあてはまるものに○をおつけください。

	1. まったく そう思 わない	2. そう思 わない	3. どちら ともいえ ない	4. そう思 う	5. とても そう思う
1) 看護学の指導者として必要な知識・能力を身につけた	1	2	3	4	5
2) 広い視野に立つ精深な学識を身につけた	1	2	3	4	5
3) 看護学の分野における研究能力を身につけた	1	2	3	4	5
4) 高度の専門性を要する看護実践に必要な能力を身につけた	1	2	3	4	5
5) 高度の専門性を要する看護教育に必要な能力を身につけた	1	2	3	4	5

問 18. あなたが修了後のキャリアを築く上で在学中に学んだことはどのくらい役に立っていると思いますか 各問いに、以下の 5 段階の中でもっともあてはまるものに○をおつけください。

	1. 履修し なかった	2. 全く役 に立って いない	3. あまり 役立って いない	4. や や 役立って いる	5. とても 役立って いる
1) 必修科目(看護学研究法・統計学・各分野の専門科目等)	1	2	3	4	5
2) 選択必修科目(専攻分野以外の特論・看護理論・看護倫理等)	1	2	3	4	5
3) 選択科目・特別講義	1	2	3	4	5
4) 実習・演習	1	2	3	4	5
5) 修士論文/課題研究	1	2	3	4	5

問 19. あなたが在学中、特に意欲的に学んだ科目をお書きください（自由記述、複数回答可）

科目名または教員名	
理由	

博士後期課程について

問 20. 修了した課程についてお答えください（修了していない方は問 25 へお進みください）

入学したコース	1. 研究者(PhD)コース 2. 論文博士
専攻分野	()
学位取得年	西暦 () 年
学位取得時の年齢	() 歳

問 21. あなたの在学中の学習に対する姿勢についてお尋ねします

各問いに、以下の 5 段階の中でもっともあてはまるものに○をおつけください。

	1. まったく そう思 わない	2. そう思 わない	3. どちら ともい えない	4. そう思 う	5. とても そう思 う
1) 授業やプレゼンに積極的に取り組んだ	1	2	3	4	5
2) 演習や研究フィールドの開拓に積極的に取り組んだ	1	2	3	4	5
3) 目標を立てて計画的に研究に取り組んだ	1	2	3	4	5
4) 学会誌等への論文投稿に積極的に取り組んだ	1	2	3	4	5
5) 学会・研究会等への参加に積極的に取り組んだ	1	2	3	4	5
6) 海外研修・短期留学などの活動に積極的に取り組んだ	1	2	3	4	5

問 22. 修了段階で以下に示すような知識・能力をどのくらい身につけることができましたか

各問いに、以下の 5 段階の中でもっともあてはまるものに○をおつけください。

	1. まったく そう思 わない	2. そう思 わない	3. どちら ともい えない	4. そう思 う	5. とても そう思 う
1) 看護学の指導者として必要な知識・能力を身につけた	1	2	3	4	5
2) 広い視野に立つ精深な学識を身につけた	1	2	3	4	5
3) 看護学の研究者として自立した研究活動およびその基礎となる豊かな学識を養うことができた	1	2	3	4	5

問 23. あなたが卒後のキャリアを築く上で在学中に学んだことはどのくらい役に立っていると思いますか

各問いに、以下の 5 段階の中でもっともあてはまるものに○をおつけください。

	1. 履修し なかった	2. 全く役 に立っ ていな い	3. あまり 役立っ ていな い	4. や や 役立っ てい る	5. とても 役立っ てい る
1) 基盤分野科目(理論看護学、看護学方法論等)	1	2	3	4	5
2) 専門分野科目(各専門分野科目)	1	2	3	4	5
3) 博士論文	1	2	3	4	5

問 24. あなたが在学中、特に意欲的に学べた科目をお書きください(自由記述、複数回答可)

科目名または教員名	
理由	

C.これまでのあなたの就業経験(キャリア)、社会的活動について

問 25. 本学を卒業・修了後から現在までに経験した収入を伴うお仕事についてお尋ねします。

下記表中に、働き始めた年月、やめた年月、勤務先の種類番号(下の表から 1 つ選択)、労働形態、海外勤務の場合は勤務先の国・都市名をご記入ください。回答欄が不足する場合は、余白または別紙に記入してください。

なお、本調査において「非常勤」は、嘱託勤務、派遣社員、契約社員、パート、アルバイト等も含むものとします。

	働き始めた 年月	やめた 年月	勤務先の種類 (下の枠を参照して該当する番号に○)	労働形態	(海外勤務の場合) 国・都市名
1	西暦 年月	西暦 年月	1・2・3・4・5・6・7・8・9・10・11・12・13・14 15(具体的に)	1. 常勤 2. 非常勤	
2	西暦 年月	西暦 年月	1・2・3・4・5・6・7・8・9・10・11・12・13・14 15(具体的に)	1. 常勤 2. 非常勤	
3	西暦 年月	西暦 年月	1・2・3・4・5・6・7・8・9・10・11・12・13・14 15(具体的に)	1. 常勤 2. 非常勤	
4	西暦 年月	西暦 年月	1・2・3・4・5・6・7・8・9・10・11・12・13・14 15(具体的に)	1. 常勤 2. 非常勤	
5	西暦 年月	西暦 年月	1・2・3・4・5・6・7・8・9・10・11・12・13・14 15(具体的に)	1. 常勤 2. 非常勤	
6	西暦 年月	西暦 年月	1・2・3・4・5・6・7・8・9・10・11・12・13・14 15(具体的に)	1. 常勤 2. 非常勤	
7	西暦 年月	西暦 年月	1・2・3・4・5・6・7・8・9・10・11・12・13・14 15(具体的に)	1. 常勤 2. 非常勤	
8	西暦 年月	西暦 年月	1・2・3・4・5・6・7・8・9・10・11・12・13・14 15(具体的に)	1. 常勤 2. 非常勤	

勤務先の種類

1.病院	2.診療所	3.助産所	4.訪問看護ステーション	5.福祉施設
6.小・中・高等学校	7.専門学校	8.短期大学	9.大学	
10.研究機関	11.官庁	12.地方自治体	13.国際機関	14.一般企業
15.その他				

問 26. 以下の職位のうちあなたが経験したことがあるもの全てに○をつけてください。

医療・福祉機関	1.看護部長(総婦長) 2.副院長 3.院長 4.施設長(訪問看護ステーション管理者,福祉施設等)
中等後教育機関(専門学校, 高等専門学校, 短期大学, 大学, 大学院)	5.教授 6.学科長・教務主任 7.学部長・研究科長 8.副学長・副総長 9.学長・総長・理事長
看護関連団体(学会, 職能団体等)	10.理事・委員長 11.副代表・副理事長 12.代表 理事長
初等・中等教育機関	13.副校長・教頭 14.校長
一般企業・団体	15.部長級以上の管理職 16.経営者・役員(社長・執行役・理事長・理事等)
官庁	17.課長級 18.部長級 19.局長級 20.事務次官 21.国会議員 22.政務三役
地方公共団体	23.課長級 24.部長級 25.局長級 26.副知事・副市長級 27.地方議会議員 28.首長
その他上記に相当するもの	29.(具体的に書いてください:)
	30.上記の職を経験したことはない

問 27. 本学を卒業・修了後から現在までに海外に3か月以上滞在して研修等を受講した経験についてお尋ねします。受講した研修等のうち主なもの3つまで、機関名(コース名)、国名、滞在期間をお書きください。

1)機関名(コース名) 国名 滞在期間 年 カ月

2)機関名(コース名) 国名 滞在期間 年 カ月

3)機関名(コース名) 国名 滞在期間 年 カ月

問 28. 国内外の学会活動についてうかがいます。これまでに所属したことがある学会のうち主なものを3つまでお書きください。

1) 学会

2) 学会

3) 学会

問 29. これまでの主な社会的貢献活動、ボランティア活動などについてお答えください。

活動の内容	活動した期間
	年 カ月

ご協力いただきまして誠にありがとうございました。

7.2. 資料 2 報告書（速報版）

報告書（速報版）

2020 年 12 月 15 日に同窓生向けに以下の報告書(速報版)を送付した

ご報告：卒業生動向調査結果（抜粋）

卒業生動向調査の概要

聖路加国際大学看護学教育の100周年を記念して、これまでの本学の教育と卒業生のその後の動向を検討するために、同窓会の協力を得て、本ワーキンググループが郵送調査を行いました。紙面の都合上、本報告書は同窓会の皆様に速報版として結果を抜粋してご報告させていただくものです。

2020年11月 卒業生動向調査ワーキンググループ

調査の対象：聖路加国際大学において看護教育・大学院教育を受けて卒業・修了した方のうち、同窓会に住所・氏名が登録されている者

調査の内容：回答者の属性、本学在学中に受けた教育内容、卒業後のキャリアの概要、他

回答方法：自記式質問紙またはインターネットアクセスによるウェブ調査を併用し、回答者が選択した方法

調査期間：2019年10月～2020年1月

回答件数：1,262名（郵送回答749名，ウェブ回答513名）

調査結果の公開：大学HP上に報告書を掲載（2021年1月公開予定）

1. 回答者の特性

年齢は、22歳～100歳にわたり、平均年齢（標準偏差）47.3(15.8)歳でした（図1）。本学の看護基礎教育課程を卒業した回答者は1,026名、うち「聖路加看護大学・聖路加国際大学」は804名（78.4%）でしたが、聖路加女子専門学校、興健女子専門学校、聖路加短期大学卒業生からの回答もいただきました。本学の博士前期課程（修士課程）修了者は326名（回答者中25.8%）、博士後期課程（博士課程）修了者は89名（回答者中7.1%）でした。

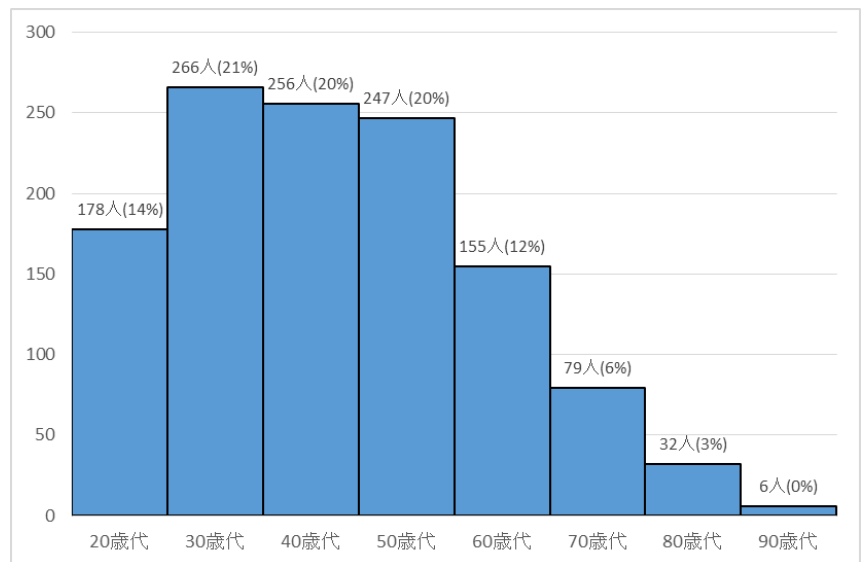


図1：回答者の年齢（無回答除く（n=1219））

2. 看護基礎教育卒業生が在学中に受けた教育

在学中の学習姿勢について、「(3) グループワーク・討議に積極的に取り組んだ」、「(4) 実習または演習に積極的に取り組んだ」、「(6) 図書やインターネットでの調査・学習に積極的に取り組んだ」等、7項目で「そう思う」または「とてもそう思う」と回答した者が半数を超えていました（図2）。これらを卒業課程別にみると、短大卒3年次編入、大卒2年次編入および3年次編入の回答者において「そう思う」または「とてもそう思う」と回答した者の割合が高い傾向がみられました。

「(8) 海外研修・短期留学などの活動

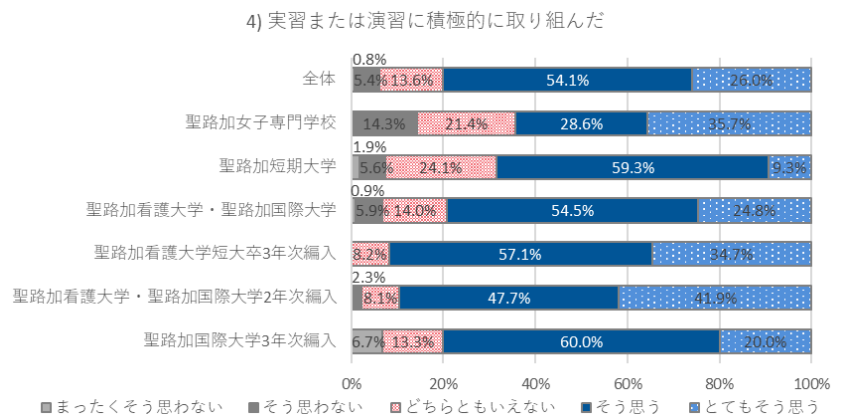


図2：看護基礎教育卒業生が在学中受けた教育（抜粋1）

に積極的に取り組んだ」、では、いずれの卒業課程でも「まったくそう思わない」または「そう思わない」と答えた者の割合が過半数でした(図 3)。本学では、多数の海外協定校への留学プログラムを行ってきたほか、現在は留学支援のための奨学金制度を設置しています。学生にとって海外での活動に取り組む機会は用意されていると言え、海外での活動に関する学習への姿勢も今後向上すると期待できます。

8) 海外研修・短期留学などの活動に積極的に取り組んだ

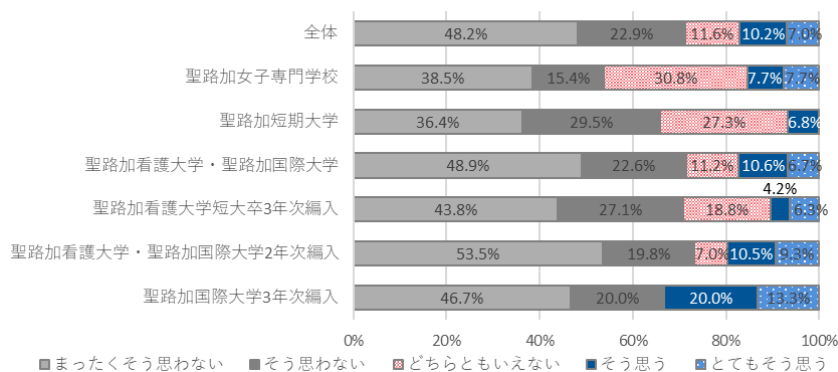


図3：看護基礎教育卒業生が在学中受けた教育（抜粋2）

3. 看護基礎教育卒業生が卒業時に身につけることができたと思う知識・能力

卒業時に身につけることができた能力として「1) キリスト教精神にもとづいて、あらゆる文化背景の人々を理解し、共感の態度を身につけた」をはじめとする諸項目において「そう思う」または「とてもそう思う」と回答した者が半数を超えました(図4)。在学中にこのような建学の精神が根付いていることの証左と思われます。

「6) 国際的視点で人々が平等に健康を享受する社会の実現に貢献する姿勢を身につけた」では、聖路加女子専門学校の卒業生を除くすべての卒業課程で「どちらともいえない」と回答した者の割合がもっとも多い結果となりました(図5)。実際に国際的活動をすることが国際的視点の広がりやケアの提供につながるとも考えられますが、在学中の学習に対する姿勢として海外研修等の活動の積極性が増すことにより、卒業時な国際的視点を身につけることができるのではないかと示唆されます。

1) キリスト教精神にもとづいて、あらゆる文化背景の人々を理解し、共

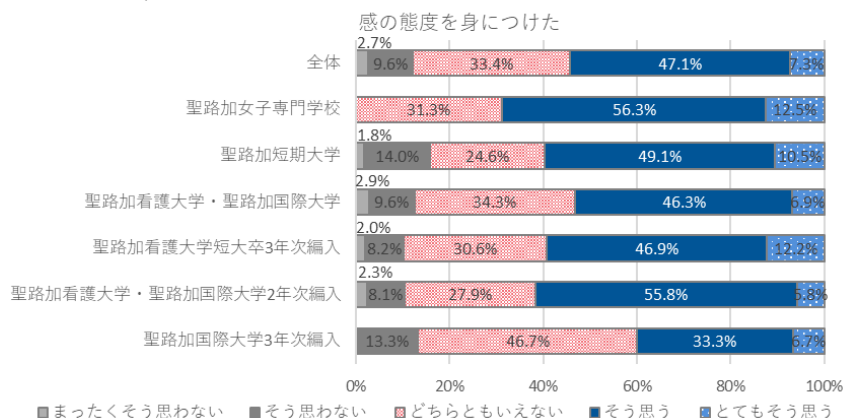


図4：看護基礎教育卒業生が卒業時に身につけることができたと思う知識・能力（抜粋1）

6) 国際的視点で人々が平等に健康を享受する社会の実現に貢献する姿勢を身につけた

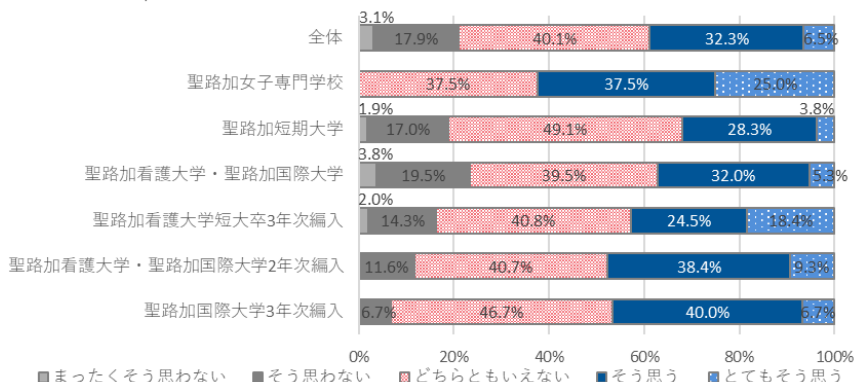


図5：看護基礎教育卒業生が卒業時に身につけることができたと思う知識・能力（抜粋2）

4. 看護基礎教育卒業生が卒後のキャリアを築くうえで役に立っている学び

回答者全体の過半数が「とても役立っている」と回答した教育内容は、「3) 臨床系専門科目の講義」および「4) 臨床系専門科目の実習・演習」であり（図6）、看護を教育する本学の特徴が表れたと考えられます。また、「やや役立っている」も加えると、臨床系以外の科目を含めすべてで半数を超えていました。

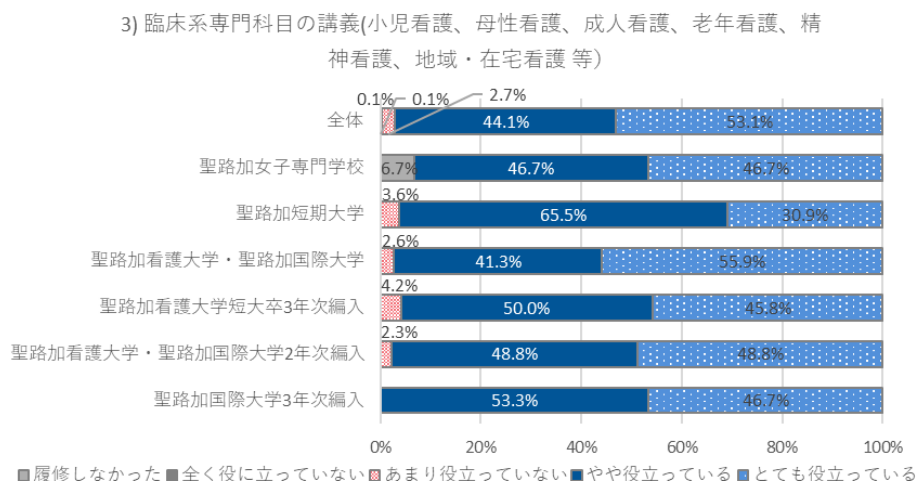


図6：看護基礎教育卒業生が卒後のキャリアを築くうえで役に立っている学び（抜粋）

5. 修士課程修了生の回答者特性

修士課程修了時の年齢は30歳代が40.2%で最も多く、先行報告（「1980-2000年まで大学院修了生の動向調査」小澤道子ほか、聖路加看護大学紀要、2003）の結果と同様の傾向がみられました。続いて40歳代35.9%、50歳代18.4%、20歳代2.2%の順であった先行報告に比べ、本調査では20歳代の増加が目立っています（図7）。これはウィメンズヘルス・助産学専攻、公衆衛生看護学専攻（保健師受験資格取得）の資格取得と関連したコースの開設と関係しています。

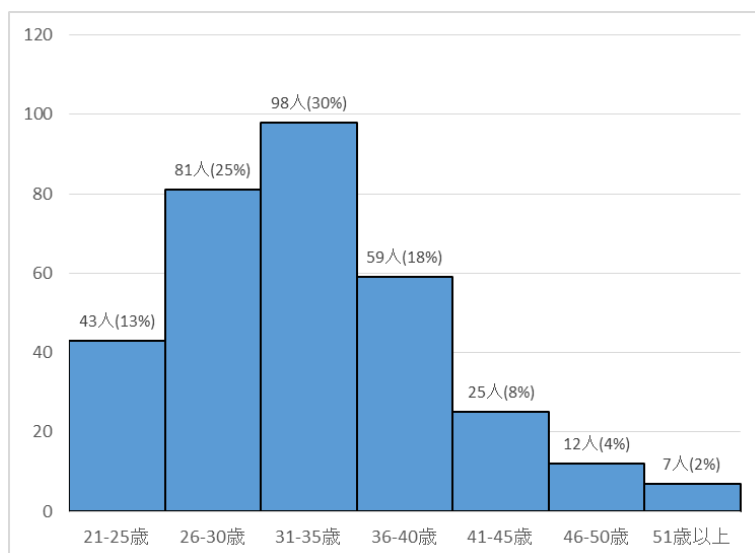


図7：本学修士課程修了時の年齢（無回答除く、n=325）

6. 博士課程修了生の回答者特性

博士課程修了時の平均年齢は、41.8歳で、40歳代が、47.1%と最も多く、先行報告（「1980-2000年まで大学院修了生の動向調査」小澤道子ほか、聖路加看護大学紀要、2003）の結果と同様の傾向がみられました。続いて30歳代は37.6%であり、先行報告が50歳代30.0%、30歳代20.0%という順であったのと比較して30歳代が増加傾向でした（図8）。

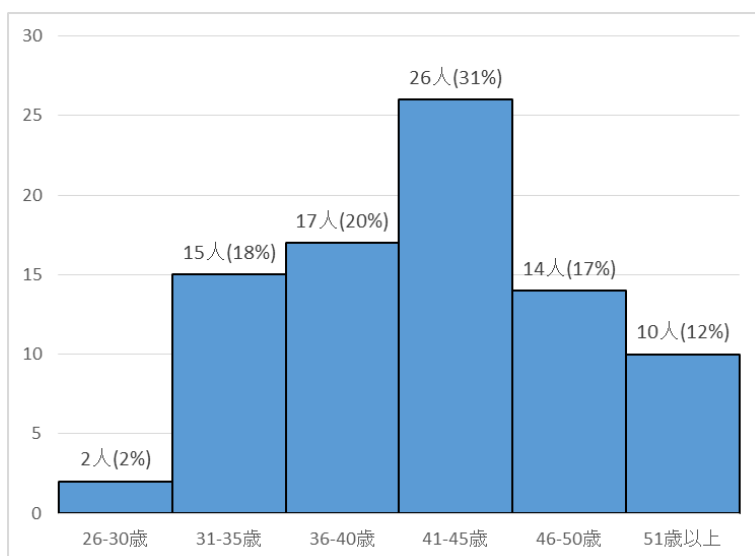


図8：本学博士課程修了時の年齢（無回答除く、n=84）

7. 卒業後のキャリア（就業経験）

卒後3年時点で就労を継続している者は2000年以降の卒業者群94.1%、1999年までに卒業した群84.7%、1979年までに卒業した群82.1%でした。そのうち「医療・福祉臨床」の常勤職に就いている者が最も多いことは各卒業年代に共通していました。しかし卒業の年代が新しいほど、臨床現場に就いている傾向が高くなりました。

卒業後5年時点における仕事の種類はどの群においても、「医療・福祉臨床」が多かったのですが、卒後3年時点よりも減少しており、卒業の年代が古いほど少ないという傾向がみられました。

卒業後10年時点においても変化の傾向は同様で、「医療・福祉臨床」の常勤職が減少し、他の職種、特に「看護教育・研究機関」で働く者、無職の者が増加していました。

各時点を通じた傾向として、卒業年次が新しい群ほど、無職者が少なく、初職を継続している者の割合が高いことがわかりました（表1）。

表 1 基礎教育卒業3年後、5年後、10年後の職種・勤務形態の分布

		～1979 卒				1980～1999 卒				2000 年以降卒			
		常勤		非常勤		常勤		非常勤		常勤		非常勤	
卒業直後	医療・福祉臨床	105	(57.1%)	5	(2.7%)	272	(80.0%)	1	(0.3%)	359	(80.3%)	3	(0.7%)
	行政・公的機関	3	(1.6%)	0	(0.0%)	1	(0.3%)	0	(0.0%)	3	(0.7%)	2	(0.4%)
	小中高校	6	(3.3%)	0	(0.0%)	5	(1.5%)	0	(0.0%)	13	(2.9%)	1	(0.2%)
	看護教育・研究機関	3	(1.6%)	0	(0.0%)	19	(5.6%)	0	(0.0%)	4	(0.9%)	1	(0.2%)
	一般企業	9	(4.9%)	0	(0.0%)	11	(3.2%)	0	(0.0%)	0	(0.0%)	1	(0.2%)
	その他	1	(0.5%)	0	(0.0%)	0	(0.0%)	0	(0.0%)	0	(0.0%)	1	(0.2%)
	無職(進学含む)	51	(27.7%)			30	(8.8%)			58	(13.0%)		
	合計	144	(78.3%)	3	(1.6%)	281	(82.6%)	5	(1.5%)	318	(89.3%)	16	(4.5%)
3 年後	医療・福祉臨床	73	(39.7%)	1	(0.5%)	204	(60.0%)	2	(0.6%)	286	(80.3%)	8	(2.2%)
	行政・公的機関	17	(9.2%)	0	(0.0%)	5	(1.5%)	1	(0.3%)	6	(1.7%)	2	(0.6%)
	小中高校	24	(13.0%)	0	(0.0%)	14	(4.1%)	0	(0.0%)	2	(0.6%)	1	(0.3%)
	看護教育・研究機関	16	(8.7%)	2	(1.1%)	36	(10.6%)	0	(0.0%)	16	(4.5%)	1	(0.3%)
	一般企業	13	(7.1%)	0	(0.0%)	20	(5.9%)	1	(0.3%)	7	(2.0%)	3	(0.8%)
	その他	1	(0.5%)	0	(0.0%)	2	(0.6%)	1	(0.3%)	1	(0.3%)	1	(0.3%)
	初職と同じ	95	(51.6%)			219	(64.4%)			289	(81.2%)		
	無職	33	(17.9%)	0	(0.0%)	52	(15.3%)	0	(0.0%)	21	(5.9%)	0	(0.0%)
5 年後	医療・福祉臨床	43	(23.4%)	2	(1.1%)	145	(42.6%)	6	(1.8%)	195	(64.4%)	19	(6.3%)
	行政・公的機関	16	(8.7%)	2	(1.1%)	6	(1.8%)	3	(0.9%)	8	(2.6%)	1	(0.3%)
	小中高校	28	(15.2%)	2	(1.1%)	31	(9.1%)	2	(0.6%)	2	(0.7%)	2	(0.7%)
	看護教育・研究機関	18	(9.8%)	2	(1.1%)	40	(11.8%)	5	(1.5%)	12	(4.0%)	1	(0.3%)
	一般企業	9	(4.9%)	0	(0.0%)	18	(5.3%)	6	(1.8%)	10	(3.3%)	2	(0.7%)
	その他	1	(0.5%)	0	(0.0%)	2	(0.6%)	0	(0.0%)	2	(0.7%)	1	(0.3%)
	初職と同じ	51	(27.7%)			130	(38.2%)			169	(55.8%)		
	無職	56	(30.4%)	0	(0.0%)	74	(21.8%)	0	(0.0%)	39	(12.9%)	0	(0.0%)
10 年後	医療・福祉臨床	21	(11.4%)	4	(2.2%)	82	(24.1%)	12	(3.5%)	92	(46.0%)	10	(5.0%)
	行政・公的機関	9	(4.9%)	2	(1.1%)	9	(2.6%)	1	(0.3%)	6	(3.0%)	0	(0.0%)
	小中高校	22	(12.0%)	2	(1.1%)	41	(12.1%)	6	(1.8%)	10	(5.0%)	2	(1.0%)
	看護教育・研究機関	27	(14.7%)	4	(2.2%)	51	(15.0%)	9	(2.6%)	16	(8.0%)	3	(1.5%)
	一般企業	3	(1.6%)	0	(0.0%)	21	(6.2%)	6	(1.8%)	9	(4.5%)	4	(2.0%)
	その他	1	(0.5%)	3	(1.6%)	6	(1.8%)	3	(0.9%)	1	(0.5%)	0	(0.0%)
	初職と同じ	18	(9.8%)			54	(15.9%)			59	(29.5%)		
	無職	84	(45.7%)	0	(0.0%)	87	(25.6%)	0	(0.0%)	38	(19.0%)	0	(0.0%)

※ 聖路加国際大学紀要 Vol.7 に投稿中の研究報告「聖路加国際大学卒業生のキャリアの傾向と年次推移 ―聖路加国際大学看護教育100周年記念卒業生動向調査から」（米倉ほか）の内容を一部編集して掲載

※本紙における報告は、全調査結果のごく一部分を抜粋したものです。

詳細は大学 HP 掲載予定の報告書をご覧ください。

以上

7.3. 資料3 聖路加国際大学における校名・看護教育課程の変遷と卒業・修了生数

資料3 本学看護教育課程の卒業・修了生累積数（2019年3月時点）

	開始年月	校名・教育課程名	卒業・ 修了年	卒業・ 修了生数
看護基礎教育課程	1920.10 開設	聖路加国際病院付属高等看護婦学校	1923～1929	64
	1927.4 設置	聖路加女子専門学校	1930～1941.3	154
	1930.4 開講	聖路加女子専門学校研究科	1931～1938	56
	1941.7 校名変更	興健女子専門学校	1941.12～1945	77
	1941.7 設置	興健女子専門学校別科	1943～1945	25
	1945.12 校名変更	聖路加女子専門学校	1947～1956	242
	1947.4 開講	聖路加女子専門学校研究科	1948～1949	29
	1954.4 設置	聖路加短期大学	1957～1966	303
	1958.4 開講	聖路加短期大学専攻科	1959～1967	131
	1964.4 設置	聖路加看護大学	1968～2019	3,560
	1976.4 開始	短大卒編入制度		
	1997.4 開始	学士2年次編入制度		
	2014.4 校名変更	聖路加国際大学		
	2017.4 開始	学士3年次編入制度		
大学院	1980.4 設置	聖路加国際（看護）大学看護学研究科 修士課程看護学専攻	1982～2019	679
	2005.4 設置	聖路加国際（看護）大学看護学研究科 修士課程ウイメンズヘルス・助産学専攻	2007～2019	203
	1988.4 設置	聖路加国際（看護）大学看護学研究科 博士課程	1992～2019	174
（合計）				5,697

聖路加国際大学紀要 Vol.7

2021 年 3 月

聖路加国際大学卒業生のキャリアの傾向と年次推移—
聖路加国際大学看護教育 100 周年記念卒業生動向調査から

米倉 佑貴 新沼 久美 森 明子 森田 誠子 穴戸 恵理 本郷 一真 永瀬 能央 石岡 擁二郎
亀井 智子

<http://doi.org/10.34414/00016396>

8. おわりに

2020 年は聖路加国際大学が看護教育を開始して 100 年を迎える節目の年となった。本学は、1920 年の開学以来、看護界を常にリードし、国内外の看護・保健分野の発展に貢献し続けている。この背景には、聖路加国際大学での深い学びを経て、卒業・修了した方々が、全国各地で、また海外を含めグローバルに、看護の実践・研究・教育・行政などに携わり活躍し続けていることがあげられる。今回の調査から、この看護教育の 100 年を振り返り、学び舎の卒業後の動向、在学中の学修、そして卒業・修了後のキャリアパスの実態を把握することができた。これからの卒業・修了生の活躍が広がることを祈念している。

最後に、この調査は大学と聖路加同窓会の緊密な連携により実施することができた。関係者、そして回答をお寄せくださった同窓生の皆様に深く感謝申し上げます。

2020 年 10 月 27 日

2019 年度～2020 年度聖路加国際大学卒業生動向調査ワーキンググループ

聖路加国際大学看護教育 100 周年記念事業 卒業生動向調査 調査結果報告書

発行:2021年2月

制作:卒業生動向調査ワーキンググループ

発行者:学校法人 聖路加国際大学

〒104-0044 東京都中央区明石町 10-1

03(3543)6391(代表)

2019 年度～2020 年度聖路加国際大学卒業生動向調査ワーキンググループ

亀井智子、森明子、米倉佑貴、森田誠子、宍戸恵理

本郷一真、永瀬能央、石岡擁二郎、高鳥直人、新沼久美